

文学

※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 内藤俊人

科目コード：HUM201

専門/学年 全専門/2年次

開講年限/形態：半期/講義

単位数：2単位

概要 文学作品の理解には、その作品が生み出された歴史的・社会的な背景を知る必要がある。この授業では、19世紀フランスの代表的な作家をとりあげ、彼らが自分たちの生きている時代をどのようにとらえ、その中からどういう新しい価値を持つ作品を創りあげていったのかを考察する。19世紀の歴史や文学についての知識は、同じ時代の音楽作品の理解にも役立つだろう。

到達目標 19世紀の歴史や文化、そして芸術について学びながら、小説や詩を理解するためのいろいろな知識を身につける。

授業計画

第1回	古典主義からロマン主義へ	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 事後 18、19世紀ヨーロッパの文化史の大きな流れについて整理する。	120分 150分
第2回	スタンダールの恋愛論	事前 配布するプリントでスタンダールの作品の抜粋を読んでおくこと。 事後 文学におけるロマン主義について整理する。	120分 150分
第3回	『夜のガスバール』について	事前 ラヴェル『夜のガスバール』について調べる。 事後 配布するプリントでベルトラン『夜のガスバール』の抜粋を読む。	120分 150分
第4回	『幻想交響曲』とロマン主義	事前 ベルリオーズ『幻想交響曲』について調べておくこと。 事後 さまざまなジャンルの芸術におけるロマン主義の展開について整理する。	120分 150分
第5回	ロマン主義からリアリズムへ	事前 19世紀前半のヨーロッパの歴史について調べておくこと。 事後 リアリズムの特徴について整理する。	120分 150分
第6回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（前半）	事前 配布するプリントでデュマ・フィスの小説『椿姫』のあらすじを読んでおくこと。 事後 教室で観るデュマ・フィス『椿姫』の映像について感想をまとめる。	120分 150分
第7回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（後半）	事前 配布するプリントでオペラ作品の構成について理解しておく。 事後 ヴェルディ『ラ・トラヴィアータ』の映像を YouTube 等で視聴する。	120分 150分
第8回	小説に描かれた不倫	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 事後 フローベール『ボヴァリー夫人』（河出文庫など）を読んでみる。	120分 150分
第9回	ボードレールとパリ	事前 配布するプリントでボードレールの詩の抜粋を読んでおくこと。 事後 ボードレール『パリの憂鬱』（岩波文庫など）を読む。	120分 150分
第10回	ゾラとパリ	事前 配布するプリントでゾラの小説『獲物の分け前』の抜粋を読んでおくこと。 事後 ゾラが小説で描いた頃のパリの、ファッションや街の姿を写真や文献で調べる。	120分 150分
第11回	19世紀から見た未来世界	事前 配布するプリントでアルベール・ロビダの小説『20世紀』の抜粋を読んでおくこと。 事後 アルベール・ロビダとジュール・ヴェルヌのSF作品についてさらに調べる。	120分 150分
第12回	象徴主義と芸術	事前 ヴェルレーヌの詩による歌曲にどのようなものがあるか調べる。 事後 さまざまなジャンルの芸術における象徴主義の展開について整理する。	120分 150分
第13回	マラルメとドビュッシー	事前 ドビュッシーの作品『牧神の午後への前奏曲』について調べておく。 事後 ニジンスキー振り付けのバレエ『牧神の午後』の映像を YouTube 等で観ること。	120分 150分
第14回	ベル・エポック期の文化と社会	事前 配布するプリントでジャン・コクトーの作品の抜粋を読んでおくこと。 事後 エリック・サティとジャン・コクトーについて調べる。	120分 150分
第15回	まとめ	事前 今学期の講義のノートを見直しておくこと。 事後 理解が不十分だった点について調べること。	120分 150分

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末に提出するレポート 60%と授業への取り組み方 40%とによる。

テキスト 教科書は特に用いないが、教室で必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

哲学

非常勤講師 東風安生

科目コード：HUM202

専門/学年：全専門/2年次

形態：演習

単位数：2単位

概要 哲学とは、世界や人間についての知恵、原理を探究する学問のことである。特に哲学の概要を、世界史の流れと共に、大きくギリシア哲学、経験論と合理論、民主主義、批判哲学と弁証法などに大別して学んでいく。
また、現代社会の課題を解決するヒントとなる視点が、哲学に隠されている点に興味・関心がもてるようにする。

到達目標 哲学の原理や意義等を踏まえ、現代社会に至るまでの哲学思想の流れをつかみ、現代人の思考を理解する。
1) クリティカル・シンキングの視点をもつことができるようになる。
2) 多様性の意義を理解し、民主主義社会に生きる一員として合意形成の大切さと市民性の価値を理解できるようになる。

授業計画		事前	事後	単位数
第1回	オリエンテーション 現代社会におけるパンデミックの課題と解決の方向性	コロナ禍で現在困っていることをワークシートに記述する	現代社会において解決の方向としてどのような考え方を人々がすることで道が拓けていくか、考えたことをワークシートにまとめる。	90分 180分
第2回	現代社会における自然環境保全と経済開発の葛藤	これまで自然環境を保護する視点で学んだことを整理して、記述する。	経済開発と環境保全は二項対立なのか、両者はともに歩めるのか、自分の論に立脚した主張ができる。	90分 180分
第3回	現代社会における伝統文化の継承とAI人工知能の開発	これまで人工知能や情報社会におけるデジタルデバイスなどの有効性について整理して、記述する。	伝統文化を継承していくことと人工知能が人間と共に生きていく社会は、並立するか考えをまとめる。	90分 180分
第4回	現代社会における健康寿命とよりよく生きる課題	高齢社会における寿命は長ければ長いほどよいのかどうか、課題点をまとめる。	寿命を延ばすだけでなくよりよく生きることへの価値観を高める必要性についてまとめる。	90分 180分
第5回	古代ギリシア哲学におけるタレスの思想	教科書を通して、タレスの思想について学んでおく。	タレスの思想をふりかえり、これまで学んだ現代社会の課題を解決できる糸口を探す。	90分 180分
第6回	古代ギリシア哲学におけるソクラテスの思想	教科書を通して、ソクラテスの思想について学んでおく。	ソクラテスの思想をふりかえり、これまで学んだ現代社会の課題を解決できる糸口を探す。	90分 180分
第7回	古代ギリシア哲学におけるプラトンの思想	教科書を通して、プラトンの思想について学んでおく。	プラトンの思想をふりかえり、これまで学んだ現代社会の課題を解決できる糸口を探す。	60分 210分
第8回	古代ギリシア哲学におけるアリストテレスの思想	教科書を通して、アリストテレスの思想について学んでおく。	アリストテレスの思想をふりかえり、これまで学んだ現代社会の課題を解決できる糸口を探す。	60分 210分
第9回	宗教と哲学	教科書を通して、宗教が政治や社会に与えた功罪をふりかえる。	学生として宗教に対して、どのような距離をとって接していくかを整理する。	30分 240分
第10回	近代科学の誕生と経験論・合理論	教科書を通して、近代課題の誕生と共に現れた経験論や合理論についてふりかえる。	経験論や合理論を用いて、これまで学んだ現代社会の課題を解決できる糸口を探す。	60分 210分
第11回	間接民主主義とロックの思想	教科書を通して、近代社会の間接民主主義とジョン・ロックの思想をふりかえる。	ロックの思想が、現代社会における民主主義や社会問題の解決にどのように影響しているか説明できるようにする。	60分 210分
第12回	社会契約論とルソーの思想	教科書を通して、近代社会の直接民主主義とジャンジャック・ルソーの思想をふりかえる。	ルソーの思想が、現代社会における民主主義や社会問題の解決にどのように影響しているか説明できるようにする。	240分 30分
第13回	人間の理性とカントの思想	教科書を通して、カントを代表とする批判哲学の思想についてふりかえる。	カントの思想が、現代社会における民主主義や社会問題の解決にどのように影響しているか説明できるようにする。	30分 240分
第14回	弁証法とヘーゲルの思想	教科書を通して、ヘーゲルとその弁証法についてふりかえる。	ヘーゲルの思想が、現代社会における民主主義や社会問題の解決にどのように影響しているか説明できるようにする。	60分 210分
第15回	現代社会における課題解決に向けた哲学思想の活用	教科書を通して、これまで学んできた思想をふりかえる。	現代社会の様々な課題の解決に、それぞれの思想や哲学者の考え方をどのように生かすよいか説明できるようにする。	60分 210分

フィードバック 毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4点、「A」3点、「B」2点、「C」1点として成績評価に加える。

成績評価 筆記試験（期末）50%
ミニットペーパー50%（ミニットペーパーをフィードバックした評価について、よい成績のものを10回分加点する）
テキスト 【教科書】東風安生著『哲学の時間－考える力』が必ず身につく15講義』（22世紀アート）¥800（電子書籍）
【参考書】NHK 高校講座「ロソリのちから」（NHK ホームページサイトよりアクセス）

オフィスアワー 質問等がある場合は、授業の終了後に教室において対応する。

アクティブ・ラーニング 現代社会で課題となっている事案を数多く出して、ブレインストーミングを行うためには、グループ活動が必要となる。また、哲学者の思想を多面的に理解するためには、いくつかの考え方について多面的に調べてこれをまとめる必要がある。そこで、ある思想家の論文をいくつか用意して、これについてジグソー法を用いて、話し合うことで、中身を広く深く学ぶことができる。

備考 PCを講義の機会に持参することがのぞましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

法学（日本国憲法）

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 橋本阿友子

科目コード：SOC101

専門／学年：全専門／1～2年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 日本国憲法について、制定経緯、各規定の意味、憲法以外の法との関係との体系を学ぶ。

- 到達目標
1. 日本国憲法に規定されている人権の基礎的な知識を習得する。前提として、憲法の精神を理解する。
 2. 選挙制度について正しい知識を身に着ける。
 3. 社会問題に興味を持ち、自身の見解を持つ。

回	内容	事前	事後	点
第1回	導入：日本国憲法の制定経緯、位置づけ	日本国憲法についての既存の知識をまとめる。	事前課題と講義の内容を比較し、講義内容を復習する。	120分 150分
第2回	法体系：憲法、法律、条例、省令、判例、契約	憲法、法律、条令、省令、判例、条約の関係について考察する。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第3回	憲法の規定事項：人権と統治	日本国憲法の条文を確認する。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第4回	基本的人権：幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権・平等権について、既存の知識をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第5回	基本的人権：精神的自由（特に表現の自由）	精神的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第6回	基本的人権：経済的自由	経済的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第7回	基本的人権：身体的自由	身体的自由に関連する人権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第8回	基本的人権：社会権	社会権について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第9回	基本的人権：参政権ほか	参政権に関連する権利について、自分の知る範囲で権利を書き出してみる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第10回	統治：選挙制度	選挙制度についてまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第11回	社会問題：非嫡出子、夫婦別姓、同性婚	非嫡出子、夫婦別姓、同性婚について、問題となっている論点をまとめる。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第12回	社会問題：子供の権利、外国人の権利	子供の権利、外国人の権利はどの程度保障されているか、検討する。	講義レジュメの内容を復習する。	120分 150分
第13回	社会問題：一票の較差	一票の較差とは何かを調べ、現在の選挙に関する較差につき自身の見解を検討する。	講義レジュメを復習する。	120分 150分
第14回	社会問題：裁判員裁判、死刑制度	裁判員裁判について調べておく。死刑制度についての自身の見解をまとめる。	講義レジュメを復習する。	120分 150分
第15回	講義の復習	これまでの講義を振り返り、全体を復習する。	講義レジュメを復習する。	120分 150分

フィードバック 授業内での解説

成績評価 試験 100%

テキスト レジュメを講義時に配布する。それ以外のテキストがあれば、講義内で指定する。

オフィスアワー 質問等は随時メールにて受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

社会学

※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 上羅廣

科目コード：SOC201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 自分を時代や社会全体の中に位置づけ、自分がどのような存在として社会に生きているのかを認識し、その上で現代の社会現象とその問題点を把握する。さらに、短大で音楽を学んでいるので音楽社会学の一端を紹介しておきたい。

到達目標 私たちは社会の中で、他の人々と関わり合いながら生活を営んでいる。自分がどのように他者とつながりながら社会を構成しているのかを、できるだけ具体的に理解することを目標とする。

授業計画		「社会の中の自分」	
第 1 回	社会学とは何か。～社会学のイメージづくり	事前 中学・高校の社会科で学習した内容を思い出し、整理する。 事後 講義内容を復習する。	110 分 160 分
第 2 回	今、私たちにとって何が問題か？	事前 自分にとって、最も問題なことについて考えてくる。 事後 みんなが提起した問題について考える。	110 分 160 分
第 3 回	環境と社会①自分にとって環境問題とは。	事前 環境問題について調べてくる。 事後 自分にとっての環境問題とは何か、考える。	110 分 160 分
第 4 回	②SDGs な生活とは何か。	事前 SDGs について知らせてくる。 事後 どんなことが考えられるか、事例の中で考える。	110 分 160 分
第 5 回	ジェンダーと社会	事前 ジェンダーとは何か、調べてくる。 事後 ジェンダーの意味・その現実についての理解を深める。	110 分 160 分
第 6 回	家族と社会①家族の構造と機能、その変容	事前 家族のしくみとはたつきについて調べてくる。 事後 かぞくのしくみやはたらきが何によって構成されているのか、理解する。	110 分 160 分
第 7 回	家族と社会②少子・高齢化	事前 身近に生じている少子化や高齢化の実例を探してくる。 事後 少子・高齢化のしくみについて理解する。	110 分 160 分
第 8 回	家族と社会③未婚化・単身世帯の増加	事前 未婚化の実例について考えてくる。また、単身世帯の種類についても考えてくる。 事後 未婚化や単身世帯の増加の原因・しくみについて理解する。	110 分 160 分
第 9 回	地域と社会①自分の住む地域の生活関係を理解する	事前 自分の生活の中で、地域と関係していることを探してくる。 事後 具体的に地域の中でどのように生活の関係が存在するのか理解する。	110 分 160 分
第 10 回	地域と社会②地域社会の構成	事前 地域社会の形成とその種類について調べてくる。 事後 地域社会の種類が歴史やその社会とどのようにかかわっているのか理解する。	110 分 160 分
第 11 回	音楽社会学概説 1～ウェーバーとジルバーマン、その他	事前 「音楽社会学」という用語を簡単に調べてくる。 事後 方法の違いについて認識する。	110 分 160 分
第 12 回	音楽社会学概説 2～アドルノ	事前 T. W アドルノについて簡単に調べてくる。 事後 アドルノの「音楽に対する態度の類型」について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	音楽社会学概説 3～日本における西洋音楽導入期の社会と音楽	事前 中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫IV、Vを読んでくる。 事後 西洋音楽導入期の日本社会の音楽事情を理解し認識する。	110 分 160 分
第 14 回	音楽社会学概説 4～日本における西洋音楽導入期のピアニスト	事前 中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』VI、VII、VIII、IXを読んでくる。 事後 西洋音楽導入期のピアニストの運命を理解する。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 講義全体を振り返り、疑問の点を列挙してくる。 事後 全体講義を整理し、それぞれの考え方を理解する。	110 分 160 分

フィードバック 小テストなどについてコメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、試験、レポートなどを総合的に評価する。定期テスト 60%、小テスト 10%、課題 10%、授業態度 20%

テキスト 使用せず。参考文献、中村絃子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫

オフィスアワー E メールにて随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：NAT201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	心理学とは、自分も含めた人間の意識や行動の機能・機序を科学的に解明しようとする学問であり、広範な応用領域をもちつつ、学際領域にも貢献している。その素養は、芸術や教育、セラピーを学ぶ学生には欠かせないものと言える。

到達目標	授業目標は、基礎心理学を中心として、心理学全般にわたる大要を把握することである。
------	--

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：心理学とはなにか～定義・歴史・領域	事前 教科書はしがきを読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 2 回	心理学の研究方法	事前 プリント 1 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 3 回	感覚の一般特性	事前 教科書第 1 章第 1 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 4 回	知覚～視知覚を中心に	事前 教科書第 1 章第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 5 回	記憶～感覚記憶、短期記憶	事前 教科書第 2 章 1, 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 6 回	記憶～長期記憶と知識表象	事前 教科書第 2 章 2, 3 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 7 回	知能～種々の理論	事前 教科書第 7 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 8 回	感情と欲求・動機づけ（1）～感情・情動	事前 教科書第 5 章第 1 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 9 回	感情と欲求・動機づけ（2）～欲求と動機づけ	事前 教科書第 5 章第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 10 回	パーソナリティ（1）～性格の理論	事前 教科書第 8 章 3 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 11 回	パーソナリティ（2）～性格の形成	事前 教科書第 8 章 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 12 回	社会～対人認知と対人行動	事前 教科書第 10 章 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 13 回	社会～個人と集団	事前 プリント 2 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 60 分
第 14 回	文化と心理	事前 プリント 3 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく 40 分
第 15 回	まとめ	事前 授業ノート全体を見直しておく 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る 80 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と授業態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 相馬寿明（編著）『心理学 For you』八千代出版
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 この授業では基礎心理学を中心に、知能や感情、対人心理についても学ぶので、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

音楽心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義

単位数：2単位

概要 音楽心理学とは、音楽に関係した人間の行動とそれに伴う精神活動についての心理学である。音楽は、まず音として知覚され、構造をもつ「音楽」として認知（理解や記憶など）をされる対象であり、音楽聴取（および演奏）にはこの知覚と認知の二過程が必然的に含まれる。また、人は音楽の表現の中に美しさ、楽しさ、悲しさ、勇敢さなど様々な感情を感じ取ると共に、自分自身の中に強く深い情動をも喚起する。それはなぜか？その機序はどこまで分かったのかについて、最新の知見を講じる。

到達目標 授業の目標は、知覚や認知対象としての音楽について学び、そこから感情の喚起がどのように発生するかの仕組みにも関心を寄せつつ、聴取、演奏における心理学的原理ならびに音楽的発達の道筋を理解する。

授業計画

第1回	オリエンテーション：講義の目的・内容・進め方など	事前 教科書はしがきを読む 事後 授業ノートを見直しておく	20分 60分
第2回	音楽心理学の歴史と方法	事前 教科書第1章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第3回	音楽の多様な機能	事前 教科書第1章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第4回	音楽の知覚（1）音高・絶対音感・協和感	事前 教科書第2章「音楽と音響」を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第5回	音楽の知覚（2）音の大きさ、音色	事前 教科書第3章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第6回	音楽の認知（1）メロディの認知	事前 教科書第4章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第7回	音楽の認知（2）リズムの認知	事前 教科書第4章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第8回	音楽の記憶	事前 教科書第5章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第9回	音楽と一般認知能力：「モーツァルト効果」	事前 教科書第6章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第10回	音楽的感情の知覚	事前 教科書第7章の前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第11回	音楽と感情の喚起	事前 教科書第7章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第12回	音楽的感情についての諸理論	事前 教科書第7章全体を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第13回	音楽行動の発達（1）乳幼児期	事前 教科書第8章を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第14回	音楽行動の発達（2）児童・青年・成人期	事前 教科書第8章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく	40分 60分
第15回	まとめ（音楽の進化心理学と音楽の意味）	事前 授業ノートを見直しておく 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る	80分 20分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

生理学

非常勤講師 鈴木郁子

科目コード NAT102

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 人間の身体の仕組みについて、基礎を学習する。生体の恒常性を維持するための呼吸、循環、消化などの生理機能を理解すると共に、人間が自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応しているかについて学習する。

到達目標 人間と環境、脳・呼吸・循環・代謝などに関する基礎を学び、生体の恒常性を維持する仕組みについて理解できること、また人間の環境適応のメカニズムについて理解できることを到達目標とする。

授業計画

第 1 回	人間と自然環境、人間と植物・動物・微生物	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「人間の特殊性、命の循環」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 2 回	人間の特徴、変化する環境への適応	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 事後 「変化する環境への適応」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 3 回	命の誕生、心身の発達と環境	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「ライフサイクル」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 4 回	感覚・運動機能と発達	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「感覚・運動機能と発達」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 5 回	脳と保育	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「脳と保育」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 6 回	心身の健康	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 事後 「心身の健康」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 7 回	呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 8 回	消化吸収	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「消化吸収」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 9 回	神経の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「神経の働き」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 10 回	体温調節とサーカディアンリズム	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体温調節とサーカディアンリズム」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 11 回	体液の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体液の働き」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 12 回	体性感覚・特殊感覚	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 事後 「体性感覚・特殊感覚」をまとめ、理解し、復習する。	135 分 135 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分
第 15 回	学習発表 3	事前 学習発表の準備をする。 事後 学習発表のまとめをする。	135 分 135 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著

参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

医学概論

非常勤講師 内田さえ

科目コード：NAT203

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生理学で身につけた知識の内容と関連づけながら、ストレス（外部環境によるストレス、身体的ストレス、心理・社会的ストレス、死へのストレス）への対応、生活環境と健康、環境問題と人間について学習する。ストレスへの対応に関連して、自律神経系・内分泌系について基礎的知識を身につける。心と脳、音楽と脳、医療と健康、音楽療法とストレスについて理解を深める。

到達目標 ストレス及びストレスへの対応について理解できることを到達目標とする。
音楽療法の意義について理解できること、地球環境問題に対応できる目を養うことを到達目標とする。

授業計画

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ストレスとは、ストレスに関する学問の歴史	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「ストレス学説」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第2回	ストレスと自律神経系、自律神経系に関する学問の歴史	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「ストレスと自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第3回	自律神経系の基礎	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第4回	ストレスと内分泌系	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「内分泌系」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第5回	外部環境によるストレス、身体的ストレス、痛み	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「痛み」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第6回	心理・社会的ストレス、死へのストレス	教科書の「4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「心理・社会的ストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第7回	音楽と脳、音楽療法とストレス	教科書の4章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	「音楽と脳、音楽療法とストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第8回	健康の概念、QOL	教科書の5章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。	「QOL」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第9回	病気の予防、免疫	教科書の5章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。	「病気の予防」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第10回	生活環境と健康、アレルギー	教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	「生活環境と健康、アレルギー」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第11回	生活と地球環境問題	教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	「地球環境問題」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第12回	環境と生涯教育	教科書の6章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	「環境と生涯教育」をまとめ、理解し、復習する。	135分
第13回	学習発表1	学習発表の準備をする。	学習発表のまとめをする。	135分
第14回	学習発表2	学習発表の準備をする。	学習発表のまとめをする。	135分
第15回	学習発表3	学習発表の準備をする。	学習発表のまとめをする。	135分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、1年次の「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

社会福祉

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 瓜巢由紀子

科目コード：SOC202

専門／学年：全専門／2年次

形態：集中講義

単位数：2単位

概要 社会福祉の対象は児童、障害児・者、高齢者、生活困窮者など多岐にわたり、さらにいえば全ての国民が対象である。そこで社会福祉の政策や法律などが私たちの生活の中にどのように活かされているかという基礎的知識を習得する。一方で、今日におけるわが国の社会福祉の課題について考え、これからの社会福祉のあり方についても習得し、社会福祉の理解を深めていく。

到達目標

- ・社会福祉を広い視点で学び、基礎的知識を習得する。
- ・政策や法制度として社会福祉を理解するだけでなく、自らの生活に当てはめて社会福祉を理解できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 社会福祉のイメージ	事前 新聞記事やニュース等で社会の動きについて学ぶ。実習等で得た記録や資料等を復習する 事後 教科書の指定ページを復習する	140分 140分
第2回	社会福祉とは何か	事前 教科書の指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140分 140分
第3回	私たちの生活と社会福祉の現状	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第4回	社会福祉の歴史	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書の指定ページを復習	140分 140分
第5回	社会福祉の法制度	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第6回	社会福祉の機関と施設	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第7回	利用者支援の基礎	事前 教科書指定ページを予習 事後 配布資料にて復習	140分 140分
第8回	社会保障・公的扶助	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第9回	子ども家庭福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第10回	高齢者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 ワークシートにて復習	140分 140分
第11回	障害者福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第12回	地域福祉	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第13回	社会福祉の専門職	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第14回	社会福祉の課題	事前 教科書指定ページを予習 事後 教科書指定ページを復習	140分 140分
第15回	まとめ 試験内容の解説	事前 教科書指定ページを予習 事後 理解不足な箇所の確認とその復習	140分 140分

フィードバック ワークシートや発表などについてコメントを付け、学習成果をフィードバックする

成績評価 試験 60%、ワークシート 10%、発表 10%、授業への積極的な取組 20%

テキスト 『よくわかる社会福祉【第11版】』山縣文治・岡田忠克編/ミネルヴァ書房
そのほか必要に応じてプリント等配布

オフィスアワー 授業後に教室にて

アクティブ・ラーニング

- ・グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う
- ・ICTを活用した理論の可視化

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 講義

単位数: 2 単位

概要 実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 SCENE でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

第 1 回	Orientation 自己紹介	事前 教科書を手し、SCENE 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	SCENE 1 It's So Nice to Meet You! be 動詞と一般名詞/挨拶をする Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 3 回	SCENE 1 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 4 回	SCENE 2 Is He a Popular Professor? 疑問文と否定文/自己紹介をする Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 5 回	SCENE 2 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 6 回	SCENE 3 He Showed Me "a" Way 現在形と過去形/感想を言う Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 7 回	SCENE 3 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 8 回	SCENE 4 For Here or To Go? 可算名詞と不可算名詞/注文をする Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 9 回	SCENE 4 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 10 回	SCENE 5 She Is So Beautiful 代名詞/お願いをする Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 11 回	SCENE 5 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 12 回	SCENE 6 Catching a Cab 前置詞/場所を説明する Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 13 回	SCENE 6 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 14 回	Wrap-up (SCENE 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 15 回	Review (SCENE 1-6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie, Videos by Todd Rucynski, "Hello New York!: Learning Basic English with Aya in 15 Episodes"
(金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

英語 I-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG102

専門/学年： 全専門/1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語 I-1 に引き続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。

到達目標 各 SCENE でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

第 1 回	SCENE 7 How Romantic! 形容詞と副詞/人を描写する Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	80 分 190 分
第 2 回	SCENE 7 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 3 回	SCENE 8 I'm Not Feeling Well 助動詞/体調を述べる Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。	135 分 135 分
第 4 回	SCENE 8 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 5 回	SCENE 9 Tickets for a Yankees Game 進行形/誘う Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 6 回	SCENE 9 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 7 回	SCENE 10 What's on the Shopping List? 接続詞/誘いを断る Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 8 回	SCENE 10 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 9 回	SCENE 11 MoMA Is Fun! 現在完了形/聞き直す Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 10 回	SCENE 11 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 11 回	SCENE 12 The "Fourth of July" Is Coming Up 未来形/予定を尋ねる Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 12 回	SCENE 12 Grammar Focus A, Grammar Focus B, Key Expression from the Scene, Reading	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 13 回	SCENE 13 Who Is That Guy?! 不定詞と動名詞/提案する Before You Watch, Let's Watch!, Check Your Understanding	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 今日の授業内容を復習する。配布の課題を解いて提出。	135 分 135 分
第 14 回	Wrap-up (SCENE 7-13)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 15 回	Review (SCENE 7-13) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Takehisa Tsuchiya, Yoshihiko Honda, Braven Smillie, Videos by Todd Rucynski, "Hello New York!: Learning Basic English with Aya in 15 Episodes"
(金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

英語Ⅱ-1

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG201

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語を使う上で欠かせない必須文法の 4 技能を統合的に活用しながら学び、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得に始まり、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標 日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語 I」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

第 1 回	Orientation 自己紹介/教科書紹介	事前 教科書を入手し、Unit 1 を予習する。 事後 英語での自己紹介の仕方を練習する。	80 分 190 分
第 2 回	Unit 1 Welcome to the "Big Apple" Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 3 回	Unit 1 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135 分 135 分
第 4 回	Unit 2 What's the Boss Like? Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 5 回	Unit 2 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135 分 135 分
第 6 回	Unit 3 Masa's First Day on the Job Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 7 回	Unit 3 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135 分 135 分
第 8 回	Unit 4 Summer Fun Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 9 回	Unit 4 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135 分 135 分
第 10 回	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 11 回	Unit 5 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135 分 135 分
第 12 回	Unit 6 Brainstorming Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135 分 135 分
第 13 回	Unit 6 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。課題提出。	135 分 135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135 分 135 分
第 15 回	Review (Unit 1~6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135 分 135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hickling Misato Usukura, "English Missions!" (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

英語Ⅱ-2

非常勤講師 山内あゆ子

科目コード：ENG202

専門/学年： 全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 英語Ⅱ-1に引き続き、英語を使う上で欠かせない必須文法の4技能を統合的に活用しながら学び、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得に始まり、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標 日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

第1回	定期試験の解説 前期の復習	事前 前期の基礎事項を確認する 事後 試験の問題を復習する	80分 190分
第2回	Unit 7 Glad to Be of Service Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第3回	Unit 7 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135分 135分
第4回	Unit 8 Socializing with Co-Workers Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第5回	Unit 8 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135分 135分
第6回	Unit 9 Vacation Spots Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第7回	Unit 9 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135分 135分
第8回	Unit 10 Sports Talk Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第9回	Unit 10 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Mission 3 を課題として提出。	135分 135分
第10回	Unit 11 Tour Day Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第11回	Unit 11 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。Writing C を課題として提出。	135分 135分
第12回	Unit 12 Party Time! Getting Ready, Conversation, Mission 1, Breaking Down the Grammar	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	135分 135分
第13回	Unit 12 Grammar Checking, Mission 2, Reading, Wrap-Up Writing	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する。課題提出。	135分 135分
第14回	Wrap-up (Unit 7-12)	事前 教科書の該当箇所を復習する 事後 今日の授業内容を復習する	135分 135分
第15回	Review (Unit 7~12) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする 事後 理解不足の箇所を復習する	135分 135分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業への積極的な取組 50%】

テキスト Robert Hickling, Misato Usukura, “English Missions!” (金星堂)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後に Zoom で、あるいはメール、アポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

伊語-1

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR103

専門/学年： 全専門/1～2年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。アルファベートと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げてゆきたい。

到達目標 イタリア語のアルファベートと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

回数	単元	事前	事後	時間
第1回	アルファベートと発音 (解説 副教材を使用)	教科書に目を通し、付属CDでイタリア語の音声を試聴	配布教材を使い、授業内容の復習	120分 150分
第2回	アルファベートと発音 (練習 副教材を使用)	第1回の配布教材を使い、アルファベートと発音の練習	配布教材を使い、授業内容の復習	120分 150分
第3回	Unità 1：名詞と形容詞 (教科書 pp.6-9)	教科書 Unità 1 (pp.6-9) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	教科書巻末にある Unità 1 の練習問題を行う	120分 150分
第4回	Unità 1：名詞と形容詞 (pp.10-13)	Unità 1 (pp.10-13) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 1 の練習問題を行う	120分 150分
第5回	Unità 2：essere と avere (pp.14-19)	Unità 2 (pp.14-19) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 2 の練習問題を行う	120分 150分
第6回	Unità 2：essere と avere (pp.18-23)	Unità 2 (pp.18-23) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 2 の練習問題を行う	120分 150分
第7回	Unità 3：are 動詞 (pp.24-27)	Unità 3 (pp.24-27) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 3 の練習問題を行う	120分 150分
第8回	Unità 3：are 動詞 (pp.28-31)	Unità 3 (pp.28-31) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 3 の練習問題を行う	120分 150分
第9回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞 (pp.32-35)	Unità 4 (pp.32-35) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 4 の練習問題を行う	120分 150分
第10回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞 (pp.36-39)	Unità 4 (pp.36-39) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 4 の練習問題を行う	120分 150分
第11回	Unità 5：piacere (pp.40-43)	Unità 5 (pp.40-43) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 5 の練習問題を行う	120分 150分
第12回	Unità 5：piacere (pp.44-47)	Unità 5 (pp.44-47) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 5 の練習問題を行う	120分 150分
第13回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞 (pp.48-53)	Unità 6 (pp.48-53) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 6 の練習問題を行う	120分 150分
第14回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞 (pp.52-57)	Unità 6 (pp.52-57) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認	Unità 6 の練習問題を行う	120分 150分
第15回	アルファベートと発音、Unità 1-6 のまとめ	アルファベートと発音、Unità 1-6 の復習	授業内容の復習、期末試験の準備	120分 150分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分 (目安)：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト 遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』(白水社)

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 イタリア語の辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

伊語-2

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：FOR104

専門/学年： 全専門/1~2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。伊語・1 からの継続講義。動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。

到達目標 過去や未来の時制をはじめ、動詞の用法についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画 原則的に教科書にしたがって授業を進める。履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。

第 1 回	Unità 1-3 の復習	事前 Unità 1-3 のテキストや解説の復習 事後 教科書巻末にある Unità 1-3 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 2 回	Unità 4-6 の復習	事前 Unità 4-6 のテキストや解説の復習 事後 Unità 4-6 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 3 回	Unità 7：補助動詞（教科書 pp.58-61）	事前 Unità 7 (pp.58-61) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 4 回	Unità 7：補助動詞（pp.62-65）	事前 Unità 7 (pp.62-65) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 5 回	Unità 8：近過去（pp.66-67）	事前 Unità 8 (pp.66-67) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 6 回	Unità 8：近過去（pp.68-69）	事前 Unità 8 (pp.68-69) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 7 回	Unità 8：近過去（pp.70-73）	事前 Unità 8 (pp.70-73) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 8 回	Unità 9：半過去（pp.74-75）	事前 Unità 9 (pp.74-75) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 9 回	Unità 9：半過去（pp.76-79）	事前 Unità 9 (pp.76-79) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 10 回	Unità 9：未来（pp.80-81）	事前 Unità 9 (pp.80-81) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 11 回	Unità 9：未来（pp.82-85）	事前 Unità 9 (pp.82-85) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 12 回	Unità 11：命令法（pp.86-87）	事前 Unità 11 (pp.86-87) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 13 回	Unità 11：命令法（pp.88-91）	事前 Unità 11 (pp.88-91) のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 14 回	Unità 7-8 のまとめ	事前 Unità 7-8 の復習 事後 授業内容の復習	120 分 150 分
第 15 回	Unità 9-11 のまとめ	事前 Unità 9-11 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験の準備	120 分 150 分

フィードバック 期末試験については解説を行う。

成績評価 主に期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。
【評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み 10%、期末試験 90%】

テキスト 遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』（白水社）

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考 伊語・1（前期）の継続講義となるので、伊語・1 の単位取得者が対象。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

仏語 I-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR105

専門/学年 全専門/1 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身につける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

授業計画		事前	事後	120分
第1回	Leçon 1 自己紹介の表現	教科書 P.7,L'alphabet の音声を聴く。	P.8,Modèle1 および Modèle2 の発音を練習する。	150分
第2回	数詞	P.9,Modèle3 の発音を練習する。	P.14①の音声を聞き答えを書く。	150分
第3回	Leçon 2 人物を描写する	P.16,Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。	P.18,Activités①および②の答えを書く。	150分
第4回	住んでいる場所について話す	P.19,Exercices1～3 の答えを書く。	P.22②の音声を聞き答えを書く。	150分
第5回	Leçon 3 仕事について話す	P.24,Modèle1～3 の意味を調べ和訳する。	P.27,Exercices1～3 の答えを書く。	150分
第6回	国籍について話す	P.27,Exercices4～6 の答えを書く。	P.30②の音声を聞き答えを書く。	150分
第7回	Leçon 4 好きなものを言う	P.32,Modèle1 について意味を調べ和訳する。	P.34, Activités①④および⑤の答えを書く。	150分
第8回	Préférer の用法	P.33,Modèle3 および Modèle4 について意味を調べ和訳する。	P.38②の音声を聞き答えを書く。	150分
第9回	Leçon 5 家族について話す	P.40,Modèle1 について意味を調べ和訳する。	P.42,Activités①④の答えを書く。	150分
第10回	Pourquoi, parce que の用法	P.41,Modèle3 および P.43,Exercices7 の答えを書く。	P.46②および③の音声を聞き答えを書く。	150分
第11回	Leçon 6 物の位置を示す	P.49,Modèle2 および Modèle3 の答えを書く。	P.50,Activités④⑥の答えを書く。	150分
第12回	フランスのペット事情	P.55,①の文章を読み和訳する。	P.55,④の間に答える。	150分
第13回	Leçon 7 色彩について話す	P.57,Modèle4 および Modèle6 について意味を調べ答えを書く。	P.59,Exercices1～4 の答えを書く。	150分
第14回	服装について話す	P.59,Exercices6～8 の答えを書く。	P.58,Activités③④および⑥の答えを書く。	150分
第15回	前期のまとめ	事前 第1回からの授業の内容を整理する。	事後 理解が不十分だった部分についてもう一度学習すること。	150分

フィードバック 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、授業での質疑応答 30%による。

テキスト Vincent Durrenberger 'Méthode de français' (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考 初回の授業で仏和辞典についての説明をする。また、日常会話の表現を整理して学習するために、必要に応じてプリントを配布する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

仏語 I-2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR106

専門／学年 全専門／1 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 この授業では、フランス語を初めて学ぶ者を対象に、フランス語の基礎全般を学習する。初心者がつまづきやすい項目には十分に時間をかけ、実践的なトレーニングを通じてフランス語の基礎をしっかりと身に付ける。フランス語を学ぶと同時に、フランスの文化や他のフランス語圏のさまざまな文化についての知識も深めていきたいと考えている。

到達目標 フランス語の初級文法と会話表現とを同時に学習できる教材を用い、発音する・聞き取る・読む・書くなど、フランス語のトータルな能力の習得をめざす。

授業計画

第1回	Leçon 8 物の位置関係を示す	事前 P.65,Modèle2 の文章を読んで答えを書く。 事後 P.66, Activités①と②の答えを書く。	120 分 150 分
第2回	数量を尋ねる	事前 P.67, Exercices3 および5 の答えを書く。 事後 P.70③と P.71①の答えを書く。	120 分 150 分
第3回	Leçon 9 カフェで注文する	事前 P.72,Modèle1 について意味を調べ答えを書く。 事後 P.74,Activités①と②の答えを書く。	120 分 150 分
第4回	買い物をする	事前 P.73,Modèle2 および Modèlè3 について意味を調べ答えを書く。 事後 P.78 の①と②の音声を聞き答えを書く。	120 分 150 分
第5回	Leçon 10 食生活について話す	事前 P.80,Modèle1 について意味を調べ和訳する。 事後 P.82, Activités①Aおよび⑧の答えを書く。	120 分 150 分
第6回	統計について話す	事前 P.81,Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P.86 Révisions②～④の答えを書く。	120 分 150 分
第7回	Leçon 11 国について話す	事前 P.88, Modèlè1～5 について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P.90, Activités①～③の答えを書く。	120 分 150 分
第8回	天候について話す	事前 P.93,Le val de Loire について単語の意味を調べ和訳する。 事後 P.95,On va plus loin①～③の答えを書く。	120 分 150 分
第9回	Leçon 12 旅について話す	事前 P.97, Modèlè4 について意味を調べ和訳する。 事後 P.98, Activités①と②の答えを書く。	120 分 150 分
第10回	道を探ねる	事前 P.102,①の音声を聞き答えを書く。 事後 P.103,On va plus loin①および②の答えを書く。	120 分 150 分
第11回	Leçon 13 時刻を言う	事前 P.104, Modèlè1 について音声を聞き答えを書く。 事後 P.106, Activités①と③ の答えを書く。	120 分 150 分
第12回	チケットを買う	事前 P.105,Modèle2 について意味を調べ和訳する。 事後 P.110,①の空欄を埋める。	120 分 150 分
第13回	Leçon 14 日常生活を話す	事前 P.113, Modèlè1 および Modèlè2 について単語の意味を調べ問いに答える。 事後 P.114, Activités①および②の答えを書く。	120 分 150 分
第14回	過ごした1日を語る	事前 P.122, Activités②の答えを書く。 事後 P.127, On va plus loin①および②の答えを書く。	120 分 150 分
第15回	後期のまとめ	事前 第1回からの講義全体の内容を整理する。 事後 理解が不十分な点についてもう一度学修する。	120 分 150 分

フィード 答案および授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、期末試験 40%、小テスト 30%、授業での質疑応答 30%による。

テキスト Vincent Durrenberger, ‘ Méthode de français ’ (駿河台出版社)

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

仏語Ⅱ-1

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR203

専門／学年 全専門／2 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。

到達目標 1 年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口語練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。

授業計画		
第 1 回	Leçon 8 物の位置関係を示す	事前 P.65, Modèle2 の文章を読んで答えを書く。 事後 P.66, Activités①と②の答えを書く。 120 分 150 分
第 2 回	数量を尋ねる	事前 P.67, Exercices3 および 5 の答えを書く。 120 分 事後 P.70③と P.71①の答えを書く。 150 分
第 3 回	Leçon 9 カフェで注文する	事前 P.72, Modèle1 について意味を調べ答えを書く。 120 分 事後 P.74, Activités①と②の答えを書く。 150 分
第 4 回	買い物をする	事前 P.73, Modèle2 および Modèle3 について意味を調べ答えを書く。 120 分 事後 P.78 の①と②の音声を読み答えを書く。 150 分
第 5 回	Leçon 10 食生活について話す	事前 P.80, Modèle1 について意味を調べ答えを書く。 120 分 事後 P.82, Activités①Aおよび②の答えを書く。 150 分
第 6 回	統計について話す	事前 P.80, Modèle2 について意味を調べ和訳する。 120 分 事後 P.86, Révisions②～④の答えを書く。 150 分
第 7 回	Leçon 11 国について話す	事前 P.88, Modèle1～5 について単語の意味を調べ和訳する。 120 分 事後 P.90, Activités①～③の答えを書く。 150 分
第 8 回	天候について話す	事前 P.93, Le val de Loire について単語の意味を調べ和訳する。 120 分 事後 P.95, On va plus loin①～③の答えを書く。 150 分
第 9 回	Leçon 12 旅について話す	事前 P.97, Modèle4 について意味を調べて和訳する。 120 分 事後 P.98, Activités①と②の答えを書く。 150 分
第 10 回	道を探る	事前 P.102, ①の音声を読み答えを書く。 120 分 事後 P.103, On va plus loin①および②の答えを書く。 150 分
第 11 回	Leçon 13 時刻を言う	事前 P.104, Modèle1 について音声を読み答えを書く。 120 分 事後 P.106, Activités①と③の答えを書く。 150 分
第 12 回	チケットを買う	事前 P.105, Modèle2 について意味を調べ和訳する。 120 分 事後 P.110, ①の空欄を埋める。 150 分
第 13 回	Leçon 14 日常生活を話す	事前 P.113, Modèle1 および Modèle2 について単語の意味を調べ答えを書く。 120 分 事後 P.114, Activités①および②の答えを書く。 150 分
第 14 回	過ごした 1 日を語る	事前 P.122, Activités②の答えを書く。 120 分 事後 P.127, On va plus loin①および②の答えを書く。 150 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 第 1 回からの授業の内容を整理する。 120 分 事後 理解が不十分な点について調べる。 150 分

フィードバック 授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末レポート 40%、課題提出 20%、授業での質疑応答 40%による。

テキスト Vincent Durrenberger Méthode de français' (駿河台出版社) ※前期は昨年度のテキストを継続して用いる。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考 初回の授業で仏和辞典についての説明をする。また、日常会話の表現を整理して学習するために、必要に応じてプリントを配布する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	授業スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

仏語Ⅱ-2

非常勤講師 内藤俊人

科目コード：FOR204

専門／学年 全専門／2 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 フランスの日常生活を題材とする教材を用い、学生生活、仕事、買い物、食事、旅行、余暇など、さまざまな状況で用いられる表現を習得する。外国語の学習とは、自分と異なる文化に生きる人々のものの見方や考え方に触れることでもある。授業では、フランスだけではなく、広くフランス語圏のさまざまな文化を紹介したい。

到達目標 1 年間学んできた文法とコミュニケーションのための基礎知識をさらに深めて、フランス語を正確に用いる能力を身につけることが目標である。日常用いられる自然な表現を、口頭練習、聞き取り練習、作文練習を通して習得し、フランス語によって自己を表現する力を身につける。

回	単元	事前	事後	単位数
第 1 回	Unité0 : Claire part en voyage. 間違いやすい綴り字の読み方	P.1 のクレールの手紙を読んでみる。	P.2 Exercices の単語を音声聞いて発音する。	120 分 150 分
第 2 回	Unité1 : L'Alsace ストラスブルとキッシュ・ローレス 複合過去と過去分詞の一致	P.4 の手紙を読む。	P.7.Compréhension orale の答えを書く。	120 分 150 分
第 3 回	代名動詞の複合過去	P.5 Exercices2 と 3 の答えを書く。	P.7.Interview の答えを書く。	120 分 150 分
第 4 回	Unité2 : L'Alsace2 ストラスブルとシュークルート 半過去と大過去	P.8 の手紙を読む。	P.11.Compréhension orale の答えを書く。	120 分 150 分
第 5 回	Unité3 : La Bourgogne1 デイジョンとエスカルゴ 関係代名詞	P.14 の手紙を読む。	P.16. Activités の答えを書く。	120 分 150 分
第 6 回	Unité4 : La Bourgogne2 ボーヌとワイン 現在分詞とジェロンディフ	P.18 の手紙を読む。	P.21.Compréhension orale と P.22 の問いの答えを書く。	120 分 150 分
第 7 回	Unité5 : La region Rhône-Alpes1 シャモニーとフォンデュ 受動態	P.24 の手紙を読む。	P.26. Activités1 の答えを書く。	120 分 150 分
第 8 回	最上級の表現	P.26. Activités2 の答えを書く。	P.27.Compréhension orale と Interview の答えを書く。	120 分 150 分
第 9 回	Unité6 : La region Rhône-Alpes2 シャモニーとチーズ 強調構文と中性代名詞	P.28 の手紙を読む。	P.30. Activités の答えを書く。	120 分 150 分
第 10 回	Unité7 : La Provence1 マルセイユとブイヤベース 条件法	P.34 の手紙を読む。	P.37.Compréhension orale と Interview の答えを書く。	120 分 150 分
第 11 回	Unité8 : La Provence2 アルルとラタトゥイユ 接続法現在	P.38 の手紙を読む。	P.40. Activités の答えを書く。	120 分 150 分
第 12 回	接続法過去	P.39. Exercices1 と 2 の答えを書く。	P.42 と P.43 の答えを書く。	120 分 150 分
第 13 回	Unité9 : La Bretagne1 レンヌとクレーブ 間接話法と時生の一致	P.44 の手紙を読む。	P.47.Compréhension orale と Interview の答えを書く。	120 分 150 分
第 14 回	Unité10 : La Bretagne2 サン・マロと海の幸 前置詞と接続詞	P.48 の手紙を読む。	P.50. Activités の答えを書く。	120 分 150 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 Unité0 から Unité10 までの内容を整理する。	事後 理解が不十分だった箇所についてもう一度学習する。	120 分 150 分

フィード 授業時に提出する課題を添削して返却する。

成績評価 成績の評価は、学期末レポート 40%、課題提出 20%、授業での質疑応答 40%による。

テキスト 藤田裕二著『新・彼女は食いしん坊！2』（朝日出版社） 後期のテキストについては教室で指示する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

保健体育講義

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY101

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義

単位数：1 単位

概要 健康に影響を及ぼす身近な環境について学ぶとともに、生活習慣が原因で発症する疾患とその予防について理解を深める。

到達目標 “健康や体力づくりのために運動しよう” とする時が、楽しく安全に運動を行うために必要な、一人ひとりの身体の状態にあった適切な運動と実践方法を理解する。

授業計画 「身体の健康を考える」

第 1 回	オリエンテーション よい健康状態を保つための条件	事前 自分の現在の健康状態を確認する。 事後 1 週間の生活を記録する（食事、運動、睡眠）	60 分 220 分
第 2 回	健康保持のための運動	事前 1 週間の生活記録をまとめる。 事後 自分の生活環境を見直す（身体活動時間）	120 分 160 分
第 3 回	健康と環境	事前 身体活動時間をまとめる。 事後 生活の中に身体活動時間を増やす工夫をし実践する。	60 分 220 分
第 4 回	現代社会と運動	事前 生活習慣病とは何か調べる。 事後 生活習慣の中で注意することを理解し実践する。	120 分 160 分
第 5 回	健康・体力づくりのための運動	事前 自分に必要な運動とは何かふりかえる。 事後 自分にあった運動を理解する。	60 分 220 分
第 6 回	運動プログラム作成	事前 運動プログラムを作成する。 事後 運動プログラムを実践する。	100 分 180 分
第 7 回	生涯スポーツとは	事前 運動プログラム実践記録をまとめる。 事後 生涯スポーツの実践を理解する。	220 分 60 分
第 8 回	まとめ、運動習慣を継続するために	事前 運動中の傷害を誘発する原因について調べる。 事後 安全に運動するために応急処置等の必要性を確認する。	140 分 140 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

アクティブ・ラーニング

- ・自分自身の生活のリズムを振り返り、食事・運動・睡眠等の生活記録をまとめ発表し合う。
- ・地域に暮らす人々の健康維持増進のため、地域施設・スポーツクラス等が取り組んでいる公開講座について調べ、講座内容・目的を発表し合う。
- ・自分の住む街における健康維持増進のための講座内容を考え、プレゼンテーションする。

備考 課題は各自で取り組む他に、グループ毎に協力し合う時間がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									

体育実技

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 リズム体操、縄、ボール運動等動きを楽しみながら体育活動の意義を理解する。

到達目標 いろいろな運動を体験しながら、動作がうまくコントロールできる「身体づくり」を目指す。自ら伸び伸びと楽しく身体を動かすこと、運動やスポーツに親しむ態度・能力を身につける。

授業計画 「健康づくり～楽しく身体を動かそう～」

第 1 回	手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回の実技に向けてケガをしないからだの準備をする。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。	50 分 50 分
第 2 回	からだほぐし・からだを器用に動かしてみよう	事前 巧緻性を高める体操とは何か調べる。 事後 からだを器用に動かす練習をする。	40 分 60 分
第 3 回	動いてみよう・動かしてみよう（縄になれよう）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチを行う習慣を身につける。	40 分 60 分
第 4 回	動いてみよう・動かしてみよう（リズム縄跳び）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。 事後 リズムに合わせて跳べるようにする。疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチを行う。	30 分 70 分
第 5 回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールになれよう）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチを行う。	40 分 60 分
第 6 回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールゲーム）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。 事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチに加え軽い筋力トレーニングを行う習慣を身につける。	40 分 60 分
第 7 回	ゲームを楽しもう基本編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。 事後 ストレッチ、筋力トレーニングと全身がリラックスできる体操を行う。	30 分 70 分
第 8 回	ゲームを楽しもう応用編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。 事後 ストレッチ、筋力トレーニング、全身がリラックスできる体操を行う。	30 分 70 分
第 9 回	リズムによって動いてみよう（動きを楽しもう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を取り入れることを心がける。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分 50 分
第 10 回	リズムによって動かしてみよう（動きを工夫してみよう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分 50 分
第 11 回	身近な用具を使って動いてみよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が残らないようにケアする。身近な用具をつかったストレッチ、筋力トレーニングを工夫する。	50 分 50 分
第 12 回	ひと工夫した運動・ゲームを考えよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。楽しかった運動・ゲームをアレンジする。有酸素運動を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	60 分 40 分
第 13 回	ひと工夫した運動・ゲームを楽しもう	事前 運動・ゲームに必要な準備運動・体操を行う。有酸素運動を行う。 事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分 50 分
第 14 回	レクリエーションを企画しよう	事前 楽しく競える内容を考える。提案準備をする。 事後 楽しく競える内容と方法であるかを確認する。	50 分 50 分
第 15 回	レクリエーションを楽しもう まとめ	事前 レクリエーション種目に合わせた準備運動・体操などの有酸素運動を行う。 事後 積極的にからだを動かし体調管理ができる時間をもつように心がける。	50 分 50 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、態度 30%、提出物 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

アクティブ・ラーニング

- 生活習慣による体の使い方、動きのバランス等を互いに見直し、気づきからの発見、再確認をし合いながら今後の身体活動（生活面を含む）の直す点をプレゼンテーションする。
- 音楽（リズム）に合わせて体を動かす、リズム体操、ダンス等をグループワークにより創作し発表し合う。

備考

- 必ず運動着、運動靴を着用する。
- 運動制限のある学生は授業で申し出ること。また、忘れ物をした場合や体調不良などで見学したい学生は、授業開始前に連絡し指示を受けること。
- 画面を通して実技を行う場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☑	☐	☐	☑	

初年次プログラム

学科長 教授 内田有一

科目コード：CAR101

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	短大に入学した新生はキャリアのビジョンをもち2年間の学修に取り組むとともに、教養を深めることが重要である。このプログラムは、自己のキャリア形成を考え、Society5.0の市民としての教養的資質を身に付けることをねらいとする。

到達目標	2年後の自分を思い描き、何をどう学ぶかについて自己の自覚を深める。SDGsを題材とした主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニングの視点）の学習を通して、現代を生きる市民としての在り方を考えることができる。
------	--

授業計画		
第1回	キャリア学習① 3つのポリシーを理解し、学修の見通しをもつ。 就職、3年次編入、留学について理解し自己のキャリア観を明確にする。	事前 学生のためのハンドブックを読み、履修計画表、講義要旨、授業時間表を読む。 140分 事後 時間割に基づいた生活の在り方について考える。 140分
第2回	図書館の利用方法（文献検索システムの理解）、 自己のキャリアを見通した時間割の作成	事前 図書館利用の資料を読む 140分 事後 時間割の完成 140分
第3回	学内のネット利用に関する理解（PCの起動・操作方法）	事前 校内ICT資料を読む。 140分 事後 授業に必要な操作についてまとめる。 140分
第4回	自校史	事前 自校史の資料を読む。 100分 事後 自校史に関するレポートを書く。 180分
第5回	キャリア学習② 就職活動及び資格取得説明	事前 配付資料を読み、概要を知る。 150分 事後 自己に必要な資格所得を考え、学修の見通しをもつ。 150分
第6回	レポートの書き方及び対話的な学習の方法	事前 『学生のためのハンドブック』の該当項を読み、理解しておく 150分 事後 授業で配布された資料や、聴講した内容を復習し、課題に取り組む 150分
第7回	現代的課題についての情報収集とプレゼンテーション資料作成（SDGs）環境・エネルギー	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 150分 事後 環境・エネルギーに関して各自で事例を調べ、課題に取り組む 150分
第8回	現代的課題についての情報収集とプレゼンテーション資料作成（SDGs）国際理解	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 150分 事後 国際理解に関して各自で事例を調べ、課題に取り組む 150分
第9回	現代的課題についての情報収集とプレゼンテーション資料作成（SDGs）多様性	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 150分 事後 多様性に関して各自で事例を調べ、課題に取り組む 150分
第10回	キャリア学習③ 卒業生講話	事前 卒業後の進路について考える。 150分 事後 リフレクションペーパーに進路についての考えをまとめる。 150分
第11回	現代的課題についての情報収集とプレゼンテーション資料作成（SDGs）質の良い教育（	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 150分 事後 質の良い教育に関して各自で事例を調べ、課題に取り組む 150分
第12回	現代的課題についての情報収集とプレゼンテーション資料作成（SDGs）街づくり	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 150分 事後 街づくりに関して各自で事例を調べ、課題に取り組む 150分
第13回	現代的課題についてのプレゼンテーション（SDGs）	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 140分 事後 プレゼンテーションをふまえて課題に取り組む 140分
第14回	現代的課題についてのプレゼンテーションとまとめ（SDGs）	事前 アクティブラーニングに対応できるよう資料収集など準備をしておく 140分 事後 SDGsについて学んだことをまとめ、課題に取り組む 140分
第15回	言語表現（私と音楽） 事前作文＋1人20分の面接 面接日程は別途掲示にて通知される	事前 課題作文を書いて、期限までに大学事務部へ提出する 140分 事後 面接を通じて、自分と音楽との関わり方を再確認する 140分

フィードバック 「言語表現」時に口頭で初年次プログラム全体のフィードバックを行う。

成績評価 レポート60% 授業への取り組み40%

テキスト 特になし

オフィスアワー 別途示す各教員のオフィスアワーにて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

専門実技 I-1 (ピアノ)

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND101

専門/学年: ピアノ専門/1年次

形態: 実技

単位数: 2 単位

概要 古典派の作品で読譜力・構成力・立体的表現力を身につける

到達目標 ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を習得することを目標とする。

授業計画 前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグループレッスン
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 自分の演奏で何が不足しているかを考える 事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	基礎的なことの確認－姿勢－	事前 様々な椅子の高さで演奏を試み、最適な椅子の高さを探す 事後 椅子に座った時の姿勢を確認しながら演奏をする	420 分 420 分
第 3 回	基礎的なことの確認－打鍵－	事前 ピアノアンサンブル I で調べた打鍵のしくみを確認する 事後 打鍵を確認しながら、1 つ 1 つの音をしっかりと演奏する	420 分 420 分
第 4 回	基礎的なことの確認－脱力－	事前 体を動かして肘・手首の脱力を試みる 事後 肩・肘・手首に力が入らずに演奏できているかを確認をする	420 分 420 分
第 5 回	グループレッスン① 前期試験に向けての勉強の仕方－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 6 回	前期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして、読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 7 回	前期試験曲－形式－	事前 形式を考え、練習をする 事後 ソナタ形式について調べ、演奏に結びつける	420 分 420 分
第 8 回	前期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	グループレッスン② 前期試験曲－表現－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 10 回	前期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をする 事後 和音の響きを確認する	420 分 420 分
第 11 回	前期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をする 事後 コントラストのつけ方の研究をする	420 分 420 分
第 12 回	前期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探る 事後 曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	グループレッスン③ 前期試験曲－より深い解釈－	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420 分 420 分
第 14 回	前期試験曲－より深い表現－	事前 表現を掘り下げて練習をする 事後 独自の表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	前期試験曲－仕上げ－	事前 アーディキュレーションスラーの確認をする 事後 プレース感をもって演奏するように心がけて、練習をする	420 分 420 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。(各実技担当教員レッスン日)

アクティブ・ラーニング 3 回のグループレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技 I-2 (ピアノ)

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND102

専門/学年: ピアノ専門/1年次

形態: 実技 単位数: 2単位

概要 ロマン派、近現代の作品で、表現能力・音楽性を身につける。

到達目標 表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。

授業計画 後期 12回、各人 50分の個人指導、および3回のグループレッスン
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	単位数
第1回	オーディションの曲－読譜の確認－	楽語を調べ、意識をして読譜をする	正しい読譜ができているか確認して、練習をする	420分
第2回	オーディションの曲－解釈－	作曲時の時代背景を調べる	形式を考え、練習をする	420分
第3回	オーディションの曲－表現－	表現方法を考えて、練習をする	表現する上で最適なテンポを探す	420分
第4回	グループレッスン① オーディションの曲－仕上げ－	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420分
第5回	後期試験曲－後期試験に向けての勉強の仕方	作品を決め、読譜をはじめる	作曲家について調べる	420分
第6回	後期試験曲－読譜の確認－	楽語を調べ、意識をして読譜をする	正しい読譜ができているか確認をし、練習をする	420分
第7回	後期試験曲－形式－	形式を考えて、練習をする	曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分
第8回	後期試験曲－様式－	作曲時の時代背景を調べる	作曲家に与えた影響を考える	420分
第9回	グループレッスン② 後期試験曲－表現－	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420分
第10回	後期試験曲－和声感－	和声機能の確認をして、練習をする	和音の響きを意識して、練習をする	420分
第11回	後期試験曲－強弱－	強弱の確認をして練習をする	コントラストのつけ方の研究をして、練習する	420分
第12回	後期試験曲－音色－	作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	曲のキャラクターを考えて練習をする	420分
第13回	グループレッスン③ 後期試験曲－細部の表現－	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	420分
第14回	後期試験曲－細部の音色－	タッチの確認をして練習をする	色彩感のある音を出しているか、確認をしながら、練習をする	420分
第15回	後期試験曲－仕上げ－	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	広い空間での響きを意識して、練習をする	420分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技Ⅱ-1（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND201

専門／学年：ピアノ専門／2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 様々な作曲家特有の語法を学ぶ。

到達目標 バランス・聴きとる力を養い、学内演奏会でのホール演奏に結びつける。

授業計画 前期 15 回、各人 50 分の個人指導。
実技演習においては、ピアノアンサンブルⅡ-1 の学内演奏会の曲の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス 1年間の学習計画	レパートリーに加えたい作品を選ぶ	1年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420分
第2回	オーディションの曲—定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方—	作品を決め、読譜を始める	作曲家について調べる	420分
第3回	オーディションの曲—読譜の確認—	楽語を調べ、楽語を意識して、練習する	正しい読譜が出来ているか確認をする	420分
第4回	オーディションの曲—様式・形式—	作曲家の時代背景を考える	曲の形式を考える	420分
第5回	オーディションの曲—和声感—	和声機能の確認をして、練習をする	和音の響きを意識して、練習をする	420分
第6回	オーディションの曲—強弱—	強弱の確認をして、練習する	コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420分
第7回	オーディションの曲—音色—	作曲家の要求している音色を探る	曲のキャラクターを考える	420分
第8回	オーディションの曲—フレーズ感—	アーティキュレーションスラーの確認をする	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420分
第9回	オーディションの曲—表現—	表現方法を考える	表現をする上で、最適なテンポを探す	420分
第10回	オーディションの曲—テンポ感—	最終的なテンポを設定する	テンポの不自然なふらつきがないか、確認をする	420分
第11回	学内演奏会の曲—様式—	作曲時の時代背景を調べる	作曲家に与えた影響を考える	420分
第12回	学内演奏会の曲—表現—	表現方法を考えて、練習をする	表現をする上で、最適なテンポを探し、練習をする	420分
第13回	学内演奏会の曲—強弱—	強弱の確認をして、練習をする	コントラストのつけ方を研究して、練習する	420分
第14回	学内演奏会の曲—仕上げ—	2人でタッチの確認をして、練習をする	色彩感のある音を出しているか確認をする	420分
第15回	学内演奏会の曲—仕上げ—	掘り下げた表現ができているか確認をする	声部それぞれが生きており、立体的な演奏になっているか確認をする	420分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会 60%、課題 20%、授業態度 20%

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技Ⅱ-2（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND202

専門／学年：ピアノ専門／2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな表現力を習得する。

到達目標 楽曲にあった音色・音楽表現を追及し、オーディション・卒業演奏試験で質の高い演奏を目指す。

授業計画 後期 15回、各人 50分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	オーディションの曲—細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習する 事後 色彩感のある音を出しているか確認して、練習する	420分 420分
第2回	オーディションの曲—響き—	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420分 420分
第3回	オーディションの曲—仕上げ—	事前 曲のイメージをしっかり捉えて、練習をする 事後 振り下げた表現ができているか確認をする	420分 420分
第4回	オーディションの曲—仕上げ—	事前 広い空間での響きを意識して、練習をする 事後 全体の流れを確認する	420分 420分
第5回	試験曲—卒業演奏試験に向けての勉強の仕方—	事前 作品を決め、読譜をする 事後 作曲家について、調べる	420分 420分
第6回	試験曲—読譜の確認—	事前 楽譜を調べ、楽譜を意識して、練習をする 事後 正しい読譜が出来ているか、確認をする	420分 420分
第7回	試験曲—形式—	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分 420分
第8回	試験曲—様式—	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420分 420分
第9回	試験曲—表現—	事前 表現方法を考える 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	420分 420分
第10回	試験曲—和声感—	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420分 420分
第11回	試験曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習する 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420分 420分
第12回	試験曲—音色—	事前 作曲家の要求している音色を探る 事後 曲のキャラクターを考える	420分 420分
第13回	試験曲—細部の表現—	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420分 420分
第14回	試験曲—細部の音色—	事前 タッチの確認をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をする	420分 420分
第15回	試験曲—より深い解釈—	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420分 420分

フィードバック オーディション・卒業演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 卒業演奏試験の評価が50点以上であること。卒業演奏試験60%、課題20%、授業態度20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して、総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技 I-1 (器楽)

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND101

専門/学年：器楽専門/1 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。前期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画 前期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。
 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 事後	入学前の学習を確認し学習計画案を立てる 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 他の楽器の問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分 420 分
第 5 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器のバロック音楽を調べる 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分 420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器のバロック音楽を調べる 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分 420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器のバロック音楽を調べる 他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分 420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 事後	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する	420 分 420 分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
 なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技 I-2 (器楽)

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND102

専門/学年：器楽専門/1 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。後期試験に向けて計画を立て学修する。

授業計画 後期 15 回 各人 50 分の個人指導（グループレッスン含む） 以下の内容はフルードを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。
 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。

第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前	前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる	420 分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 4 回	グループレッスン① 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（弦楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、弦楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 9 回	グループレッスン② 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（木管楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、木管楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ後期試験曲を学ぶ	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを学ぶ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 13 回	グループレッスン③ 様々な楽器による前期試験曲を学ぶ（金管・打楽器）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、金管・打楽器の古典時代の音楽を調べる	420 分
		事後	他の楽器の良い箇所、問題箇所を確認し、自分の楽器に生かす	420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを学ぶ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420 分
		事後	問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する	420 分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
 なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から教則本、楽曲等の指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技Ⅱ-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND201

専門/学年：器楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 専門実技Ⅱ-1は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 前期 15回 各人 50分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第1回	前期の学習計画を立てる	事前 一年次の学習を確認し学習計画を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(演奏スタイルを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する	420分 420分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 学内演奏会において評価する。評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技Ⅱ-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND202

専門/学年：器楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 専門実技Ⅱ-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標 個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 後期 15回 各人 50分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。

第1回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(テクニクを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(後期試験曲を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(テクニクを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(音楽表現を学ぶ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420分 420分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、卒業演奏試験に向けて練習する	420分 420分

フィードバック 卒業演奏試験の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験・卒業演奏試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
なお、試験審査は複数教員(弦管打楽器実技担当教員)による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技 I-1 (声楽)

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND101

専門/学年：声楽専門/1 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で歌唱に必要な基礎技術を習得する。すなわち正しい姿勢、腹式呼吸による自然な発声を身につける。

到達目標 エチュード、イタリア古典歌曲を中心題材として歌唱の基本技術を体得することを目標とする。
声楽の技術、音楽を学び、実技試験等に向け表現力を養う。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、任意の歌曲 1 曲。

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	グループレッスン①ー前期試験に向けてー	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩 (ディクショ) と音 (メロディー) との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩 (ディクショ) と音 (メロディー) との関わり方	事前	練習曲⑤ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ 言葉の意味を調べる	210 分
第 8 回	声の categories を踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲④ 課題曲⑤ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲④ 課題曲⑤ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 9 回	グループレッスン② 前期試験曲ー表現ー	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の言葉 (単語) の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	グループレッスン③ ー前期試験曲を仕上げー	事前	グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる	210 分
		事後	グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに確認、練習をする	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	90 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック 試演、試験後に個人面談のかたちで学修成果をフィードバックする

成績評価 実前期演奏試験、評価は複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
イタリア古典歌曲集 等
担当教員より、ガイダンス及び授業内にて適宜指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技 I-2 (声楽)

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IND102

専門/学年: 声楽専門/1年次

形態: 実技

単位数: 2単位

概要 個人レッスンの形態で、声楽の基礎技術および音楽を学ぶ。日本歌曲を含む歌唱技術と表現力を身につける。

到達目標 ディクショーン(詩・韻律)と音楽(旋律)との深い関わりを認識し、技術と表現力を向上を目標とする。前期の学習を踏まえ、発声、エチュード、イタリア歌曲及び日本歌曲にて声楽の基礎の確立を目指す。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、日本歌曲および自由曲。上記を題材とし、読譜力、解釈力、演奏様式を身につける

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の選曲と譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲①及び②の譜読み 事後 課題曲①及び②を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲①及び②の言葉の意味を調べる 事後 課題曲①及び②を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	グループレッスン① ーオーディション曲の仕上げー	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の内容を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲③及び④の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲③及び④の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 6 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究、楽譜の意味を知る	事前 課題曲③及び④ 強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲③及び④ 表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を探る 読譜、音程・リズムを正確に	事前 課題曲⑤及び⑥ 譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥ 音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を選ぶ 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 後期試験曲 発音練習母音と子音の明確化 事後 後期試験曲 表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 9 回	グループレッスン② ー後期試験に向けての勉強の仕方ー	事前 後期試験曲 曲の内容を把握する 事後 後期試験曲 曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 1 表現法の研究、楽譜を読みこむ	事前 後期試験曲 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 後期試験曲 言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	後期試験曲を学ぶ 2 テンポの変化、強弱他を意識する	事前 後期試験曲 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 後期試験曲 詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 後期試験曲 伴奏合わせをする。 強弱他音楽用語を調べる 事後 後期試験曲 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	グループレッスン③ 後期試験曲ー表現ー	事前 後期試験曲 伴奏合わせを繰り返し、暗譜練習する 事後 後期試験曲 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 後期試験曲 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 後期試験曲 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 15 回	後期試験曲ー仕上げー	事前 後期試験曲 伴奏者とともに 暗譜の確認 事後 後期試験曲 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック オーディション、定期演奏会等後に個人面談の形で、後期を振り返り、成果や次の課題を話し合う

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

専門実技Ⅱ-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND201

専門/学年：声楽専門/2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画 毎週 50 分、15 回の個人指導。学内演奏会（独唱または重唱、器楽のオブリガードを伴う楽曲を含む）に向け、技術及び表現を身につける

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 これまでの学習内容を整理する	事後 練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	90 分 210 分
第 2 回	発声の基本および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前 練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 3 回	発声の基本および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前 練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 4 回	発声の基本および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前 練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	事後 練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分 210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩（ディクシオン）と音（メロディー）との関わり方、楽譜の意味	事前 練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	事後 練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩の内容を理解する	事前 練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	事後 課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分 210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前 課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	事後 課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分 210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	事後 課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分 210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前 前期試験曲の譜読み	事後 前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分 210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 母音と子音の明確化	事前 前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	事後 前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分 210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 前期試験曲の単語、文章の意味を考える	事後 前期試験曲の詩の内容を考えながら練習、楽譜の意味を考える	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	事後 前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前 前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	事後 前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前 前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	事後 前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分 210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	事後 前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック 試演会、学内演奏会後、個人面談の形で前期を振り返り、次の課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲等、
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

専門実技Ⅱ-2（声楽）

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND202

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標 1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。

授業計画 毎週 50 分、15 回の個人指導。卒業課題は歌曲 1 曲、自由曲 1 曲。前期に加え、演奏の完成度を上げる

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦⑧音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前 課題曲⑦⑧発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦⑧表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 母音、子音の明確化	事前 課題曲⑦⑧単語の意味を調べる、楽譜を調べる 事後 課題曲⑦⑧単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦⑧曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦⑧曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 課題曲⑦⑧言葉の意味、時代背景等調べる 事後 課題曲⑦⑧言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 課題曲⑦⑧単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 課題曲⑦⑧詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 課題曲⑦⑧伴奏合わせをする。強弱他音楽用語を調べる 事後 課題曲⑦⑧伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 課題曲⑦⑧伴奏合わせを繰り返す、暗譜練習する 事後 課題曲⑦⑧呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 課題曲⑦⑧伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 課題曲⑦⑧曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 課題曲⑦⑧伴奏者とともに 暗譜の確認 事後 課題曲⑦⑧伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック 試演会、後期試験その他後、個人面談の形で振り返る。

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ、イタリア歌曲等、
レッスン時に指示する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

合唱 I-1・II-1

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直

科目コード：VEN101/VEN201

専門/学年：全専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法等を総合的に学ぶ
様々な合唱形態からユニゾン、ハーモニー、リズム感、ディクションを磨きテキストへの理解を深めつつ表現力を育む

到達目標 基本的なテクニックすなわち姿勢、呼吸法、発声法を習得しながらリハーサルを重ね、舞台を通して合唱することの喜び、生き生きとした演奏を目指す。また将来に向け基本的な合唱指導テクニックを身につけることを目標とする。

授業計画 週1回、全15回
各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。

第1回	ガイダンス 声種分け	事前 自分の声が混声合唱のどのパートに相応するかを考える	130分
		事後 選曲の意図を探る	140分
第2回	合唱の基礎トレーニング ～姿勢、ストレッチ、呼吸法を中心に～	事前 自分の声のパートを確認する	130分
		事後 パートの音取りをする。歌詩の内容を考える	140分
第3回	合唱の基礎トレーニング ～呼吸法、発声法を中心に～ 選曲の重要性 合唱曲①	事前 選曲の意図を探る	130分
		事後 合唱曲①を鑑賞し自分の考えをまとめる	140分
第4回	合唱の基礎トレーニング ～ハーモニー感覚を身につける～ 選曲の重要性 合唱曲①	事前 選曲の意図を探る	130分
		事後 合唱曲①を鑑賞し、自分の考えをまとめる	140分
第5回	課題曲を学ぶ ～パート別練習を中心に～	事前 課題曲の音取りをする	130分
		事後 パートの確認と復習をする	140分
第6回	課題曲を学ぶ ～パート別練習、音程とリズム～	事前 課題曲の音取りをする	130分
		事後 音程とリズムに留意して復習する	140分
第7回	課題曲を学ぶ ～ユニゾンとは何かを考える～ 選曲の重要性①、②	事前 選曲の意図を探る	130分
		事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	140分
第8回	課題曲を学ぶ ～テンポの変化を意識する～ 選曲の重要性①、②	事前 選曲の意図を探る	130分
		事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	140分
第9回	課題曲を学ぶ ～パート別練習及び全体練習～	事前 課題曲の音取りをする	130分
		事後 楽譜の全体を見直す	140分
第10回	定期演奏会リハーサル ～楽譜を読むということは～	事前 リズム、音程、アーティキュレーションの確認	130分
		事後 指摘を受けた箇所を復習する	140分
第11回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（基礎）～	事前 楽譜全体を見直す	130分
		事後 授業内で指摘を受けた箇所の改善	140分
第12回	定期演奏会リハーサル ～音楽のイントネーション（応用）～	事前 楽譜全体を見直す	130分
		事後 授業内で指摘を受けた箇所の改善	140分
第13回	定期演奏会リハーサル ～有声と無声（音）、ハミングの扱い～	事前 有声（音）、無声（音）を考える	130分
		事後 有声、無声、ハミングの扱い方を研究する	140分
第14回	定期演奏会リハーサル ～楽譜を読み込むということは～	事前 楽譜全体を見直す	130分
		事後 授業で指摘を受けた箇所の復習	140分
第15回	まとめ	事前 暗譜を進める	130分
		事後 自分の考えをまとめる	140分

フィードバック 授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける

成績評価 授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合唱 I-2・II-2

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直

科目コード：VEN102/VEN202

専門/学年：全専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法等を総合的に学ぶ
様々な合唱形態からユニゾン、ハーモニー、リズム感、ディクションを磨きテキストへの理解を深めつつ表現力を育む

到達目標 基本的なテクニックすなわち姿勢、呼吸法、発声法を習得しながらリハーサルを重ね、舞台を通して合唱することの喜び、生き生きとした演奏を目指す。また将来に向け基本的な合唱指導テクニックを身につけることを目標とする。

授業計画 週1回、全15回
各授業内容は進度に応じて変更する場合がある。

第1回	定期演奏会リハーサル ～パートの役割、ハーモニーとは何か～	事前 声をそろえるとはどういうことかを考える 事後 声を揃える＝音程、音色を整える	130分 140分
第2回	定期演奏会リハーサル ～音程、リズムの確認～	事前 暗譜をすすめる 事後 授業で指摘された箇所を練習する	130分 140分
第3回	定期演奏会リハーサル ～ユニゾンの重要性～	事前 ユニゾンの重要性を考える 事後 暗譜を定着させる	130分 140分
第4回	定期演奏会リハーサル ～合唱指揮・指導のテクニック（基礎）～	事前 ハンドサインとは何かを考える 事後 ハンドサインの復習をする	130分 140分
第5回	定期演奏会リハーサル ～合唱指揮・指導のテクニック（応用）～	事前 指揮の重要性を考える 事後 曲全体のバランスを見直す	130分 140分
第6回	定期演奏会リハーサル ～暗譜をするとは～	事前 ステージマナーを考える 事後 暗譜を定着させる	130分 140分
第7回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（基礎）～	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 ハンドサインの復習をする	130分 140分
第8回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（隊列）～	事前 本番を想定する（出入り、配置、衣装等） 事後 全体的に暗譜を見直す	130分 140分
第9回	定期演奏会リハーサル ～ホールで演奏するということは（応用）～	事前 ホールで演奏することを想定する 事後 各フレーズ及びパートをつなぐことを意識する	130分 140分
第10回	定期演奏会リハーサル 総合練習	事前 暗譜の確認をする 事後 再度楽譜を見直す	130分 140分
第11回	定期演奏会の反省 選曲の重要性①、②	事前 定期演奏会を振り返る 事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第12回	課題曲を学ぶ ～音づくりは声づくり～ 選曲の重要性①、②	事前 課題曲の音取りをする 事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第13回	課題曲を学ぶ ～ユニゾンの重要性～ 選曲の重要性①、②	事前 課題の音程、リズムに留意して練習する 事後 合唱曲①、②を鑑賞し、自分の考えをまとめる	130分 140分
第14回	課題曲を学ぶ ～リズム感・ハーモニー感を磨く～ 選曲の重要性①、②	事前 課題曲の歌詩の内容を考える 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	130分 140分
第15回	まとめ	事前 楽譜全体を見直す 事後 授業で指摘を受けた箇所の改善	130分 140分

フィードバック 授業後、リハーサル、本番後に学習成果をフィードバックする機会を設ける

成績評価 授業への取り組み、リハーサルの成果、レポートにて総合的に評価する

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

鍵盤和声 I-1a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 石井み予乃

科目コード: SLF103

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 机上の理論によってではなく、鍵盤上での実習を通して和声進行を身につける。

到達目標 さまざまな調の音階とカデンツを反復練習し、I・IV・V・V7の基本形から転回形の活用を学ぶ。メロディに合わせた伴奏形を考える。

授業計画 各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。

第1回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30分 60分
第2回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30分 60分
第3回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30分 60分
第4回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30分 60分
第5回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30分 60分
第6回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30分 60分
第7回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルベジオ型の反復練習	30分 60分
第8回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30分 60分
第9回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30分 60分
第10回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30分 60分
第11回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30分 60分
第12回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30分 60分
第13回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30分 60分
第14回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30分 60分
第15回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60分 30分

フィードバック 授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・2, 3人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる
・歌うことに伴奏をつけ発表する

備考 欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

鍵盤和声 I -2a

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 石井み予乃

科目コード: SLF104

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなどを体験し、実習現場で必要と思われる力を身につける。

到達目標 旋律の演奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学ぶ。そして、実践を重ねることにより、現場に対応できる力を養う。

授業計画 各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。

第 1 回	初見演奏 予見について	事前 前期の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	40 分 50 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前 授業内課題以外の自己練習 事後 課題の反復練習	40 分 50 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前 初見演奏の自己練習 事後 歌う	60 分 30 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前 課題の反復練習 事後 注意の確認	60 分 40 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前 バランスを考えての弾き歌い練習 事後 課題の反復練習	40 分 50 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前 移調とは何かを考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前 様々な調整の確認 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前 コードネームと和音記号比べる 事後 コードネームと和音記号の理解	40 分 50 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	40 分 60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前 コードネームの仕組みの復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前 コードネーム仕組みの復習 事後 カウンターラインを考える	40 分 50 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前 カウンターラインのルールの復習 事後 課題の反復練習	40 分 50 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前 後期の復習 事後 課題の反復練習	40 分 50 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前 試験課題の自己練習 事後 一年間のまとめ	60 分 30 分

フィードバック 授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・2, 3 人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる
・歌うことに伴奏をつけ発表する

備考 欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

鍵盤和声 I-1b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 中島範子

科目コード: SLF103

専門/学年: 全専門/1年次

形態: 演習 単位数: 1単位

概要 基本的な和声感、また、和声進行と旋律との関連性を理解して、鍵盤楽器でメロディに伴奏を付けるための実用的な演奏技法を学習する。

到達目標 基本的な和声を用いてメロディに伴奏を付けられるようにする。拍子感、テンポに合わせての伴奏形態を理解する。

授業計画

第1回	授業内容についてのガイダンス 主要三和音の進行と和声感	事前 楽典のテキストで和音の項目の内容を確認する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第2回	基本的な和音の配置のカデンツ奏	事前 プリント課題の和声感と和音記号を確認する。 事後 カデンツ奏の反復練習をする。	30分 60分
第3回	基本的な和音の配置のカデンツ奏と移調	事前 楽典のテキストで音階・調号の項目の内容を確認する。 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。	20分 70分
第4回	基本的な和音の配置とコードネームの連結・理解	事前 カデンツ奏の和音の構成音を確認する。 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。	30分 60分
第5回	メロディー奏と和音付け(長調)	事前 コードネームを確認しておく。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第6回	メロディー奏と伴奏付け(短調)	事前 前回の課題の左手の和音の構成音を確認する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第7回	メロディー奏と拍子・リズムに合わせた伴奏付け	事前 カデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題のいろいろな伴奏形態を意識して反復練習をする。	30分 60分
第8回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第9回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 属七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第10回	長調の課題による伴奏付け	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第11回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第12回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 属七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第13回	短調の課題による伴奏付け	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30分 60分
第14回	これまでの課題の発展した左手の伴奏形態の演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。	30分 60分
第15回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 事後 発表時に気付いた改善点を修正する。	70分 20分

フィードバック 授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60%
試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考 欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

鍵盤和声 I -2b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 中島範子

科目コード: SLF104

専門/学年: 全専門/1 年次

形態: 演習

単位数: 1 単位

概要 前期で習得した技法を基に、移調、転調を含めた課題を実習する。初見奏、弾きうたいを体験し、実習の場で応用できるよう実践する。

到達目標 コードネームの理解を深め、移調奏、転調を含めた伴奏付けが出来るようにする。

授業計画

第 1 回	前期の復習 ① 左手コードの確認	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 2 回	前期の復習 ② 移調奏	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 3 回	初見奏 ① 予見	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。	30 分 60 分
第 4 回	初見奏 ② 演奏時の注意	事前 手近な楽譜で読譜する。 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。	30 分 60 分
第 5 回	様々な教材（童謡）による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 6 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 副七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 7 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 副七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 8 回	弾き歌い ① 伴奏形を考える	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 9 回	弾き歌い ② 歌いながらの伴奏付け	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 10 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音について	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 11 回	様々な教材（唱歌）による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 12 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 13 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音の転回形を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。	30 分 60 分
第 14 回	総合演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。	30 分 60 分
第 15 回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 事後 反省点を振り返る。	70 分 20 分

フィードバック 授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60%
試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考 欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ伴奏法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：PLE201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では、主に声楽作品（歌曲、合唱曲）を取り上げ、次の観点からアプローチをおこなう。
 ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する。
 ②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考える。

到達目標 実際のピアノ伴奏の現場で役立つ数々の事柄の習得を目指す

授業計画 第1回から第6回までは、これまでの演奏経験を思い出しながら、「伴奏とはそもそもどんなものであったか」を起点に、伴奏の普遍的な価値について再考察する。第7回以降は、『ピアノ共演法』の本を読みながら歌曲、合唱曲、オーケストラ伴奏についての概論を講義する。様々な作品の曲の解釈、演奏法などに踏み込んでいく。

第1回	全15回の講義内容計画の説明。 伴奏者の役目についての考察。	事前 自身の伴奏体験談をまとめる。 事後 授業内容の復習。	135分 135分
第2回	伴奏法概論(1) 伴奏とはなにか、伴奏はなんのためにあるのか。	事前 これまでの音楽活動の中で抱いた伴奏に関する疑問、悩みを総括し、まとめてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第3回	伴奏法概論(2) 伴奏と室内楽の違いは何か。	事前 これまで当たり前に使ってきたアンサンブル用語を書き出し、その意味を再考してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第4回	伴奏法概論(3) ブランデンブルク協奏曲からみる様々な「伴奏」の形。	事前 バッハの「ブランデンブルク協奏曲第5番」を聞いてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第5回	伴奏法概論(4) なぜ歌は伴奏に回ることが少ないのか。	事前 「人の声」の音楽全般におけるポジションと、その変遷について調べ、考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第6回	伴奏法概論(5) 歌が伴奏に回る例、西洋音楽以外での歌と伴奏の形。	事前 作品の中の一部でも歌が伴奏に回る例がある作品はどんなものがあるかを調べてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第7回	ピアノ伴奏・実践編(1) 基本の確認 咄嗟の時に優先する手は？目で見て合わせる？自由に移調できるようになるには？	事前 伴奏では何が求められ、それを実現するためにはどうすれば良いかを考えてくる。 事後 実際に例で取り上げたコッツやトレーニングを毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135分 135分
第8回	ピアノ伴奏・実践編(2) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第1章～第2章 共演ピアニストの役割、呼吸するとはどういうことか。	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第1章～第2章を読んでくる 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第9回	ピアノ伴奏・実践編(3) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章 歌曲伴奏における3大要素「ブレス」「発音」「抑揚」	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章を読んでくる 事後 授業で触れた曲について、「ブレス」「発音」「抑揚」の観点からそれぞれの特徴を掴む。	135分 135分
第10回	ピアノ伴奏・実践編(4) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第3章 狂気のベスから考察する抑揚の意味と3つの方針。	事前 もし歌や伴奏から抑揚を一切排したらどうなるかを考え、そのような作品があるか探す。 事後 授業で取り上げた曲を聴き、歌詞の意味と表現の関連性を再確認する。	135分 135分
第11回	ピアノ伴奏・実践編(5) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第4章 テキストの構造と音楽における「接続」	事前 音楽の「接続」とは何かを考えてくる。 事後 「接続」を意識して、毎日の楽器練習を行ってみる。	135分 135分
第12回	ピアノ伴奏・実践編(6) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第4章 音で複数の登場人物を表現するには。	事前 音楽で複数の登場人物を弾き分けるにはどうすればよいかを考え、まとめてくる。 事後 授業で取り上げた弾き分けのテクニックを、毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135分 135分
第13回	ピアノ伴奏・実践編(7) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第5章 前奏、間奏、後奏を制する。	事前 前奏、間奏、後奏を弾くときの大切なポイントとは何かを考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135分 135分
第14回	ピアノ伴奏・実践編(8) 総集編 合唱幻想曲を伴奏の観点から分析してみよう。	事前 これまで授業の中で取り上げた作品を復習し、専門用語を自由に使えるよう再確認する。 事後 プリントの穴埋めの確認。ベートーヴェンの「合唱幻想曲」を聴き返し、弾いてみる。	135分 135分
第15回	まとめと感想レポート作成	事前 講義全般の感想レポートの内容を考えてくる。 事後	270分 分

フィードバック 感想レポートについてはコメントをつけて返却を行う。

成績評価 授業への取り組み方、授業態度、感想レポートによる。

テキスト ”参考資料”マーティン・カツ著『ピアノ共演法』
 他は授業内に指示する。
 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノ特殊講義

講師 倉地恵子

科目コード：PLE202

専門/学年：ピアノ専門/2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	よく知られたピアノ名曲の演奏法をとりあげる。その作曲家、作品の背景について学び、音楽的理解を深める。また、楽譜の読み方や演奏時の具体的な運指、手の使い方など、技術的問題を考察する。

到達目標	名曲の演奏や指導を求められる機会に、対応できるようにする。
------	-------------------------------

授業計画 前半は名曲の演奏法が中心。後半は子どもへの教育法を講義する。並行して最後の発表での準備も進めていく。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	全 15 回の講義内容計画の説明。 演奏者と指導者の役割についての考察。	これまでの指導体験をまとめる。	授業内容の復習。	135 分
第 2 回	バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻 第 1 番 プレリュード 和声について	事前 バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻 第 1 番 プレリュードの譜読みをしてく	事後 和声の表を完成させる。	135 分
第 3 回	モーツァルト ソナタ ハ長調 K.545 第 1 楽章 終止形について	事前 モーツァルト ソナタ ハ長調 K.545 第 1 楽章の譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 4 回	モーツァルト トルコ行進曲 スタイルについて	事前 モーツァルト トルコ行進曲の譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 5 回	ベートーヴェン エリーゼのために 名曲の背景について	事前 ベートーヴェン エリーゼのためにの譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 6 回	ベートーヴェン ソナタ 第 14 番 月光より 第 1 楽章 レガート奏法について	事前 ベートーヴェン ソナタ 第 14 番 月光より 第 1 楽章の譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 7 回	ショパン 小犬のワルツ 作品 64-1 指使いについて	事前 ショパン 小犬のワルツ 作品 64-1 の譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 8 回	シューマン こどもの情景より 第 7 曲 トロイメライ フレーズについて	事前 シューマン こどもの情景より 第 7 曲 トロイメライの譜読みをしてくる。	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 9 回	ドビュッシー 前奏曲集 第 1 巻より 第 8 曲 亜麻色の髪の乙女 ペダリングについて	事前 ドビュッシー 前奏曲集 第 1 巻より 第 8 曲 亜麻色の髪の乙女の譜読みをしてく	事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分
第 10 回	子どもの教育 教材について 連弾 楽しむことと鑑賞すること	事前 様々な子ども用教材を調べる。	事後 講義で扱った連弾の曲の先生用パートを弾いてみる。	135 分
第 11 回	子どもの教育 ブルグミュラー 25 の練習曲	事前 ブルグミュラー 25 の練習曲より数曲、弾いてくる。	事後 子どもに手本をみせるべく実際に弾いてみる。	135 分
第 12 回	子どもの教育 ソナチネアルバム(1)	事前 ソナチネにはどのようなものがあるのかを調べてくる。	事後 ソナチネの成立と発展について復習してくる。	135 分
第 13 回	子どもの教育 ソナチネアルバム(2)	事前 ソナチネアルバムから 1 曲を弾いてくる。	事後 指導時の注意点をまとめる。	135 分
第 14 回	子どもの教育 ソナチネアルバム	事前 ソナチネアルバムから 1 曲を弾いてくる。	事後 指導時の注意点をまとめる。	135 分
第 15 回	まとめと発表	事前 発表の準備。	事後	270 分

フィードバック	レポートについてはコメントをつけて返却を行う。
---------	-------------------------

成績評価	授業への取り組み方、授業態度、最終授業での発表、レポートで評価する。
------	------------------------------------

テキスト	”参考資料”各自で上記の楽譜を用意すること。
------	------------------------

オフィスアワー	授業後教室にて
---------	---------

アクティブ・ラーニング・学生同士で模擬レッスンを行い、指導する立場になったときに、どのような工夫が出来るか、これまでの各々の経験をどのように生かせるか、話し合う。
・様々な演奏を動画で視聴し、異なる演奏解釈や奏法、個性について意見交換を行う。

備考 最終授業の発表とは、授業の中での模擬レッスンで担当した曲を一人一曲演奏する。演奏の番でない学生は全員、一人一人の演奏について「良い点」「悪い点」を具体的に上げながら、アドバイスをレポートを書いていく（演奏している本人への開示は行わない）。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ピアノアンサンブル I-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN101

専門/学年：ピアノ専門/1年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 ピアノソロ曲で音の響きを聴く力とハーモニー・フレーズ・音のバランスを感じとる力を身につける。

到達目標 アンサンブルに必要である敏感な耳を養うことを目標とする。

授業計画 前期 12 回、各人 50 分の個人指導、および 3 回のグルーブレッスン
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	音の響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	事前	ピアノの前身の楽器を調べる	80 分
		事後	ピアノの歴史を調べ音色の変遷を意識する	80 分
第 2 回	音の響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	事前	ピアノの構造を調べる	80 分
		事後	打鍵のしくみを調べる	80 分
第 3 回	音の響きを聴く練習(3) ハーモニー感について	事前	ペダルの構造を調べる	80 分
		事後	ペダル装置の進化を考える	80 分
第 4 回	音の響きを聴く練習(4) 全体の響きを聴く	事前	ペダルの使い方を考える	80 分
		事後	ペダルの踏み方を考える	80 分
第 5 回	グルーブレッスン パートナーとの音色の合わせ方について	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	80 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80 分
第 6 回	ハーモニー感を養う(1) 強弱について	事前	バロック・古典派の作品を聴き、強弱について考える	80 分
		事後	ロマン派の作品を聴き、強弱について考える	80 分
第 7 回	ハーモニー感を養う(2) 和声について	事前	バロック・古典派の作品を聴き、和声について考える	80 分
		事後	ロマン派の作品を聴き、和声について考える	80 分
第 8 回	ハーモニー感を養う(3) 全体のハーモニー感について	事前	印象派・近現代の作品の技法を調べる	80 分
		事後	近現代の作品の特性を考える	80 分
第 9 回	グルーブレッスン フレーズ感を養う(1) 旋律の歌い方	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	80 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80 分
第 10 回	フレーズ感を養う(2) 音色について	事前	様々な楽器の音色を聴く	80 分
		事後	様々な楽器の音色に近づけた音が出せる様に、タッチの研究をする	80 分
第 11 回	フレーズ感を養う(3) 強弱について	事前	オーケストラの音色を聴く	80 分
		事後	オーケストラの響きが出せる様にタッチの研究をする	80 分
第 12 回	フレーズ感を養う(4) 表現について	事前	オーケストラの表現方法を感じとる	80 分
		事後	オーケストラのそれぞれの楽器が表現しているようにピアノで演奏できる様に練習をする	80 分
第 13 回	グルーブレッスン 呼吸をあわせる練習(1) 響きを感じる	事前	グルーブレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる	80 分
		事後	グルーブレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80 分
第 14 回	呼吸をあわせる練習(2) 旋律を感じる	事前	腹式呼吸について考える	80 分
		事後	胸式呼吸について考える	80 分
第 15 回	呼吸をあわせる練習(3) フレーズ感をあわせる	事前	右手と左手で同じ旋律のほし渡しをする練習をする	80 分
		事後	担当教員と同じようにフレーズをおさめる練習をする	80 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

アクティブ・ラーニング 3 回のグルーブレッスンを通して、お互いの曲、表現や技術面について自由に意見を述べ合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノアンサンブル I-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN102

専門/学年：ピアノ専門/1年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 担当教員とモーツァルトとシューベルトの連弾作品を演奏し、担当教員の奏でる音や呼吸を感じとる力を身につける。

到達目標 バランス・ハーモニー・リズム・フレーズを感じる能力を醸成することを目標とする。

授業計画 後期12回、各人15分の個人指導、および3回のグルーブレッスン
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第1回	呼吸をあわせる練習(4) ハーモニーを感じる	事前 自分が演奏したハーモニーを瞬間的に感じる練習をする 事後 担当教員が演奏したハーモニーを瞬間的に感じとる練習をする	80分 80分
第2回	音のバランスをとる練習(1) 音色に関して	事前 ソロの曲で右手と左手のバランスをとる練習をする 事後 様々な音色を出すためのタッチを考え、様々な音を出せる様に練習をする	80分 80分
第3回	音のバランスをとる練習(2) 強弱に関して	事前 pで細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする 事後 fで細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする	80分 80分
第4回	グルーブレッスン 全体のバランス	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80分 80分
第5回	音のバランスをとる練習(3) 和声に関して	事前 pでバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする 事後 fでバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする	80分 80分
第6回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(1) 音色について	事前 モーツァルトの連弾曲を調べ、1曲を選び読譜をする 事後 モーツァルトの連弾曲の音色を考えながら練習をする	80分 80分
第7回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(2) 和音について	事前 モーツァルトの連弾曲の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	80分 80分
第8回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(3) 様式について	事前 形式を考え、練習をする 事後 奏法を考え、練習する	80分 80分
第9回	グルーブレッスン 表現について	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80分 80分
第10回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(4) 仕上げ	事前 立体感のある演奏か確認をして、練習をする 事後 バランスを確認して、練習をする	80分 80分
第11回	担当教員とシューベルトの連弾曲(1) 音色について	事前 シューベルトの連弾曲を調べ、1曲を選び読譜をする 事後 シューベルトの連弾曲の音色を考え、練習をする	80分 80分
第12回	担当教員とシューベルトの連弾曲(2) ハーモニーについて	事前 シューベルトの連弾曲の和声機能を調べる 事後 シューベルトの連弾曲の和声機能を感じる	80分 80分
第13回	グルーブレッスン フレーズ感について	事前 グループレッスンで演奏する曲の練習、または演奏される曲の背景を調べる 事後 グループレッスンでの演奏とディスカッションの内容を復習する	80分 80分
第14回	担当教員とシューベルトの連弾曲(3) バランスについて	事前 立体感のある演奏ができるように練習をする 事後 バランスを確認しながら、練習をする	80分 80分
第15回	担当教員とシューベルトの連弾曲(4) 仕上げ	事前 曲のキャラクターを考えて、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究する	80分 80分

フィードバック 授業内での課題に対してコメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

アクティブ・ラーニング ・アンサンブルを通して、相手の音色、音楽性を感じ取る
・2人でディスカッションを重ねながら、曲の音楽表現を探る

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用					意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノアンサンブルⅡ-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN201

専門/学年：ピアノ専門/2年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 2台ピアノによる学内演奏会において、2台ピアノならではの音の響きを感じとり、表現力が溢れる演奏を目指す。

到達目標 2台ピアノという離れた状態の中、互いの息づかいや音楽を感じとる力を身につける。

授業計画 前期 15回、各人 15分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	2台ピアノと連弾の違いを感じとる	独奏から連弾へ編曲された曲を探し、聴く	連弾から二台ピアノへ編曲された曲を探し、聴く	80分
第2回	2台ピアノの響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	連弾で単音の響きを聴く	二台ピアノで単音の響きを聴く	80分
第3回	2台ピアノの響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	連弾で様々な和音の響きを聴く	二台ピアノで様々な和音の響きを聴く	80分
第4回	2台ピアノの響きを聴く練習(3) 全体の響きを聴く	連弾でカデンツの響きを聴く	二台ピアノでカデンツの響きを聴く	80分
第5回	息づかいを感じる練習(1) 曲の開始部	2人の呼吸をあわせる練習をする	2人の打鍵のスピードをあわせる練習をする	80分
第6回	息づかいを感じる練習(2) フレーズ感	フレーズ感をもって旋律を演奏できる様に練習をする	相手のフレーズ感と同じように演奏できる様に練習をする	80分
第7回	息づかいを感じる練習(3) テンポ感	様々なテンポで練習をする	相手のテンポを感じ、相手のテンポ感にあわせる練習をする	80分
第8回	学内演奏会の曲—響きを聴く(1) 和音—	楽語を調べ、意識をして読譜をする	読譜の確認をする	50分
第9回	学内演奏会の曲—響きを聴く(2) 全体—	作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする	和音の響きを聴き、立体感のある演奏か確認をする	80分
第10回	学内演奏会の曲—バランスを聴く(1) 和音—	自分のパートの和声機能の確認をして、練習をする	相手のパートの和声機能の確認をして、練習をする	80分
第11回	学内演奏会の曲—バランスを聴く(2) 全体—	相手のパートの読譜をする	第1、第2ピアノの楽譜を縦に読譜をして、響きの確認をする	80分
第12回	学内演奏会の曲—息づかいを感じる(1) フレーズ感—	アーティキュレーション・スラーの確認をして、練習をする	相手と同じフレーズ感をもって演奏しているか確認をする	80分
第13回	学内演奏会の曲—息づかいを感じる(2) テンポ感—	自分が演奏したいテンポを探す	相手のテンポ感を確認し、演奏するテンポを決定する	80分
第14回	学内演奏会の曲—呼吸をあわせる 旋律の歌い方—	相手のパートの旋律の練習をする	第1、第2ピアノの楽譜を縦に読譜して、旋律の練習をする	80分
第15回	学内演奏会の曲—仕上げ—	2人で曲のイメージをしっかり捉えて、演奏をする	ホールの響きを意識して、演奏をする	80分

フィードバック 学内演奏会での演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノアンサンブルⅡ-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN202

専門/学年：ピアノ専門/2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 担当教員との 2 台ピアノの作品を演奏することで、表現力を養う。

到達目標 2 台ピアノの作品で音楽の豊かな広がりを体感し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。

授業計画 後期 15 回、各人 15 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	担当教員と 2 台ピアノの曲	事前	事後	80 分
第 1 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(1) 旋律の歌い方	読譜をし楽語を調べる	担当教員の旋律の歌い方を想い出し、同様に演奏できるようにする	80 分
第 2 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(2) ハーモニー感	和声機能の確認をして練習をする	作曲の背景を調べる	80 分
第 3 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(3) リズム感	舞踏音楽の歴史・リズムを調べ、練習をする	民族音楽の歴史・リズムを調べ、練習に活かす	80 分
第 4 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(4) 形式・様式に関して	形式を考えて、練習をする	作曲家に及ぼした影響を考える	80 分
第 5 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(5) 細かいタッチに関して	演奏方法、タッチを考えて、練習をする	担当教員のタッチにあわせる練習をする	80 分
第 6 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(6) ニュアンスに関して	曲のキャラクターを考えて、練習をする	作曲家の要求しているニュアンスと担当教員のニュアンスを考え、練習をする	80 分
第 7 回	2 台ピアノの表現力を養う(1) 解釈について	掘り下げた読譜をする	相手の表現している音楽、解釈を感じとる練習をする	80 分
第 8 回	2 台ピアノの表現力を養う(2) 和音感	和音の色彩感を感じとる練習をする	和音のひろがりを感じとる練習をする	80 分
第 9 回	2 台ピアノの表現力を養う(3) 強弱法	コントラストのつけ方を考え練習をする	バランスを考える	80 分
第 10 回	2 台ピアノの表現力を養う(4) 音色について	細かい音色を考え、練習をする	相手の細かい音色にあわせる練習をする	80 分
第 11 回	2 台ピアノの表現力を養う(5) より深い音楽表現	独自の音楽表現を研究する	作曲家の要求している音楽を考えて、練習をする	80 分
第 12 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(1) ピアノのふたを半開状態で	ピアノのふたを半開状態で和音を弾き音の広がりを感じとる練習をする	ピアノのふたを半開状態で細かいパッセージを演奏し、音の広がりを感じとる練習をする	80 分
第 13 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(2) ピアノのふたを全開状態で	ピアノのふたを全開状態で和音を弾き、音の広がりを感じとる練習をする	ピアノのふたを全開状態で細かいパッセージを演奏し、音の広がりを感じとる練習をする	80 分
第 14 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(3) ピアノの位置を変える	相手のパートの練習をする	第 1 ピアノの右手と第 2 ピアノの左手の練習をする	80 分
第 15 回	2 台ピアノの音色の豊かな広がりを感じとる(4) 仕上げ	全体の曲の流れを楽譜から感じとる練習をする	楽譜を見て音楽が頭の中に入っているか確認をする	80 分

フィードバック 授業内での課題に対してコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。(各担当教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽合奏 I-1a・II-1a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード： IEN101/ IEN201

専門/学年： 器楽専門/1~2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合における技術的な事（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学ぶ。

到達目標	初対面同士でコミュニケーションも図りながら共に音楽をまとめ上げていけるようにする。
------	---

授業計画

- 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
- 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	自己紹介、グループ分け	自己紹介の仕方を練習する	グループメンバー内の連絡方法を定める	50 分
第 2 回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	《個人練習》譜読み	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	《個人練習》部分練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	《個人練習》全体練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 5 回	上記楽曲の仕上げ	《グループ練習》全体練習（仕上げ）	《グループ練習》復習し理解を深める	60 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	《個人練習》譜読み	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 7 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	《個人練習》部分練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 8 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	《個人練習》全体練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 9 回	上記楽曲の仕上げ	《グループ練習》全体練習（仕上げ）	《グループ練習》復習し理解を深める	60 分
第 10 回	小発表会	《グループ練習》ゲネプロ	個人練習・反省点を振り返る	80 分
第 11 回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	グループ毎に集まり反省点を振り返る	新しいグループの連絡方法を定める	50 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	《個人練習》譜読み	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 13 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	《個人練習》部分練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 14 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	《個人練習》全体練習	《個人練習》復習し理解を深める	50 分
第 15 回	前期のまとめ	《グループ練習》全体練習（仕上げ）	《グループ練習》復習し理解を深める	60 分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスや模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽合奏 I -2a・II-2a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード： IEN102/IEN202

専門/学年： 器楽専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 前期よりも難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。

到達目標 自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。
共に音楽を作る楽しみを味わえるようにする。

授業計画
・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。

第1回	上記楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第2回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第3回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第4回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60分 40分
第5回	櫻樹祭演奏会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	80分 20分
第6回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会用グループ分け	事前 グループ毎に集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を定める	50分 50分
第7回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第8回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第9回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第10回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60分 40分
第11回	上記楽曲とは時代が異なり、 難易度も高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第12回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第13回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50分 50分
第14回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60分 40分
第15回	発表会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 一年で学んだことを振り返る	80分 20分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスや模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

知識・技能・理解		知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働性	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽合奏 I-1b・II-1b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード：IEN101/IEN201

専門/学年：器楽専門/1~2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合における技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	--

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。
------	---

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション、第一回発表会のグループ分けとパート調整	希望のパートがあれば考えておく	次回楽曲の譜読みをしておく	20分 80分
第2回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第3回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	他のパートとの調和を考えながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第4回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第5回	上記楽曲の仕上げ	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく	指摘のあった個所の反復練習と次回楽曲の譜読みをしておく	50分 50分
第6回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第7回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	他のパートとの調和を考えながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第8回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第9回	上記楽曲の仕上げ	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく	指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50分 50分
第10回	第一回発表会	発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 80分
第11回	発表会の反省、櫻樹祭演奏会のグループ分けとパート調整	発表会の反省点をまとめておく	次回楽曲の譜読みをしておく	20分 80分
第12回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第13回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	他のパートとの調和を考えながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第14回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく	指摘のあった個所の反復練習をしておく	50分 50分
第15回	上記楽曲の仕上げ・後期の予告	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく	指摘のあった個所の反復練習と器楽合奏-2bで研究する楽曲の譜読みをしておく	50分 50分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽合奏 I-2b・II-2b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード： IEN102/ IEN202

専門/学年： 器楽専門/1~2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合における技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	--

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。
------	---

第 1 回	第 1 回演奏会の反省、及び器楽合奏-1b で研究した楽曲より高難度の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 5 回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習と次回曲の譜読みをしておく	50 分 50 分
第 6 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 8 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 9 回	櫻樹祭演奏会	事前 櫻樹祭演奏会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50 分 50 分
第 10 回	櫻樹祭演奏会の反省と第 2 回発表会のグループ分けとパート調整	事前 櫻樹祭演奏会の反省点をまとめておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 15 回	第 2 回演奏会、及び反省	事前 発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%
発表会等の演奏内容 50%

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働性	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽合奏 I-1・II-1 (ハーブ)

非常勤講師 井田美幸

科目コード：IEN101/IEN201

専門/学年：ハーブ専門 1~2 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを学習し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。前期はハーブパートを学習し、アンサンブルではハーブ数台によるアンサンブルを実習する。

到達目標	ハーブパートの学習において、正確な読譜力、楽曲の解釈を学び、ハーブ数台によるアンサンブルの学習では息のあった演奏をするために必要な呼吸の合わせ方、フレージング、バランス等を習得する。
------	---

授業計画	ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを 5 曲程度学習し、11 月の桜樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。
------	--

回数	課題	事前	事後	評価
第 1 回	ハーブ・メンテナンス I 調弦、弦の管理、日々の手入れ	モルナール教則本	自宅の楽器で実践	50 分
第 2 回	ハーブ・メンテナンス II アイリッシュ・ハーブ、グランドハーブの構造、歴史、楽器の移動の仕方	モルナール教則本	自宅の楽器で確認	50 分
第 3 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 4 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 5 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 6 回	課題曲 I ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 7 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 8 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 9 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 10 回	課題曲 II ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 11 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 12 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	和声、テンポ、フレージングを考え練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 13 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル アンサンブル実習	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 14 回	課題曲 III ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 仕上げ	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	レッスンでの注意点を練習	50 分
第 15 回	課題曲 IV ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	楽語を調べ、譜読み	レッスンでの注意点を練習	50 分

フィードバック 授業内でのコメント

成績評価 授業への取り組み

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

器楽合奏 I-2・II-2 (ハーブ)

非常勤講師 井田美幸

科目コード：IEN102/IEN202

専門/学年：ハーブ専門/1~2 年次

形態：実習

単位数：1 単位

概要 後期では、ハーブ数台によるアンサンブルに加え、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを実習する。11月の櫻樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。

到達目標 ハーブ以外の楽器とのアンサンブルではお互いの楽器の特徴を理解し、お互いの音色を生かしながら音楽を作り上げていくことを目標とする。

授業計画 ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを5曲程度学習し、11月の櫻樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。

第1回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前	和声、テンポ、フレージングを考え練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第2回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	アンサンブル実習	事前	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第3回	課題曲Ⅳ	ハーブ以外の楽器とのアンサンブル	仕上げ	事前	共演者とひとつの音楽を作り上げていく	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第4回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第5回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第6回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第7回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第8回	課題曲ⅠⅡⅢⅣ	合同レッスン	お互いのアンサンブルを聞き合い感想を述べ合う	事前	共演者とのアンサンブル練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第9回	櫻樹祭ハーブコンサートに向けてのリハーサル			事前	コンサートでの出入りなどのステージマナーの練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第10回	コンサートの復習、反省点の確認			事前	コンサートでの良かった点、悪かった点をまとめる	50分
				事後	来年度のコンサートに向けて改善点を確認	50分
第11回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	個人パートの譜読み	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第12回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第13回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	アンサンブル実習	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第14回	課題曲Ⅴ	ハーブ数台によるアンサンブル	仕上げ	事前	コンサートでの改善点を生かした練習	50分
				事後	レッスンでの注意点を練習	50分
第15回	まとめと復習	来年度の計画と目標の確認		事前	来年度の抱負	50分
				事後	来年度に向けての準備	50分

フィードバック 授業内でのコメント、及びコンサート終了後に口頭で講評する

成績評価 授業への取り組み、コンサート時の演奏内容で評価

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

副科ピアノ-1

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND103

専門/学年：器楽・声楽専門/1~2年次

形態：実技

単位数：1単位

概要 ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得する。

到達目標 基礎テクニックを身につけ、調性感を養うことを目標とする。

授業計画

前期 15回 各人 20分の個人指導
 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。
 1年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。

第1回	基礎的な事の確認(1)－姿勢－	事前 ピアノの構造を調べる 事後 良い姿勢で演奏しているか確認をし、椅子の高さを考え、練習をする	105分 105分
第2回	基礎的な事の確認(2)－打鍵－	事前 1本ずつ指が独立しているか確認をして、練習をする 事後 鍵盤の下までしっかり打鍵しているか確認をして、練習をする	105分 105分
第3回	基礎的な事の確認(3)－運指－	事前 運指の基本を考える 事後 様々な調性のスケールの運指の確認をして、練習をする	105分 105分
第4回	基礎的な事の確認(4)－読譜－	事前 ヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする 事後 ト音記号とヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする	105分 105分
第5回	C dur の音階の運指の確認	事前 C dur の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 C dur の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105分 105分
第6回	C dur でカデンツの定型を確認	事前 C dur のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105分 105分
第7回	a moll の音階の運指の確認	事前 a moll の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 a moll の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105分 105分
第8回	a moll でカデンツの定型を確認	事前 a moll のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105分 105分
第9回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105分 105分
第10回	課題に出ている音階のカデンツ練習	事前 課題の音階とカデンツの練習をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105分 105分
第11回	前期演奏試験曲(1)――読譜――	事前 試験曲を決める 事後 試験曲の正確な読譜をする	105分 105分
第12回	前期演奏試験曲(2)――リズム・ハーモニー――	事前 正確なリズムで演奏できるように練習をする 事後 ハーモニーを確認して、演奏をする	105分 105分
第13回	前期演奏試験曲(3)――強弱・表現――	事前 楽譜に書かれている指示されている事の確認をする 事後 表現しようと思っている音楽になっているかを確認する	105分 105分
第14回	前期演奏試験曲(4)――テンポ――	事前 ゆっくりとしたテンポで練習をする 事後 テンポをあげて練習をする	105分 105分
第15回	仕上げ	事前 暗譜の確認をする 事後 テンポが安定しているか確認をしながら、練習をする	105分 105分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
 実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
 なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

副科ピアノ-2

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND104

専門/学年：器楽・声楽専門/1～2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 正確な読譜力を身につけ、表現力を養う。

到達目標 対位法や和声感を養い、曲にふさわしい様式感をもって演奏できることを目標とする。

授業計画

後期 15 回 各人 20 分の個人指導
 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。
 副科ピアノ-1 と合わせて、1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。

第 1 回	基礎テクニックを身につける(1)－legato 奏法－	事前 音階を legato で演奏できる練習をする 事後 アルペッジョを legato で演奏できる練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎テクニックを身につける(2)－staccato 奏法－	事前 手首の動きを意識する練習をする 事後 連打の練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎テクニックを身につける(3)－和音の弾き方－	事前 オクターブが力を入れずに演奏できる練習をする 事後 和音がずれないように練習をする	105 分 105 分
第 4 回	和声感を養う(1)－基本的なコード－	事前 様々なコードを演奏し、和音の表情を感じとる練習をする 事後 曲の中で終止形を見つける練習をする	105 分 105 分
第 5 回	和声感を養う(3)－和音の響きを聴く－	事前 ベタルの構造を調べる 事後 ベタルの踏み方を考えながら練習をする	105 分 105 分
第 6 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 7 回	課題に出ている音階のカデンツの練習	事前 課題のカデンツを確認をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 8 回	後期演奏試験曲—読譜の確認—	事前 作品を決め読譜をし、楽譜を調べる 事後 正しい読譜ができているか確認をする	105 分 105 分
第 9 回	後期演奏試験曲—形式—	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える	105 分 105 分
第 10 回	後期演奏試験曲—表現—	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 11 回	後期演奏試験曲—和声感—	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 12 回	後期演奏試験曲—強弱—	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	後期演奏試験曲—音色—	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	105 分 105 分
第 14 回	後期演奏試験曲—フレーズ感—	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ—まとめ—	事前 強弱・コントラストの確認をする 事後 曲のキャラクターの確認をする	105 分 105 分

フィードバック 後期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 学年末試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
 学年末試験にレッスンへの積極的な取り組み等を加味して総合的に評価。
 なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

副科声楽

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND203

専門／学年：ピアノ・器楽専門／2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要 歌唱に必要な基礎技術を習得する。
前期ではエチュードを中心に、後期ではイタリア古典歌曲を中心題材として、言語を伴った声楽の表現法を学ぶ。

到達目標 歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。
それぞれが持つオリジナル楽曲である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性と十分に生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、音楽性を充実させることを目標とする。

授業計画 隔週 20 分の個人指導
コンコーネ他練習曲およびイタリア古典歌曲等を課題とする。

回数	内容	事前	事後	80 分
第 1 回	ガイダンス、年間の学習計画を立てる	事前	コンコーネ 50 番、イタリア古典歌曲集を準備する	80 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜	80 分
第 2 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 1 ストレッチ、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 読譜	80 分
		事後	練習曲①、② 課題曲① の練習	80 分
第 3 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 2 呼吸法、発声法を中心に	事前	練習曲②、③ 課題曲① の練習	80 分
		事後	練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分
第 4 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 1 特に母音、子音の発音を中心に	事前	練習曲③、④ 課題曲① の練習	80 分
		事後	練習曲③、④ 課題曲② の練習	80 分
第 5 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 2 母音、子音の明確化	事前	練習曲④、⑤ 課題曲② の練習	80 分
		事後	練習曲⑤、⑥ 課題曲③ の練習	80 分
第 6 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 3 詩の内容を理解する	事前	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分
		事後	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	80 分
第 7 回	演奏試験に向け課題曲の選曲 課題曲 A 課題曲 B	事前	課題曲 A 及び B の読譜	80 分
		事後	課題曲 A 及び B の練習	80 分
第 8 回	課題曲を学ぶ 1 楽譜の読み方を中心に	事前	課題曲 A 及び B の譜読み	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 発音を中心に練習	80 分
第 9 回	課題曲を学ぶ 2 発音を中心に	事前	課題曲 A 及び B 単語の意味を調べる	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分
第 10 回	試験曲を学ぶ 1 歌唱表現法を中心に	事前	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	80 分
		事後	課題曲 A 及び B 強弱他、気をつけて練習	80 分
第 11 回	試験曲を決める 2 課題（試験）曲を中心に	事前	課題曲 A 及び B 詩の内容を考える	80 分
		事後	試験曲を中心に譜読み練習	80 分
第 12 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 1 呼吸やテンポの合わせ方を中心に	事前	試験曲を発声及び発音に注意して練習	80 分
		事後	試験曲を発声及び発音に注意して練習	80 分
第 13 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 2 暗譜をして歌う	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲を暗譜しながら曲の内容を意識する	80 分
第 14 回	総合演習	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲の暗譜を確実にし内容を深める	80 分
第 15 回	まとめ	事前	試験曲を伴奏者と合わせて練習	80 分
		事後	試験曲を暗譜の上、曲の完成度を高める	80 分

フィードバック 試演会や、後期実技試験により、コメントでフィードバックする。

成績評価 実技演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番
イタリア古典歌曲集等、
担当教員より、授業内にて適宜指示する。

オフィスアワー 各教員の在校時間内（ただしレッスンの時間を除く）
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

フルートオーケストラ I-1・II-1

教授 飯島和久

科目コード： IEN103/IEN203

専門/学年：フルート専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画

- ・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。
- ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

第1回	特殊楽器を紹介・試奏 (ソプラノフルート・アルトフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第2回	特殊楽器を紹介・試奏 (バスフルート・コントラバスフルート)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第3回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (フルートの弱点を知る)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第4回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音合わせの仕方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第5回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第6回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (ユニゾンの音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第7回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (平均律、純正律を学ぶ)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第8回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (2 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第9回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (4 声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第10回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第11回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第12回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (テクニックを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第13回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (バランスを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第14回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (表現を中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第15回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立つ。	105 分 105 分

フィードバック 発表会での教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

フルートオーケストラ I-2・II-2

教授 飯島和久

科目コード： IEN104/IEN204

専門/学年：フルート専門/1~2 年次

形態：実技

単位数：1 単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画		事前		事後		105 分
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習 (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習 (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習 (和音を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習 (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習 (音程を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習 (音色を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習 (バランスを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習 (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習 (仕上げ練習)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 10 回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分	105 分	
		105 分	105 分			
第 15 回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105 分	105 分	
		105 分	105 分			

フィードバック 櫻樹祭コンサート、学外でのコンサート等の演奏会等でのアンケート、また、教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

通奏低音奏法 I-1

非常勤講師 戸崎廣乃

科目コード：IND105

専門／学年： 器楽専門（チェンバロ）／1 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 前期 15 回 各人 20 分の個人指導

回数	内容	事前	事後	80 分
第 1 回	通奏低音とは	通奏低音が用いられた時代について調べておく。	主要な作曲家の楽譜を参照する。	80 分
第 2 回	通奏低音の記譜法を学ぶ	様々な通奏低音の記譜法を調べておく。	時代ごとに整理する。	80 分
第 3 回	基本位置 1 (密集)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 4 回	基本位置 2 (開離)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 5 回	第一転回 1 (密集)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 6 回	第一転回 2 (オクターヴ)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 7 回	第一転回 3 (省略)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 8 回	第一転回 4 (連続して現れる第一転回)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 9 回	第二転回 1 (終止)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 10 回	第二転回 2 (刺繍和音)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 11 回	繋留 1 (最上声部に現れるもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 12 回	繋留 2 (内声に現れるもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 13 回	7 の和音基本位置 1 (5 度音を含むもの)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 14 回	7 の和音基本位置 2 (5 度音を省略できる場合)	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分
第 15 回	7 の和音第一転回 1	事前に和声付けした解答を書いてくる。	手直したものを暗譜する。	80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

通奏低音奏法 I-2

非常勤講師 戸崎廣乃

科目コード：IND106

専門／学年： 器楽専門（チェンバロ）／1 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 バロック時代の作品の根底にある通奏低音を学ぶことにより、それぞれの専門楽器の作品の理解を深める。

到達目標 バロック時代の作品の土台となる通奏低音を理解し、実習を通じて実際の演奏に役立つ知識を身につける。20 分の個人レッスン。

授業計画 後期 15 回 各人 20 分の個人指導

第 1 回	7 の和音第一転回 2 (第 7 音の扱い方)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 2 回	7 の和音第二、三転回 1 (43 の和音)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 3 回	7 の和音第二、三転回 2 (42 の和音)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 4 回	長および短九度、減七 1	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 5 回	長および短九度、減七 2 (特殊な用法)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 6 回	その他の半音階的和音 1 (ナボリの 6)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 7 回	その他の半音階的和音 2 (その他)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 8 回	二重繋留	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直したものを暗譜する。	80 分 80 分
第 9 回	実際の楽曲への応用 1	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 10 回	実際の楽曲への応用 2 (配置を変えてみる)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 11 回	実際の楽曲への応用 3 (省略できる音を検討する)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 12 回	アンサンブルでの実践 1 (後期バロック)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 13 回	アンサンブルでの実践 2 (前期バロック)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 14 回	アンサンブルでの実践 3 (数字がついていない場合)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分
第 15 回	アンサンブルでの実践 4 (総合的実践)	事前 事前に和声付けした解答を書いてくる。 事後 手直した解答を見ずに、通奏低音記号のみを見て演奏する。	80 分 80 分

フィードバック レッスン時間ごとの課題の達成度についてのコメント。

成績評価 課題や授業への積極的な取り組みにより総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー 各教員の出校日、各教員のレッスン室。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

古楽研究「古楽概説」-1

准教授 櫻井茂

科目コード：LEC105

専門/学年： 器楽専門（古楽）/1～2年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。

到達目標 「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画

第1回	「古楽」が意味するもの	事前 「古楽」について自分なりの定義を考える 事後 「古楽」に関する記述を調べる	110分 170分
第2回	「古楽」と「古楽でないもの」	事前 演奏における「正しさ」について考える 事後 「古楽」がどのように捉えられてきたかを整理する	140分 140分
第3回	「古楽器」が意味するものⅠ 管楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような管楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第4回	「古楽器」が意味するものⅡ 弦楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような弦楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第5回	「古楽器」が意味するものⅢ 鍵盤楽器	事前 「古楽器」と呼ばれる楽器のうちどのような鍵盤楽器があるか調べる 事後 それぞれの楽器の特性を整理する	180分 100分
第6回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第7回	音律Ⅰ 音律の基礎	事前 音律について調べる 事後 音律に関する基礎的な事項を整理する	110分 170分
第8回	音律Ⅱ ピタゴラス音律	事前 ピタゴラス音律について調べる 事後 ピタゴラス音律の特性を整理する	180分 100分
第9回	音律Ⅲ 純正律	事前 純正律について調べる 事後 純正律の特性を整理する	180分 100分
第10回	音律Ⅳ 中全音律	事前 中全音律について調べる 事後 中全音律の特性を整理する	180分 100分
第11回	音律Ⅴ 不均等音律	事前 不均等音律について調べる 事後 不均等音律の特性を整理する	180分 100分
第12回	演奏実習 鍵盤楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第13回	言葉と音楽	事前 言葉と音楽の関係に関する自分なりの具体例を考える 事後 言葉と音楽の関係を音楽史的視点から整理する	240分 40分
第14回	修辞学と音楽	事前 マドリガリズムについて調べる 事後 音楽修辞学について整理する	210分 70分
第15回	バッハのカンタータ	事前 バッハのカンタータを聞く 事後 音楽と社会の関わりについて整理する	220分 60分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽研究「古楽概説」-2

准教授 櫻井茂

科目コード：LEC106

専門/学年： 器楽専門（古楽）

形態：講義

単位数：2単位

概要 今日「古楽」という用語はすでに日常的なものとなったが「古乐的」「古楽器風」というように曖昧な、あるいは内容の無い使い方をされることもしばしばである。この授業では、演奏における歴史的認識の重要性と問題点について理解し、歴史的な演奏習慣について具体的に学んだ上で、それを自分自身の演奏に役立てる方法を探究する。

到達目標 「古楽」の持つ複雑さを自分の言葉で整理し、歴史的な演奏習慣について具体的な知識を身につける。さらに、その知識を自分自身の演奏に結びつける姿勢を養う。

授業計画

第1回	装飾法Ⅰ 装飾例の分析	事前 ヘンデルのオペラアリアの演奏を聴き装飾例を調べる 事後 装飾のパターンについて整理する	220分 60分
第2回	装飾法Ⅱ イタリア式装飾	事前 17世紀初期の作品の演奏を聴き装飾例を調べる 事後 イタリア式装飾について整理する	220分 60分
第3回	装飾法Ⅲ フランス式装飾	事前 18世紀フランスの作品の演奏を聴き装飾例を調べる 事後 フランス式装飾について整理する	220分 60分
第4回	装飾法Ⅳ 16,17世紀の文献検討	事前 ディミニュションについて調べる 事後 ディミニュションを実践してみる	140分 140分
第5回	装飾法Ⅴ 18世紀音文献の検討	事前 レオポルド・モーツァルトの「ヴァイオリン奏法」の中の装飾に関する項を読む 事後 様々な装飾を実践してみる	180分 100分
第6回	装飾法Ⅵ 装飾実習	事前 簡単な装飾を考える 事後 装飾によって音楽の方向性がどのように変わるか整理する	210分 70分
第7回	通奏低音Ⅰ カデンツの実習	事前 通奏低音について調べる 事後 実習した課題をもう一度実践してみる	100分 100分
第8回	通奏低音Ⅱ 簡単な楽曲の実習	事前 リアリゼーションを考える 事後 実習した課題をもう一度実践してみる	170分 110分
第9回	演奏実習 弦楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第10回	様々な表現 テンポ・ルバート	事前 いわゆる「古乐的な」演奏について自分のイメージをまとめる 事後 歴史的情報に立脚した演奏表現について考える	110分 170分
第11回	様々な表現 ポルタメント、ヴィブラート	事前 様式感について自分の考えを整理する 事後 いわゆる「古乐的な」演奏について考え方を整理する	140分 140分
第12回	演奏実習 管楽器	事前 実習のための楽曲を選び演奏の準備をする 事後 演奏解釈上の視点について整理する	240分 40分
第13回	アーティキュレーションの諸相	事前 アーティキュレーションについて調べる 事後 演奏における様々なアーティキュレーションの処理について整理する	110分 170分
第14回	フレーズとアーティキュレーション	事前 フレーズについて調べる 事後 演奏におけるフレーズとアーティキュレーションの関係について整理する	110分 170分
第15回	音楽におけるヒエラルキーの概念	事前 ヒエラルキーについて調べる 事後 音楽におけるヒエラルキーについて整理する	110分 170分

フィードバック 授業での課題についてコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 討論への参加姿勢 50%、演奏実習の内容 40%、課題 10%
歴史的情報に対する自分なりのアプローチを重視する。

テキスト アントニー・パートン編 角倉一郎訳『バロック音楽』 音楽之友社

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽合奏 I-1・II-1

准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／非常勤講師 太田光子

科目コード： IEN105／ IEN205

専門／学年： 器楽専門（古楽）／1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。

到達目標 ドイツ及びイタリアのルネサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画

回数	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	ドイツの音楽（課題の提示・検討）	音楽史的知識を整理する。	作曲家と時代背景について調べる。	50 分
第 2 回	ドイツの音楽（課題の資料収集）	他のジャンルの楽曲についても調べる。	課題曲の特質について整理する。	50 分
第 3 回	ドイツの音楽（個人練習）	技術的な問題点を明確にする。	技術的な課題を克服する。	50 分
第 4 回	ドイツの音楽（合奏のための準備）	課題曲の全体的な構造を整理する。	他のパートを意識して演奏できるようにする。	50 分
第 5 回	ドイツの音楽（合奏）	課題曲を確実に演奏できるよう準備する。	前半で問題のある箇所を練習する。	50 分
第 6 回	ドイツの音楽（合奏の問題点を検討）	個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。	全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50 分
第 7 回	ドイツの音楽（仕上げ）	技術的な問題点を整理し克服しておく。	パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50 分
第 8 回	イタリアの音楽（課題の提示・検討）	音楽史的知識を整理する。	作曲家と時代背景について調べる。	50 分
第 9 回	イタリアの音楽（課題の資料収集）	他のジャンルの楽曲についても調べる。	課題曲の特質について整理する。	50 分
第 10 回	イタリアの音楽（個人練習）	技術的な問題点を明確にする。	技術的な課題を克服する。	50 分
第 11 回	イタリアの音楽（合奏のための準備）	課題曲の全体的な構造を整理する。	他のパートを意識して演奏できるようにする。	50 分
第 12 回	イタリアの音楽（合奏）	課題曲を確実に演奏できるよう準備する。	後半で問題のある箇所を練習する。	50 分
第 13 回	イタリアの音楽（合奏の問題点を検討）	個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。	全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50 分
第 14 回	イタリアの音楽（仕上げ）	技術的な問題点を整理し克服しておく。	パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50 分
第 15 回	既習曲の発表（ドイツ、イタリア）	演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。	リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。	50 分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー E メール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

古楽合奏 I-2・II-2

准教授 櫻井茂／非常勤講師 戸崎廣乃／非常勤講師 太田光子

科目コード：IEN106／IEN206

専門／学年： 器楽専門（古楽）／1～2年次

形態：実習 単位数 1単位

概要 ルネサンスからバロックまでの合奏曲演奏の研究。あわせて楽譜・文献の検索方法、専門用語の基礎知識を身につけ、より高度な演奏への基礎作りをする。また、基礎を培った上でヨーロッパ各国の合奏音楽をそれぞれの演奏習慣を踏まえて研究する。演奏における歴史的視点の重要性は今日一般的に認識されるものとなっている。この点から古楽器専門に限らず多くの学生の受講を期待している。

到達目標 フランス及びイギリスのルネッサンスからバロックまでの合奏曲を、それぞれの楽曲の様式を踏まえて相応しい表現方法で演奏すること。

授業計画

第1回	フランスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲家と時代背景について調べる。	50分 50分
第2回	フランスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50分 50分
第3回	フランスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50分 50分
第4回	フランスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第5回	フランスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50分 50分
第6回	フランスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第7回	フランスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50分 50分
第8回	イギリスの音楽（課題の提示・検討）	事前 音楽史的知識を整理する。 事後 作曲家と時代背景について調べる。	50分 50分
第9回	イギリスの音楽（課題の資料収集）	事前 他のジャンルの楽曲についても調べる。 事後 課題曲の特質について整理する。	50分 50分
第10回	イギリスの音楽（個人練習）	事前 技術的な問題点を明確にする。 事後 技術的な課題を克服する。	50分 50分
第11回	イギリスの音楽（合奏のための準備）	事前 課題曲の全体的な構造を整理する。 事後 他のパートを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第12回	イギリスの音楽（合奏）	事前 課題曲を確実に演奏できるよう準備する。 事後 後半で問題のある箇所を練習する。	50分 50分
第13回	イギリスの音楽（合奏の問題点を検討）	事前 個々の部分についての、異なる表現の可能性についても考える。 事後 全体的な流れを意識して演奏できるようにする。	50分 50分
第14回	イギリスの音楽（仕上げ）	事前 技術的な問題点を整理し克服しておく。 事後 パート間の多重的な構造を意識しながら演奏できるようにする。	50分 50分
第15回	既習曲の発表（フランス、イギリス）	事前 演奏会に向けてどのような準備が必要かを考え、適切に準備する。 事後 リハーサルから演奏会までの一連の過程における反省点を整理する。	50分 50分

フィードバック 実技指導の形をとるので、授業の中で随時フィードバックを行う。

成績評価 課題曲への技術的な準備 40%、授業への積極的な取り組み 40%、課題曲についての音楽史的理解 20%。

課題曲それぞれの様式の違いを適切に表現できるようになることを重視する。

テキスト 必要に応じて配布、紹介する。

オフィスアワー Eメール：shigusakurai@pop17.odn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

声楽アンサンブル I・II

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN103/VEN203

専門/学年：声楽専門/1～2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 オペラを歌うために必要な演技法・発声法・呼吸法などを総合的に学ぶ。

到達目標 履修者の演技つき重唱曲を通じ、個々の作曲家、作品の特質に触れながら、その流れを体験できるよう試みる。

授業計画

第1回	オペラの歴史について	事前	オペラの歴史を調べる	120分
		事後	オペラの歴史をより深く学習する	150分
第2回	オペラに必要な姿勢と発声法	事前	オペラの映像資料や文献を各自で調べ、理解を深める	120分
		事後	姿勢、発声法などより深く探求する	150分
第3回	演技の基礎 実際に一人一人に動いてもらい、演技を体感する	事前	ヘンデルのオペラについて研究する	120分
		事後	授業で学んだ演技をより深く学習する	150分
第4回	演技の基礎②	事前	オペラ・ブッフアの作品を各自調べ研究する	120分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し、研究する	150分
第5回	男性役、女性役の場合の異なる動作、動き方	事前	オペラ・セリアの作品を各自で調べ研究する	120分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し各自研究する	150分
第6回	視覚による演技の見え方と演技法	事前	授業で取り上げたモーツァルトのオペラ作品を映像資料などにより深く研究する	120分
		事後	授業で学んだ動き方をより深く研究する	150分
第7回	オペラ重唱曲音楽練習	事前	授業以外のモーツァルトのオペラ作品を各自調べ研究する	120分
		事後	授業で学んだ曲を復習し、くり返し練習する	150分
第8回	オペラ原語付き音楽練習	事前	古典オペラ特にモンテヴェルディ、バーセル、ラモーなどの作品を各自研究する	120分
		事後	授業で学んだ重唱曲の音楽練習及び、原語の言葉の意味を調べる	150分
第9回	オペラ重唱曲、音楽練習総括	事前	ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニのオペラを研究する	120分
		事後	重唱曲の音楽練習の復習	150分
第10回	オペラ重唱曲の演技つけ	事前	ドイツ・オペラを研究する	120分
		事後	授業での重唱曲のオペラ映像資料から演技について研究する	150分
第11回	演技をともなう重唱曲 実践練習① 一組ずつ実際に演技をしながら歌唱を試みる	事前	フランス・オペラコミックとグランド・オペラを研究する	120分
		事後	授業の重唱曲のオペラの演技を研究する	150分
第12回	演技付きオペラ重唱曲実践練習②	事前	ヴェルディのオペラを研究する	120分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながら演技練習する	150分
第13回	演技付きオペラ重唱曲総合練習	事前	ワーグナーのオペラを研究する	120分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながらより深く研究する	150分
第14回	演技付きオペラ重唱曲総合練習まとめ 他者と協力しながら、演技つき歌唱の習得を試みる	事前	イタリア・ヴェリズモ・オペラを研究する	120分
		事後	試験に向けてオペラ重唱曲の演技付き練習を行う	150分
第15回	演技付きオペラ重唱曲の試験 他者と協力しながら演技つき歌唱の更なる習得をめざす	事前	オペレッタ、ミュージカルについて研究する	120分
		事後	試験で歌ったオペラ重唱曲の個々の演奏についてディスカッションする	150分

フィードバック 授業中または授業終了後、希望者に個別に対応する。

成績評価 演技付き演奏試験、授業態度などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング

- ・パントマイム：自身の手をたたく、ぬいぐるみを撫でる、子犬を撫でる、鏡をたたく、触るなどをグループで行う
- ・椅子取りゲーム：座っている学生を何か理由によって立たせる（例えば、病院で呼ばれる、電車で終点まで行き駅員に起こされるなど）グループで行う
- ・演技付きオペラ重唱を演じ、個々の演奏についてディスカッションする。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

声楽特殊演習

教授 細谷美直

科目コード：VEN204

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：演習

単位数：2 単位

概要 日本歌曲の継承と発展を学ぶ。
ドイツ歌曲のはじまりと代表的作品をグループレッソンの形態で演習する

到達目標 初めてドイツ歌曲に取り組む学生に配慮し、ドイツ語の発音を中心に学ぶ
それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める

授業計画 声楽科 2 年生による演習を中心とした授業
各回の授業内容は進度により変更することがある

第 1 回	日本歌曲のはじまり 明治以前の日本のうた～わらべうたの世界～	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 2 回	明治初期 近代音楽教育草創時代	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 3 回	明治後期 文部省 唱歌の誕生	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 4 回	大正時代 「赤い鳥」童謡運動の展開	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 内容の理解を深める	120 分 150 分
第 5 回	昭和初期 童謡の黄金時代	事前 資料を読み、内容を理解する 事後 自分の考えをまとめる	120 分 150 分
第 6 回	ドイツリートのはじまり シューベルトの歌曲①An die Musik	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 発音に注意しながら復習する	120 分 150 分
第 7 回	シューベルトの歌曲②An die Musik 発音の留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 8 回	モーツァルトの歌曲①Das Veilchen 作品の解釈と発音を中心に	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 9 回	モーツァルトの歌曲②Das Veilchen 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 10 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」 鑑賞と作品解説	事前 課題曲について調べる 事後 楽譜を用意し、音取りをする	120 分 150 分
第 11 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」 手紙の二重唱	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 12 回	モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」より 手紙の二重唱の表現の研究	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 13 回	学習したドイツ歌曲の復習	事前 これまでの曲の復習をする 事後 ピアニストと伴奏合わせを重ねる	120 分 150 分
第 14 回	学習したドイツ歌曲、手紙の二重唱の復習	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	120 分 150 分
第 15 回	発表（試験形式）とまとめ	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 録音、録画等を使い演奏を振り返る	120 分 150 分

フィードバック 発表会後に合評し、課題を見つければ後に繋げる。

成績評価 授業への取り組み 40%、演奏 60%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業の前後、教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

民族音楽学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特徴と相互の影響関係について理解を深める。特に「アメリカ」「南アジア」「ヨーロッパ」「東南アジア」という四つの地域を中心にとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	オリエンテーション アフリカ (1) 儀礼と音楽	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 2 回	アフリカ (2) 太鼓の諸相	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 3 回	アフリカ (3) 音楽構造の特徴と原理	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 4 回	アフリカ (4) アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 5 回	南アジア (1) 言語・文化の多様性	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 6 回	南アジア (2) 古典音楽と地方の伝統音楽	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 7 回	南アジア (3) 古典音楽の理論と楽器	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 8 回	南アジア (4) 古典舞踊とポピュラー音楽	教科書の p.95～100 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 9 回	ヨーロッパ (1) ヨーロッパの伝統音楽	教科書の p.42～46 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 10 回	ヨーロッパ (2) スコットランド・アイルランドの音楽文化	教科書の p.47～50 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 11 回	ヨーロッパ (3) スコットランドの音楽様式	教科書の p.51～55 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 12 回	東南アジア (1) 東南アジアの人形芝居と音楽	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 13 回	東南アジア (2) 青銅器の音楽文化	教科書の p.105～109 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 14 回	東南アジア (3) 竹の音楽文化	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	120 分 160 分
第 15 回	総括 理解度確認テスト	第 1 回～14 回までの授業内容の復習	理解が不十分だった箇所を復習する。	220 分 60 分

フィードバック ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
 ・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験 60% プレゼンテーション 20% 小テスト 20%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
 ・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング 少人数のグループに分かれ、プレゼンテーションを行う（発表後、講師がコメント）

備考 ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
 ・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

鍵盤和声Ⅱ-1

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF203

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 楽曲の中に和声を感じとり、音の響きを【聴く】ということ学ぶ授業である。
様々なジャンルの曲を用いて徐々に和音の種類を増やししながら、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を個人レッスン形式で反復して行う。

到達目標 楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。
さらに演奏発表を通して主体性を高め、“人類の共通言語である音楽”を媒体として自己を表現する力を培うことも目指す。

授業計画 授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第1回	ガイダンス 鍵盤和声基礎知識の確認	事前 各調の音階と主和音を確認する。 事後 音の響きについて考察する。	40分 50分
第2回	音階とカデンツ 即興演習	事前 各調のカデンツを確認する。 事後 即興演習の復習をする。	30分 60分
第3回	旋律・和音・リズム 移調奏	事前 リズムについて考察する。 事後 移調奏の復習をする。	30分 60分
第4回	伴奏形について 初見奏	事前 伴奏形について予習する。 事後 伴奏形を復習する。	30分 60分
第5回	数字付低音の説明と和音付け 弾き歌い	事前 和音記号を確認する。 事後 数字付低音・弾き歌いの復習演習を行う。	30分 60分
第6回	伴奏譜にメロディーをつける 主和音と属和音による伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏形を考察する。 事後 伴奏づけの反復演習をする。	30分 60分
第7回	コードネームの説明 主要三和音を用いて伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏づけを行う。 事後 コードネームの復習演習を行う。	30分 60分
第8回	コードネームを用いて与えられた旋律に伴奏をつける	事前 各調の主要三和音を確認する。 事後 コードネーム伴奏づけの反復練習をする。	30分 60分
第9回	モチーフを基に小曲を作る	事前 コードネームを確認し、課題譜を考察する。 事後 メロディーづけの復習演習を行う。	30分 60分
第10回	伴奏形を変えて変奏曲を作る 副三和音を用いての伴奏づけ	事前 課題譜を考察する。 事後 変奏曲の反復演習を行う。	40分 50分
第11回	非和声音について 非和声音を用いての伴奏づけ	事前 副三和音を確認し、課題譜を考察する。 事後 非和声音の確認を行う。	40分 50分
第12回	借用和音について	事前 伴奏形を確認し、課題譜を考察する。 事後 借用和音の確認を行う。	40分 50分
第13回	前期の復習・補足	事前 非和声音について復習し、課題譜を考察する。 事後 伴奏づけの復習演習をする。	40分 50分
第14回	前期総合演習	事前 前期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 前期の総合演習を行い、理解度を深める。	40分 50分
第15回	まとめ	事前 前期の演習課題を総合的に復習する。 事後 前期に学習したことを再確認する。	70分 20分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30%、課題 35%、授業への積極的な取組 35%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

鍵盤和声Ⅱ-2

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要 楽曲の中に和声を感じとり【音の響きを聴く力】を学ぶ授業である。
 様々なジャンルの曲を用い、徐々に和音の種類を増やしながら、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を個人レッスン形式で反復して行う。

到達目標 楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。
 更には演奏発表を通して自らが持つ音楽性を主体的に表現する力を身につけ、修学後も“人類の共通言語である音楽”が、様々なシチュエーションにおけるコミュニケーションスキルとなることも目指す。

授業計画 授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第1回	非和声音を用いて小曲を作る	事前 非和声音について確認する。 事後 非和声音について復習する。	40 分 50 分
第2回	借用和音を用いての伴奏づけ	事前 借用和音を確認する。 事後 伴奏づけの復習をする。	30 分 60 分
第3回	移調奏 弾き歌い	事前 弾き歌いの予習をする。 事後 移調奏、弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第4回	借用和音を用いて主題を基に変奏曲を作る	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第5回	七の和音を用いての数字付低音	事前 数字付低音について確認する。 事後 七の和音を使った数字付低音の復習演習	30 分 60 分
第6回	減七の和音を用いての伴奏づけ	事前 伴奏形を確認し、課題譜の考察をする。 事後 減七の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第7回	主題を基に変奏曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第8回	モチーフを基に小曲を作る	事前 減七の和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 モチーフ奏の復習演習を行う。	30 分 60 分
第9回	ナボリの6の和音についてモチーフを基に小曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 ナボリの6の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第10回	増六の和音について主題を基に変奏曲を作る。	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 増六の和音を確認し、変奏曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第11回	モチーフを基にメロディーを作る	事前 課題譜を考察する。 事後 モチーフ奏の反復演習を行う。	40 分 50 分
第12回	初見奏・弾き歌い・移調奏 主題を基に小曲を作る	事前 課題譜を考察する。 事後 課題を基に小曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第13回	後期の復習・補足	事前 伴奏づけの復習演習を行い、後期に学んだこと考察する。 事後 課題曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第14回	後期総合演習	事前 後期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 後期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第15回	まとめ	事前 これまでの演習課題を総合的に復習する。 事後 学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30%、課題 35%、授業への積極的な取組 35%

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				

音楽療法概論

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

平成9年認定音楽療法士取得以来、発達障害の児童を中心に臨床を行なっている教員が、音楽療法に関する講義と臨床のDVDを観て指導を行う。

講師 中山晶世

科目コード：THE101

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 音楽療法は、病気や障害をもった子ども、成人、高齢者などに対して、近年、社会的な関心が高まっている。また、医学・福祉・教育などと連携して新しい学問、実践の領域として発展が期待されている。音楽療法士養成にあたって音楽療法の知識を学ぶとともに音楽療法とは何かについて考える時間としたい。

到達目標 この時間では、音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。講義を聴く・テキストを読むだけでなく、質疑応答を通して学生で意見を出し合い、より音楽療法を理解し、最終的には「音楽療法とは何か」について各自言語化したり、文章化できることを到達目標とする。

授業計画 授業は、音楽療法の実践に役立つ授業にするために、知識だけでなく、実践と結び付け、DVDで実践現場を観ながら進める。

第1回	第1章 音楽療法の現場風景 自閉症の子どもへの音楽療法	事前 p.2~4「第1章音楽療法の現場の風景」を読む。 事後 第1章の内容の中で分からない用語を書きだし、調べる。	140分 140分
第2回	第2章 音楽療法とは カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法	事前 p.5~8「カジュアルな音楽療法」を読む。 事後 「カジュアルな音楽療法」の例を書きだす。	140分 140分
第3回	第2章 音楽療法とは フォーマルな音楽療法の条件	事前 p.8~27「フォーマルな音楽療法の条件」を読む。 事後 フォーマルな音楽療法の5つの条件の重要な部分を書きだす。	140分 140分
第4回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 聴く音楽療法(受動的音楽療法)のいろいろ	事前 p.28~30「聴く音楽療法」を読む。 事後 授業中に見た「未熟児の音楽療法」のDVDの感想を提出する。	140分 140分
第5回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 する音楽療法(能動的音楽療法)のいろいろ	事前 p.30~42「する音楽療法」を読む。 事後 歌う事、楽器の演奏、即興演奏、身体運動、作曲の中の1つを選びその重要性を提出。	140分 140分
第6回	第4章 音楽療法には効果があるのか 何をもちって効果と呼ぶか、どうやって効果を確かめるか	事前 p.43~46「音楽療法には効果があるのか」を読む。 事後 音楽療法の効果の中の「生理学的方法」と「心理学的方法」について調べる。	140分 140分
第7回	第4章 音楽療法には効果があるのか 数量化できるもの、数量化できないもの	事前 p.46~50「数量化できるもの」「数量化できないもの」を読む。 事後 「量的研究」と「質的研究」について調べる。	140分 140分
第8回	第5章 音楽療法の歴史 古代における音楽と癒し。神話・歴史のエピソードに見る音楽と癒し	事前 p.51~55「音楽療法の歴史」を読む。 事後 古代・神話・歴史のエピソードに関する文献を探す。	140分 140分
第9回	第5章 音楽療法の歴史 近代的音楽療法のはじまりー米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史	事前 p.55~59「近代的音楽療法の始まり」をよむ。 事後 参考文献の「日本の音楽療法の動向」からさらに現在の日本の動向を調べる。	140分 140分
第10回	第6章 音と音楽とことごとからだ 音とは何か・音を聴く・音と音楽・音楽と感情	事前 p.60~69「音と音楽とことごとからだ」を読む。 事後 音とは何か・音と感情・音と音楽について自分の体験を書きだし、提出する。	140分 140分
第11回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ からだへのアプローチ・こころへのアプローチ	事前 p.70~86「からだへのアプローチ・こころへのアプローチ」を読む。 事後 授業中に見た「応用行動分析的アプローチ」のDVDを観て、感想を書き、提出。	140分 140分
第12回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ こころへのアプローチ・社会へのアプローチ	事前 p.86~105「人間主義心理学(ノードフ・ロビンズ音楽療法)」を読む。 事後 授業中に見た「ノードフ・ロビンズ音楽療法」のDVDを観て感想を書き、提出。	140分 140分
第13回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法発展の2つの方向・音楽療法の現場から、音楽について考える。	事前 p.106~115「音楽療法が問いかけること」を読む。 事後 「音楽療法発展の2つの方向」音楽療法と音楽教育について自分の考えを書き、提出。	140分 140分
第14回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を考える。	事前 p.116~120「音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を読む。 事後 「個人の健康」と「社会の健康」について自分の考えを書き、提出。	140分 140分
第15回	第8章 音楽療法が問いかけること まとめ テキスト全域のまとめ 試験	事前 テキスト「音楽療法をまなぶ」全般から質問・疑問点を出す。 事後 テキスト全域および試験の振り返り。	140分 140分

フィードバック レポート等の返却の際、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 筆記試験 60%、授業態度 20%、レポート等の提出 10% 発言・質問等の積極性 10%

テキスト 二俣泉・白川ゆう子・三浦優佳著『新訂増補版 音楽療法をまなぶ』(アカデミア・ミュージック株式会社)
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

児童の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

病院、特別支援学級、特別支援学校などで音楽療法の実務経験を持つ教員が、児童の音楽療法の理論や技術、実践方法などについて授業をおこなう

非常勤講師 鈴木涼子

科目コード：THE102

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 児童に対する音楽療法の実践は、日本においても諸外国においても、音楽療法における重要な領域の一つである。児童に対する音楽療法の理論や実践を知り、児童の意欲を引き出ししながら発達を促進する活動の進め方、活動の創作方法について学ぶ。

到達目標 児童への音楽療法の理論、実践の手順を理解する。児童の意欲を引き出ししながら発達を促進させるための諸技術を学ぶ。

授業計画 講義を中心に、音楽活動の体験、活動の創作などの演習も組み合わせておこなう。

第1回	児童の音楽療法の歴史・概要 児童の音楽療法の対象	事前 児童の音楽療法について知っていること、これから知りたいことを考えて整理する。 事後 授業のノートを振り返り、要点をまとめる。	140分 140分
第2回	ノードフ・ロビンス音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.55-59、p.72-78を読む。 事後 授業で紹介したノードフ・ロビンス音楽療法の楽曲を弾き語りする。	140分 140分
第3回	感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.72-78を読む。 事後 感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法の特徴について振り返る。	140分 140分
第4回	ミュージック・ケア 早産児に対する音楽療法	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.79-87を読む。 事後 ミュージック・ケア、早産児に対する音楽療法の特徴について振り返る。	140分 140分
第5回	応用行動分析に基づく音楽療法 (理論と介入方法、音楽療法への応用)	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.48-53を読む。 事後 授業で扱った音楽療法の活動の手順を振り返り、自分でもできるようにする。	140分 140分
第6回	児童の「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.16-51を読む。 事後 「気づき」・「眼差しの共有」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第7回	児童の「要求行動」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.52-61を読む。 事後 「要求行動」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第8回	児童の「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.62-65、p.76-87を読む。 事後 「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第9回	児童の「行動のコントロール」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.66-75、p.88-91を読む。 事後 「行動のコントロール」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第10回	児童の「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.92-115を読む。 事後 「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140分 140分
第11回	児童の発達を促す曲づくり、活動づくりのポイント	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.126-131を読む。 事後 第11回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140分 140分
第12回	児童の反応を引き出せない時の工夫、児童の介助・支援の方法	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.132-141を読む。 事後 第12回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140分 140分
第13回	児童の発達を促す音楽活動の創作	事前 第1-12回の授業の内容を振り返り、理解を定着させる。 事後 授業中に自分で考えた音楽活動を振り返り、工夫できるところがないか再考する。	140分 140分
第14回	創作した音楽活動の発表、共有	事前 自分で考えた音楽活動を練習する。 事後 他の学生が発表した音楽活動の中から一つを選び、練習する。	140分 140分
第15回	授業まとめ、試験	事前 第1-14回の授業内容を振り返りノートを整理する。 事後 第1-15回の授業内容を振り返り、感想を書く。	140分 140分

フィードバック 授業での課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績 50%、授業中に実施する課題 30%、授業への積極的な取り組み 20%。

テキスト 二俣泉・鈴木涼子著『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』（春秋社）
参照資料：宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る その理論と技法』（杏林書院）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールで対応する。メールアドレスは授業時に伝える。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

思春期・成人の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE104

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 近年、音楽療法の研究は目覚ましく、様々な障害や疾患に音楽が適応され、医療分野でも認められてきている。また、様々な音楽療法において音楽の使い方や目的も異なる。それらの音楽療法を幅広く学び、音楽療法の有効性を考える。

到達目標 音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。この授業では、おもに思春期と成人の音楽療法に関して理解を深める。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を学ぶ。

授業計画 授業は、テキスト内の難解な疾患名や用語等を調べ、理解した上で音楽療法の方法を学びながら進めていく。

第1回	精神科での音楽療法 精神科患者の特質	事前 p.129～130 統合失調症の特質を読む。 事後 精神科病院の音楽療法を見学した感想や疑問を提出。	140分 140分
第2回	精神科での音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.117～128 精神科での音楽療法を読む。 事後 実際の展開・伴奏・プログラムの立て方・配慮点・問題行動の対応についてノートに書き出す。	140分 140分
第3回	慢性疾患の音楽療法 慢性疾患患者の特質	事前 p.168～172 慢性疾患患者の特質を読む。 事後 慢性疾患・急性疾患の差異。慢性疾患患者の心境。生活指導・医療との協同作業についてまとめる。	140分 140分
第4回	慢性疾患の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.172～179 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 音楽療法の適用領域・適用方法・目的・効果をまとめる。	140分 140分
第5回	心身症の音楽療法 心身症患者の特質	事前 p.195・200～201 「心身症患者の特質」を読む。 事後 ストレスによる胃潰瘍や人間関係に悩み円形脱毛症などについて調べる。	140分 140分
第6回	心身症の音楽療法 音楽療法の症例を中心に	事前 p.195～200 「5つの症例」を読む。 事後 摂食障害・高血圧症・肩関節周囲炎・過敏性腸症候群患者に対する音楽療法を学ぶ。	140分 140分
第7回	神経症・うつ状態の音楽療法 神経症・うつ状態患者の特質	事前 p.204～208 「神経症・うつ状態」を読む。 事後 神経症の症状・うつ状態の症状の特質をノートにまとめる。	140分 140分
第8回	神経症・うつ状態の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.208～214 「神経症・うつ状態の音楽療法」を読む。 事後 音楽療法の長所と短所・音楽療法の適応・患者と接する時の注意点をノートにまとめる。	140分 140分
第9回	発達障害の音楽療法 発達障害者の特質	事前 p.131～132 「発達障害者の特質」を読む。 事後 「個人の行動に関する要因」「環境・制度に関する要因」について具体的な例を書き出す。	140分 140分
第10回	発達障害の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.133～154 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 地域の人たちとの交流の機会の提供・余暇活動の機会の提供と指導・不適切な行動の軽減を調べる	140分 140分
第11回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士が向きあう対象者への知識	事前 p.5～12 「音楽療法の実践 総論」を読む。 事後 音楽療法士が対象者に向きあう時の注意点を書き出す。	140分 140分
第12回	音楽療法で行う障害・疾病の理解 音楽療法士としての心構えと責任	事前 p.15～24 「音楽療法士の治療的自我的育成」を読む。 事後 信頼され、人間的に自然体でのぞめるような音楽療法士になるための条件を書き出す。	140分 140分
第13回	認知症予防の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 「認知症予防の音楽療法」について調べる宿題を出してある。 事後 認知症予防の活動例を作成し、提出。	140分 140分
第14回	様々な疾患における音楽療法の効果	事前 「音楽療法の効果」について考える宿題をだしてある。 事後 1つの領域を選び、音楽療法の効果についてレポートを提出。	140分 140分
第15回	授業のまとめ 理解度確認テスト	事前 1～14回の復習をする。 事後 理解度確認テストの振り返り。	140分 140分

フィードバック 提出したノートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 60% 授業態度 20% ノート提出 20%

テキスト 日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下 実践編』（春秋社）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

音楽療法技法-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE107

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 音楽療法では、対象者に合わせることが基本となる。例えば児童の場合、対象児の行動の速度に合わせて音楽の速度を変える。それによって対象児の理解度やセラピストとの関係性も深くなる。高齢者の場合、行動の速度が遅くなる他に声の高さも低くなる。また、音域も狭くなる。従って歌唱では、既成の曲を対象者の音域に合わせたり、速度を遅くすることが必要となる。セラピストは臨機応変に対象者に合わせるよう、努力する。

到達目標 授業の中で模擬セッションを行い、ピアノ担当者はクライアントの歌唱の音域に合わせて演奏したり、楽器演奏の速度に合わせて演奏する。「合わせる」経験を通して音楽療法に必要な、対象者とのコミュニケーションを経験する。

授業計画 楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第1回	音楽療法で使われる楽器の名称・演奏方法を学ぶ。	事前 自分の知っている楽器の名称を楽器表に書き入れる。 事後 音楽療法で使われる楽器を加え、演奏方法を書き入れる。	140 分 140 分
第2回	音楽療法での音楽のあり方を学ぶ。	事前 配布した参考資料「音楽療法での音楽のあり方」を読んでおく。 事後 一般の演奏と音楽療法の音楽の違いをノートにまとめる。	140 分 140 分
第3回	模擬セッション① 既成曲(童謡や唱歌など)でピアノ(セラピスト)楽器(対象者)の1対1の演奏	事前 各自、童謡や唱歌などの既成曲を決め、ピアノの練習をする。 事後 対象者役(楽器)との演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第4回	模擬セッション② 同形式で、対象者のテンポを合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポを合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第5回	模擬セッション③ 同形式で、対象者のテンポ・強弱を合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポと強弱を合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第6回	模擬セッション④ 同形式で、ピアノ伴奏の工夫	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をし、伴奏形を工夫する。 事後 セラピスト役が伴奏を替えることによって対象者役の何が替るのかノートに書きだす。	140 分 140 分
第7回	様々なリズムを組み合わせて1曲(8小節)を完成させる(協同作業)	事前 リズムまたはリズムパターンを考えておく。 事後 できた8小節を楽器で演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第8回	前回作成したリズムに強弱をつけ、楽器で演奏する(協同作業)	事前 前回作成した8小節の曲に強弱をつける。 事後 できた8小節を楽器で強弱をつけて演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第9回	前回作成したリズムにメロディをつけ、歌う(協同作業)	事前 前回作成した8小節の曲に、メロディをつける。 事後 メロディをつけた8小節に歌詞をつける。	140 分 140 分
第10回	セッションで使う「こんにちは」の曲を作曲する(個人)	事前 子どものセッションにふさわしい「こんにちは」の曲を作る。 事後 「こんにちは」の曲を作るにあたっての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第11回	作曲した「こんにちは」を1人ずつ発表する	事前 作曲した「こんにちは」の楽譜を完成させる。 事後 1人ずつの作品について、感想を提出。	140 分 140 分
第12回	即興課題 ドーリア旋法①教会旋法の説明	事前 教会旋法について調べる。 事後 ドーリア旋法について復習する。	140 分 140 分
第13回	即興課題 ドーリア旋法②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でドーリア旋法に慣れる。	事前 ドーリア旋法の復習 事後 ピアノ役2人で連弾し、ドーリア旋法の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第14回	即興課題 ドーリア旋法③1人でピアノ演奏する。	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第15回	即興課題 ドーリア旋法④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 対象者の楽器のリズムに合わせて演奏することを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分

フィードバック 模擬セッションについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及びEメールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽療法技法-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE108

専門/学年：全専門/1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法で使われる音楽には既成音楽と即興音楽があり、対象者によって使い分けが必要となる。また、即興音楽には旋法や音階などの技術が必要である。それらの即興音楽を修得する方法として音楽性・即興性・表現力などを学ぶ。また、後半は、音楽療法で使われる合奏曲を、チームを組んで演奏したり、創作しながら、チームでのコミュニケーションを通して、対象者とのコミュニケーションを学ぶ。
到達目標	即興音楽は、ドーリア旋法・アラビア音階・沖縄音階を、音階楽器・連弾・ソロ演奏・対象者役の人の楽器と一緒に演奏と難易度を上げながら修得する方法で行なう。合奏はチームで合奏を行うだけでなく、チームで話し合い、楽器を決め、役割を決め、練習するまでのプロセスを通して、チームでのコミュニケーションを作ることを目標とする。
授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第 1 回	即興課題 アラビア音階①アラビア音階の説明	事前 アラビア音階について調べる。 事後 アラビア音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 2 回	即興課題 アラビア音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でアラビア音階に慣れる。	事前 アラビア音階の復習。 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	即興課題 アラビア音階③1 人でピアノ演奏	事前 アラビア音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 4 回	即興課題 アラビア音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 アラビア音階の復習 事後 対象者のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 5 回	即興課題 沖縄音階①沖縄音階の説明	事前 沖縄音階について調べる。 事後 沖縄音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 6 回	即興課題 沖縄音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)で沖縄音階に慣れる。	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	即興課題 沖縄音階③1 人でピアノ演奏	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 8 回	即興課題 沖縄音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 沖縄音階の復習 事後 対象者の楽器のリズムを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 9 回	合奏曲を作る(協同作業)① 音楽療法楽器を用いて既成曲(ハンガリア舞曲などの)合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 事後 音楽療法の使用楽器がふさわしかったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 10 回	合奏曲を作る(協同作業)② 音楽療法のメロディ楽器を用いて既成曲(ふるさとなどの)合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作る為の既成曲を決めておく。 事後 既成曲にふさわしいメロディ楽器だったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	合奏曲を作る(協同作業)③ 絵楽譜・色音符楽譜等の視覚的教材を用いて合奏を体験する。	事前 既成曲を決め、どのような視覚教材にするか考えておく。 事後 視覚教材を完成させる。	140 分 140 分
第 12 回	合奏曲を作る(協同作業)④ 既成曲で絵楽譜を用いた合奏曲を作成する。	事前 前回作成した視覚教材を準備する。 事後 演奏し、工夫した面などについてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 13 回	作成した絵楽譜を各グループで発表する。 発表後、意見交換をする。	事前 さらに完成させた視覚教材を準備する。 事後 発表後、意見交換した内容を書きだし、感想を提出。	140 分 140 分
第 14 回	「静かな森の大きな木」(オリジナル曲集を参考資料として配布) グループで話し合い、模擬セッションを考える(協同作業)	事前 あらかじめ参考資料より曲を決めておく。 事後 模擬セッションをするにあたって、工夫した面、難しかった面を書きだす。	140 分 140 分
第 15 回	同模擬セッションをグループごとに発表。	事前 前回決めた曲を使って模擬セッションを準備する。 事後 模擬セッション後、成功した面、反省した面を書きだし、提出する。	140 分 140 分

フィードバック 即興演奏及び合奏でのプロセスについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

臨床心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学教授 石橋明佳

科目コード：NAT103

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	臨床心理学とは、心理的な問題の解決や適応のため、助言・相談や診断・治療、および、その研究を行う心理学の一分野である。人間関係などから生じる葛藤や不安、怒り、孤独感について考えると共にいわゆる「心の病」とその治療について学ぶ。さらに心理テスト等を通して、思考・感情・行動を検証し、自分自身を含めた人間理解力を高める。

到達目標	臨床心理学の基礎理論および臨床の実際について学ぶと共に人間理解を深め、心身の健康管理について学ぶ。具体的には①臨床心理学の定義・歴史、実践領域について学ぶ、②精神障害に関する基礎的知識の習得、③臨床心理学における主要なアプローチの理論と実際、④自分の心身の状態について知る、⑤心身の健康管理法を身につける。
------	---

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	ガイダンス：授業の方法や進め方、受講に関する注意 臨床心理学とは何か（定義、領域、対象）	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、「臨床心理学」について明確なイメージを持つ	70分 200分
第2回	人間理解の方法① 人間らしさとは何か	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、心理学的視点から「人間らしさ」が何かまとめる	70分 200分
第3回	人間理解の方法② 自己理解と他者理解	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、自分の自己理解の程度について分析する	70分 200分
第4回	ヒトの体の仕組みと心理	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、宿題①（風景構成法）に取り組む	60分 210分
第5回	ストレスとは何か	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、自分のストレス度やストレスラーについて検証する	60分 210分
第6回	ストレスと生活スタイル	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、自分のストレス・コーピングについて検証する	70分 200分
第7回	心理学系メンタルヘルス・プロフェッショナルが扱う疾患や障害① 精神障害とは何か、ストレスがきっかけで発症しやすい疾患	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、各疾患についてさらに調べる	70分 200分
第8回	第1回～7回のまとめ、宿題②（摂食症のレポート）について	テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する	理解不足だった部分の復習をする、宿題②（摂食症のケーススタディ）に取り組む	60分 210分
第9回	心理学系メンタルヘルス・プロフェッショナルが扱う疾患や障害② 神経発達症群、パーソナリティ症群、自殺	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、授業で扱ったトピックについてさらに調べる	70分 200分
第10回	心理アセスメント、メンタルヘルスを巡る諸問題	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、授業で扱ったトピックについてさらに調べる	70分 200分
第11回	カウンセリングと心理療法の主な理論とアプローチ	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、カウンセリング等の在り方についてまとめる	70分 200分
第12回	心理学系メンタルヘルス・プロフェッショナルに必要なベーシック・アビリティ：共感性、語彙力、表現力、責任性	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、自分に足りない能力と向上法を検証する	70分 200分
第13回	カウンセラーの使うアテンディング・テクニック：環境、準備、アイ・コンタクト、セッションへの導入、観察	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直し、日常でALTを複数回実施してみる	30分 240分
第14回	カウンセラーの使うアクティヴ・リスニング・テクニック（ALT）① ラボールの構築、伝え返す、沈黙を「聴く」	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、宿題③（リフレクション）に取り組む	30分 240分
第15回	カウンセラーの使うアクティヴ・リスニング・テクニック（ALT）② 展開と終結、カウンセリング・テクニックの応用（まとめに代えて）、試験について	テキストの関連ページを読む	授業ノート・スライドを見直す、自分の成長課題とその対処法を考えまとめる	110分 160分

フィードバック 課題・宿題・ミニレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価	試験（レポート）45%、課題・宿題・ミニレポート 55%の評価配分を基準とし、授業参画度（課題の実践程度・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。
------	--

テキスト プリント教材「臨床心理学」（約700円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する sishibashi@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 課題には個人で取り組む作業と小人数でのグループ・ワークがあり、授業外で実施を求める場合もあります。
リモート授業への切り替えがあった場合や授業の進捗状況等により、シラバスが若干変更する場合があります。その際は直近の授業で案内します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・他理解	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

副科器楽（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND204

専門/学年：器楽・声楽専門/2年次

形態：実技

単位数：2単位

概要 ピアノ奏法の基本を確認し、教育実習・音楽療法実習での実践力を身につける。

到達目標 様々なピアノ曲を学び、より豊かな表現力溢れる演奏にむすびつける。

授業計画 通年 15 回、20 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

第 1 回	練習曲 (1) 一打鍵一	事前 練習曲を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 鍵盤の下まで打鍵しているか、確認をする	105 分 105 分
第 2 回	練習曲 (2) 一運指一	事前 楽譜に記されている指使いで、練習をする 事後 運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	バッハの作品 (1) 一読譜一	事前 バッハの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 読譜の確認をする	105 分 105 分
第 4 回	バッハの作品 (2) 一和声感一	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 5 回	ソナタ (1) 一形式一	事前 モーツァルト、ハイドゥン、ベートーヴェンのソナタから 1 曲を選び、1 楽章の読譜をする 事後 形式を考えて、練習をする	105 分 105 分
第 6 回	ソナタ (2) 一表現一	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 7 回	ショパンの作品 (1) 一強弱一	事前 ショパンの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 強弱の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 8 回	ショパンの作品 (2) 一音色一	事前 ショパンの要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 9 回	試験曲一読譜の確認一	事前 作品を選曲して、読譜をする 事後 楽語を調べ、読譜の確認をする	105 分 105 分
第 10 回	試験曲一形式一	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える練習をする	105 分 105 分
第 11 回	試験曲一表現一	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 12 回	試験曲一和声感一	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	試験曲一強弱一	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	105 分 105 分
第 14 回	試験曲一音色一	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ一まとめ一	事前 フレーズ感をもって演奏をしているか、確認をする 事後 暗譜の確認をする	105 分 105 分

フィードバック 学年末試験の演奏について、コメントをつけ、フィードバックする

成績評価 学年末試験の評価が 50 点以上であること。試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
学年末試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

副科器楽（ピアノ以外）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND204

専門/学年：全専門/2 年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 ピアノ専門の学生がフルート、フルートの学生がヴァイオリン、ヴァイオリンの学生がハープ等、他の分野の楽器を個人レッスンで学ぶ事ができる。

到達目標 今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。専門以外の楽器奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。15 回目の授業終了後に発表会を行う。

授業計画 2 年次で履修。年間 15 回、隔週 20 分の個人指導。以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。

回数	楽器の仕組みについて	事前	事後	105 分
第 1 回	楽器の仕組みについて	選択楽器の歴史を調べ、楽器の演奏を聴く。購入する場合は事前に担当教員に必ず相談すること	仕組みについて確認し、教則本等今後必要な準備をする	105 分
第 2 回	楽器の扱い方について	教則本を読み楽器の扱い方について調べる	楽器の取り扱い方や掃除の仕方の確認をする	105 分
第 3 回	音を出してみよう（正しい持ち方）	CD 等で演奏を聴きイメージを持つ	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 4 回	音を出してみよう（ロングトーン）	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 5 回	音を出してみよう（正しい姿勢）	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 6 回	3 つの音の指を覚える	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	3 つの音で楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 8 回	3 つの音で楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	5 つの音の指を覚える	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 10 回	5 つの音で楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	5 つの音で楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 12 回	1 オクターブの楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	2 オクターブの楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲のレッスン	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ	ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	問題箇所を確認し発表会に向けて練習する	105 分

フィードバック 発表会終了後、教員よりコメントを受ける。

成績評価 発表会 30% 課題 30% 授業態度 40%

テキスト 各教員から教則本の指示あり。

オフィスアワー レッスン後すぐに対応

備考 楽器購入の際は必ず担当教員に相談のこと

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

ピアノ伴奏法演習 1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 倉地恵子

科目コード：PEN203

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習

単位数：1 単位

概要 学内演奏会に向けて、伴奏法の研究を行う。

到達目標 伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏の魅力を追及する。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感的確にピアノ伴奏で表現できることを目標とする。

授業計画 学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	伴奏とは	日本歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	ドイツ歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
第 2 回	日本歌曲の伴奏<瀧廉太郎の作品> 詩の情景をピアノでどのように表現するか	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	詩の内容の確認をする	50 分
第 3 回	日本歌曲の伴奏<山田耕筰の作品> 詩の情感をピアノでどのように表現するか	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	詩の内容の確認をする	50 分
第 4 回	モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ> 細かい表現力を養う	独語 1 つ 1 つの単語を調べ内容の確認をし、読譜をする	作曲家に与えた影響について考える	50 分
第 5 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 プレスを考える	それぞれのパートの練習をする	プレスの場所の確認をする	50 分
第 6 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 対象者にあわせたテンポ感について	弾き歌いが出来る様に練習をする	合唱部分のハーモニーを演奏できる様に練習をする	50 分
第 7 回	シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら> 有節歌曲の伴奏について	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	ゲーテについて調べる	50 分
第 8 回	シューベルトの歌曲の伴奏<ます> 情景の細かい表現について	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 9 回	シューベルトの歌曲の伴奏<糸を紡ぐグレートヒエン>	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	ゲーテの<ファウスト>について調べる	50 分
第 10 回	シューベルトの歌曲の伴奏<菩提樹>	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	シューベルトの三大歌曲集と冬の旅について調べる	50 分
第 11 回	シューマンの歌曲の伴奏<献呈>	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	読譜をする	ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	50 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする	ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	50 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	ソロの人と曲の内容を確認する	ピアノのふたの開閉状態を考える	50 分

フィードバック 学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング 全員が課題の歌曲やアンサンブル曲の伴奏パートを演奏し、詩の情景や曲の背景の表現について、良い点や改善点を述べ合う。

備考 学内演奏会で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ウィンドアンサンブル I-1・II-1

ウィンドアンサンブル担当教員

科目コード： IEN107/IEN207

専門/学年： 全専門/1~2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	酒井格「たなばた」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	P. グレンジャー「ヒル・ソング 第 2 番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	R. ウィリアムス「イギリス民謡組曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	F. J. ゴセック「古典序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	J. S. バッハ「小フーガ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	D. B. カバレフスキー「組曲『道化師』」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	酒井格「たなばた」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	P. グレンジャー「ヒル・ソング 第 2 番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	R. ウィリアムス「イギリス民謡組曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	F. J. ゴセック「古典序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	J. S. バッハ「小フーガ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	D. B. カバレフスキー「組曲『道化師』」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的使命感	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ウィンドアンサンブル I-2・II-2

ウィンド・アンサンブル担当教員

科目コード： IEN108/IEN208

専門/学年： 全専門/1~2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	J. H. ビリック「ブロック M」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	G. ホルスト「組曲 第 1 番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	G. ホルスト「組曲 第 2 番」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	W. A. モーツァルト『魔笛』序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	J. S. バッハ「主よ人の望みの喜びよ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	J. S. バッハ「トッカータとフーガ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	J. H. ビリック「ブロック M」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	G. ホルスト「組曲 第 1 番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	G. ホルスト「組曲 第 2 番」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	W. A. モーツァルト『魔笛』序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	J. S. バッハ「主よ人の望みの喜びよ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	J. S. バッハ「トッカータとフーガ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	全曲	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

オーケストラ I-1・II-1

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS120/ENS219

専門/学年： 全専門/1～2 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいて個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画 オーケストラ演奏技術の習得のみならず、作品への深い理解と知識を通して、常に創造的なイメージを持って、楽曲に取り組む。今年度演習予定曲は、昨年度に引き続きウィーン古典派のベートーヴェンの交響曲（第 2 番 ニ長調 Op.36）と、同じくウィーンで活躍したロマン派の巨匠ブラームスの大学祝典序曲 Op.80 を中心としたプログラムで 2 回の演奏会（11/18、12/10）を予定している。それ以外の授業での曲目は後日、掲示で伝達する。なお今年度はオーケストラスタディは開講しないので基本的に履修学生全員、第 1 リハーサル室に授業時に参集すること。

第 1 回	ガイダンス	事前 今年度取り上げる楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 ガイダンス中でのオーケストラ授業履修で心掛けること他、注意ポイントを再度確認、認識する。	50 分 50 分
第 2 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番 全体把握、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 ベートーヴェン（交響曲）ポイント把握、作品に関しての知識を習得しておく。 事後 作品全体を俯瞰した今回の授業での問題点を認識、復習をする。	50 分 50 分
第 3 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番（第 1,2 楽章）、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 前回、大きく概観した作品の中、今回授業で取り上げる第 1,2 楽章での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 4 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番（第 3,4 楽章）、(ブラームス：大学祝典序曲)	事前 交響曲（第 3,4 楽章）での技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 5 回	分奏（ベートーヴェン：交響曲第 2 番）	事前 弦楽器と管打楽器に分れての授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 6 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 楽曲に関しての知識を習得しておく。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 7 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 8 回	ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 技術課題の予習、練習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 9 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習する。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 10 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番	事前 アンサンブル上の問題を考察、予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 11 回	分奏（ベートーヴェン）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 12 回	分奏（ブラームス）	事前 各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 13 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 前週に分奏での課題を合奏で確認する。 事後 セクションごとの問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 14 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分
第 15 回	ベートーヴェン：交響曲第 2 番、ブラームス：大学祝典序曲 Op.80	事前 これまでの練習内容を復習する。 事後 授業での問題点、課題を復習する。	50 分 50 分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度 2 回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア（予め各自で用意しておくこと）
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

オーケストラ I-2・II-2

オーケストラ担当教員

科目コード：ENS121/ENS220

専門/学年： 全専門/1～2 年次

形態：実習 単位数：1 単位

概要 管弦打楽器による最大の合奏形態が「オーケストラ」であり、古今東西、大作曲家たちが多種多様な作品を残している。オーケストラの授業を通して、様々な作品の時代様式、作曲技法、また、管弦打各楽器の奏法の技術、アンサンブルのエッセンス等、器楽演奏芸術の全てが学べると言っても過言ではない。

到達目標 アンサンブルにおいての個々の能力の向上、又全体としてはアンサンブルにおいての質の向上にアプローチする。学生には、オーケストラ現場でのより実践的なテクニックを各オーケストラ担当教員を通じて、学んで頂きたい。

授業計画		事前	事後	50分
第1回	協奏曲、ベートーヴェン、ブラームス	ベートーヴェン作品の技術面以外の表現ニュアンス等を含めて考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第2回	協奏曲、ベートーヴェン、ブラームス	ドビュッシー、バルトークの技術面以外の表現ニュアンスを含めて考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第3回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (I)	演奏会本番に向けての課題を認識する (I)	50分
第4回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (II)	演奏会本番に向けての課題を認識する (II)	50分
第5回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (III)	演奏会本番に向けての課題を認識する (III)	50分
第6回	定期演奏会リハーサル (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	技術と表現の融合を目指し、セクション及び全体でのアンサンブルの問題を解決する (IV)	演奏会本番に向けての課題を認識する (IV)	50分
第7回	定期演奏会 (ベートーヴェン/ブラームス/協奏曲)	今までの練習してきたことのとまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する (I)	50分
第8回	音大オーケストラフェスティバル演奏会 (ベートーヴェン/協奏曲)	オーケストラ定期演奏会本番の課題、問題点を認識する。	授業と異なる公開演奏の際の諸問題を認識する (II)	50分
第9回	未定	各協奏曲作品に関する知識を習得と読譜みをしておく。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第10回	未定	協奏曲プログラム前半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第11回	未定	協奏曲プログラム後半曲の技術課題の認識と予習、練習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第12回	未定	協奏曲前半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第13回	未定	協奏曲後半作品の分奏授業に先立ち、各セクションの問題点、課題に応じた予習をする。	セクションごとの問題点、課題を復習する。	50分
第14回	未定	協奏曲におけるソロ楽器との、またオーケストラ内のアンサンブルの問題を考察、予習をする。	授業での問題点、課題を復習する。	50分
第15回	未定	今までの練習してきた協奏曲作品のまとめと問題ポイントを絞り、練習をする。	演奏会本番時のソリストとのアンサンブルの問題等を振り返り、問題点を認識する。	50分

フィードバック オーケストラ授業の場合、授業の成果として今年度2回の演奏会によって多種課題はフィードバックされる。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト ※スコア (予め各自で用意しておくこと)
授業計画に記した今年度の各曲目(オケスタも含めて)のスコアを予め準備し、授業の際に必ず携行すること。
(入手し難いスコアの関しては、相談すること)

オフィスアワー 質問は授業休憩時、終了時に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

- ・学校や社会団体活動における吹奏楽指導・指揮を歴任、全国で指導者向けの講習も実施している。
- ・今後の学校や社会の生涯学習活動となるよう適切に寄与できる音楽指導方法を考察・実践する。

非常勤講師 福田洋介

科目コード：SLF109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要

- ・音楽指揮における基本技法の習得
- ・身体の使い方、演奏指示の出し方の実践
- ・総譜の読み解き方、指揮・指導の実践

到達目標

- ・指揮の基本動作を体得する。
- ・授業、サークル活動、部活動などで指導する際に必要な知識を得る。
- ・指揮者・指導者として適切なコミュニケーションスキルを持つ。

授業計画

第 1 回	指揮法概論 指揮者・指導者の役割について考察する	事前 指揮棒を準備し、持って振ってみる 事後 これまでに指揮者・指導者から教わった言葉をキーワードを用いて箇条書きする (提出)	120 分 150 分
第 2 回	指揮法研究 1 基本図形・1 拍子と 2 拍子	事前 ボールが弾む動きを観察し、自分の手でその動きを真似る 事後 1 拍子と 2 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する	150 分 150 分
第 3 回	指揮法研究 2 基本図形・3 拍子と 4 拍子	事前 1 拍子と 2 拍子の復習 事後 3 拍子と 4 拍子の図形を自分で指揮し、鏡などで確認する	120 分 150 分
第 4 回	指揮法研究 3 図形の応用 - 停止、開始	事前 アウフタクトやフェルマータがある楽曲を探す (楽譜・音源) 事後 アウフタクトやフェルマータの前後をどう指揮するか考察・実践する	120 分 150 分
第 5 回	指揮法研究 4 図形の応用 - 速度の変化	事前 リタルダンド・アッチェレランドがある楽曲を探す (楽譜・音源) 事後 テンポの変化をどう指揮するか考察・実践する	120 分 150 分
第 6 回	指揮法研究 5 図形の応用 - テンポと図形	事前 異なるジャンル・形式の音楽を 3 つ選び、その音楽に合わせて拍子を指揮してみる 事後 スタイルに応じた指揮の仕方を考察・実践する	120 分 150 分
第 7 回	指揮法研究 6 指揮実践 - 課題曲を設定し 1 名ずつ指揮実践する	事前 課題曲の予習 (関連資料配布) 事後 実践の録画を参照し改善点を考察する (提出)	120 分 150 分
第 8 回	指揮法研究 7 合唱の指揮・指揮・指導のポイント	事前 合唱作品の振り方をプランする (関連資料配布) 事後 プランした振り方から改善し、指導ポイントを探る (関連資料配布・提出)	120 分 150 分
第 9 回	指揮法研究 8 器楽の指揮・指揮・指導のポイント	事前 教育楽器とオーケストラ楽器を調べておく (関連資料配布) 事後 振り方のプランと指導ポイントを探る (関連資料配布・提出)	120 分 150 分
第 10 回	指揮法研究 9 スコアリーディング初歩 - 吹奏楽譜をモデルに	事前 移調楽器について調べておく (関連資料配布) 事後 簡単な楽曲分析を実践する (関連資料配布)	120 分 150 分
第 11 回	指揮法研究 10 指揮・指導の指示 - 適切な言葉遣い	事前 必要な指示をどのように言うか考察する (関連資料配布) 事後 指示の仕方を整理する (関連資料配布・提出)	120 分 150 分
第 12 回	指揮法研究 11 比喩表現 - 表現を具体化するために	事前 説明する楽語を 3 つ選ぶ 事後 自分の言葉で説明する (提出)	120 分 150 分
第 13 回	指揮法研究 12 図形の応用 - 変拍子、アゴーギク	事前 変拍子を使った楽曲、アゴーギクの必要がある楽曲を視唱しておく (関連資料配布) 事後 鏡などで確認する	120 分 150 分
第 14 回	指揮法研究 13 図形の応用 - 右手と左手の役割	事前 課題指示に対する左手の指示方法を準備する (関連資料配布) 事後 鏡などで確認する	120 分 150 分
第 15 回	指揮法研究 14 指揮実践、まとめ	事前 課題曲の予習 (関連資料配布) 事後 実践の録画を参照し改善点を考察する (提出)	120 分 120 分

フィードバック 実践と表現の実習であるため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に答える。

成績評価 事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

教育合奏

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 福田洋介

科目コード： IEN209

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：実技

単位数：2 単位

概要	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏活動(アンサンブル)の基礎について学習する。 ・リズムや音色などの音素材の組み合わせ、楽器を使う合奏、楽器を使わない合奏などを実践する。 ・複数人が集まって音楽演奏を共にする楽しさと難しさについての考察も行う。
----	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏活動を創り上げるプロセスを体感する。 ・合奏を取り組む上で心掛けるべき事柄を理解する。 ・多様な音楽的素材に目を向けて創造力のある合奏活動を発想・展開できるようにする。
------	---

回	内容	事前	事後	時間
第 1 回	教育合奏概論：合奏活動の意義と楽しみについて	これまでに合奏で担当した楽器を記述 (提出)	合奏の疑問について記述 (提出)	120 分 150 分
第 2 回	合奏法 1：ボディパーカッション演習 1 - 演奏法の導入	課題曲の譜読み (関連資料配布)	グループでパート割りをを行う	150 分 120 分
第 3 回	合奏法 2：ボディパーカッション演習 2 - グループ練習	グループで練習	実践の感想を記述する (提出)	150 分 120 分
第 4 回	合奏法 3：リコーダー演習導入 - リコーダーの使い方 (運指とタンギング)	ソプラノリコーダーを持参する	グループでパート割りをを行う	150 分 120 分
第 5 回	合奏法 4：リコーダー合奏演習 1 - グループ練習 (技術)	課題曲の予習 (関連資料配布)	グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 6 回	合奏法 5：リコーダー合奏演習 2 - グループ練習 (表現)	課題曲の復習	グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 7 回	合奏法 6：合奏演習 - 発表 (ボディパーカッション・リコーダー合奏)	グループごとに復習	実践の録画を参照し改善点を考察する (提出)	150 分 120 分
第 8 回	楽器概論 1：教育用打楽器、鍵盤楽器などの基礎知識	リコーダー以外の教育楽器を持参する	教育楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す (提出)	150 分 120 分
第 9 回	楽器概論 2：オーケストラ楽器の基礎知識	資料の予習 (関連資料配布)	オーケストラ楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す (提出)	150 分 120 分
第 10 回	楽器概論 3：電気楽器・電子楽器の基礎知識	資料の予習 (関連資料配布)	電気楽器・電子楽器をひとつ選び、特徴的な音楽を探す (提出)	150 分 120 分
第 11 回	楽器概論 4：楽器創作演習 - 身近な素材を活用した打楽器の創作	楽器製作(数種から任意選択)の素材を準備する	実践の感想を記述する (提出)	150 分 120 分
第 12 回	合奏法 7：リズム創作演習 - 製作楽器でアンサンブル実践	リズム創作の素材となるリズムパターン(2-3 パターン)を準備する	実践の感想を記述する (提出)	150 分 120 分
第 13 回	合奏法 8：楽曲創作演習 1 - 多種の楽器を駆使した楽曲の計画・構成	自分の担当希望楽器を 3 つ選択する	グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 14 回	合奏法 9：楽曲創作演習 2 - 楽曲構成と演奏精度の向上	グループで練習	グループで改善点を話し合う	150 分 120 分
第 15 回	合奏法 10：楽曲創作演習 3 - 合奏発表、まとめ	グループで練習	実践の感想、「合奏の楽しみ」についての論述 (提出)	240 分 30 分

フィードバック グループ演習を中心とするため、複数の正解が出現する可能性がある。その特性を活かし各自の創造性と工夫を尊重した指導を行う。個別の質問にも丁寧に答える。

成績評価 事前学習の評価及び授業後の課題提出 50% 授業への積極的な取り組み 50%

テキスト テキストは使用しない。その都度資料を配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング リコーダー合奏に実際に指揮及び指導し、奏者の意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のためのヒントを与え、学生にその問題を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

日本の伝統的な歌唱法

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード： IEN209

専門／学年： 全専門／2 年次

形態： 実技

単位数： 1 単位

概要 日本伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

- 到達目標
- ・長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。
 - ・三味線の調弦および「寄せの合方」を弾けるようにする。日本音楽の「間」を知る。

授業計画

第1回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いガカリと大薩摩の部分「旅の衣は纏腰の〜月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前 配布プリントを読む。 事後 授業で学んだ唄を復習して唄う。	120分 130分
第2回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明、三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前 前回学んだ唄を復習して唄う。 事後 三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	120分 130分
第3回	唄の復習。引き続き「これやこの〜海津の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前 前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120分 130分
第4回	唄の復習。引き続き「それ山伏と〜押しもんどり」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前 「さくら」の三味線の勘所（ポジション）の復習確認をする。 事後 「佃の合方」の口三味線を暗記する。	120分 130分
第5回	唄の復習。引き続き「もとより〜読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120分 130分
第6回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前 「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。 事後 「寄せの合方」の旋律を覚える。	120分 130分
第7回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は2チームに別れて練習。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120分 130分
第8回	唄の復習。三味線は2チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。 事後 唄と三味線の出来なかった箇所を復習する。三味線の仕組みの復習をする。	120分 130分

フィードバック 学生の長唄および三味線の演奏に対する助言 三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価

成績評価 長唄・三味線の実技の修得状況 60%並びに取り組みの様子 30% 定期試験の結果 10%

テキスト ※適宜授業内配布。「勸進帳（研精譜）」 三味線合方（文化譜）

オフィスアワー 講義時間の前後

アクティブ・ラーニング 三味線体験の際に、本手と替手の各パートを小さなグループに分かれて合奏をする。それによって指揮がいらない中で息を合わせたり、相手に合わせる感覚を感じてもらい 一体感を作る。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力

知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

和楽器研究法

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH202

専門/学年： 全専門/2年次

形態：講義

単位数：1単位

概要 テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体の使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。

到達目標 学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体の使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。

授業計画 4回×2日間の集中講義で行う。

第1回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』pp.1-19 を熟読し、身体の使い方を復習する。	130分 140分
第2回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』pp.20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第3回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』pp.28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第4回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体の使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』pp.34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第5回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のパリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』pp.36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』pp.36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130分 140分
第6回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』pp.70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》初段の冒頭部分を復習する。	130分 140分
第7回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』p.115の50番を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》初段のレッスン内容を復習する。	130分 140分
第8回	発表会。各自が《さくらさくら》《六段の調べ》を選んで、独奏する。	事前 事後	《さくらさくら》または《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130分 140分

フィードバック 毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40%） 発表会での演奏の内容（60%）

テキスト 深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル
必要な楽譜はプリントを配付する。

オフィスアワー 講義の前後の時間で行う。

備考 できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発憤力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

音楽療法総合演習-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE201

専門/学年：全専門/2 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように関わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化しているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。
授業計画	高齢者施設での音楽療法実習。

第 1 回	ビデオ観察方法と記録の取り方	事前 参考資料を配布。読む。 事後 授業中に観たビデオを記録したものをきちんとした形に書き直す。	140 分 140 分
第 2 回	第 1 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 前回のビデオの取り方を復習する。 事後 第 1 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりを見直す。	140 分 140 分
第 3 回	第 2 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 先読みの仕方、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分 140 分
第 4 回	第 2 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。 事後 第 2 回実習のビデオを記録したものを基に活動やピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第 5 回	第 3 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分 140 分
第 6 回	第 3 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。 事後 第 3 回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりについて見直す。	140 分 140 分
第 7 回	第 4 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分 140 分
第 8 回	第 4 回高齢者施設での実習のビデオを観る	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第 4 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方やピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第 9 回	第 5 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分 140 分
第 10 回	第 5 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第 5 回実習のビデオを記録したものを基にリーダーの役割、関わり方について見直す。	140 分 140 分
第 11 回	第 6 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分 140 分
第 12 回	第 6 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第 6 回実習のビデオを記録したものを基にピアノ伴奏、関わり方について見直す。	140 分 140 分
第 13 回	第 7 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分 140 分
第 14 回	第 7 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 第 7 回実習のビデオを記録したものを基に歌唱、ピアノ伴奏について見直す。	140 分 140 分
第 15 回	第 8 回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。 事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、関わり方について復習。	140 分 140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 60%、積極的な発言 20%、記録の提出 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aiores.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽療法総合演習-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE202

専門/学年：全専門/2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように関わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。
授業計画	児童の音楽療法実践のビデオを見ながら客観的にセラピストと対象者について観察する。

第 1 回	第 8 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 2 回	実習のまとめ	事後 第 8 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方について見直す。	140 分
第 3 回	「応用行動分析的アプローチ」の参考資料を配布	事前 8 回分のビデオの記録をまとめる。	140 分
第 4 回	「応用行動分析学アプローチ」とは	事後 ビデオ記録の不備の部分を訂正し、提出。	140 分
第 5 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例①「こだわりの強い子の場合」	事前 参考資料を読む。	140 分
第 6 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例②「聴覚過敏の子の場合」	事後 「応用行動分析的アプローチ」のポイントを書きだす。	140 分
第 7 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」	事前 参考資料から「応用行動分析的アプローチの特徴」を書きだす。	140 分
第 8 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例④「初めての場面が苦手な子の場合」	事後 社会的行動と音楽行動をノートにまとめる。	140 分
第 9 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」	事前 事例①「こだわりの強い子の場合」を読む。	140 分
第 10 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」	事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 11 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」	事前 事例②「聴覚過敏の子の場合」を読む。	140 分
第 12 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」	事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 13 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」	事前 事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」を読む。	140 分
第 14 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑩⑪「模倣が苦手な子の場合」「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」	事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
第 15 回	授業のまとめ 試験	事前 事例④「初めての場面が苦手な子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 事例⑩「模倣が苦手な子の場合」事例⑪「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」を読む。	140 分
		事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 高齢者・児童の事例を復習。	140 分
		事後 試験の振り返り。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 60%、積極的な発言 20%、記録の提出 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発露力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽療法実習（事前指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE105

専門/学年：全専門/1年次

形態：実習 単位数：実習・事前指導・事後指導で3単位

概要 音楽療法実習及び介護実習を行うに当たって心がけなければならない事について学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。

到達目標 実習の準備として、実習の心得・実習施設についての領域及び内容、障害や病気についての知識を学ぶ。音楽面では、模擬セッションを通して、使用する曲の楽器奏法また対象者に合わせる楽器奏法を学ぶ。

授業計画 各音楽療法実習場面・介護実習場面を把握し、実習に備える。

第1回	音楽療法実習・介護実習を行なうに当たっての心得	事前 参考資料配布。読む。 事後 実習に関する心得について復習する。	130分 140分
第2回	音楽療法実習施設・介護実習施設の説明 今年度の音楽療法実習・介護実習の時間	事前 参考資料を配布。読む。 事後 実習に行く施設、時間数、時期、回数を把握しノートに記入。	130分 140分
第3回	音楽療法実習マニュアルノート配布 各実習施設の注意事項	事前 マニュアルノートを読む。 事後 施設名一覧、注意事項、音楽療法実習日誌、介護実習日誌について把握する。	130分 140分
第4回	介護実習日誌の書き方指導 日誌提出についての指導	事前 介護実習日誌を読む。 事後 授業で車椅子体験し、それを介護実習日誌に記入し、提出。	130分 140分
第5回	音楽療法実習日誌の書き方を指導	事前 音楽療法実習日誌を読む。 事後 授業中、音楽療法のビデオを観て、それを音楽療法実習日誌に記入し、提出。	130分 140分
第6回	ビデオの撮り方指導	事前 参考資料配布。読む。 事後 授業中、実際の音楽療法場面を観て、ビデオの撮り方を把握したことを書きだす。	130分 140分
第7回	「高齢者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 高齢者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第8回	「発達障害者の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 発達障害者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第9回	「精神科の音楽療法」	事前 参考資料配布。読む。 事後 精神科患者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	130分 140分
第10回	実習施設(高齢者)クリスマスコンサート計画・準備	事前 クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。 事後 演奏者は練習、司会者は準備。	130分 140分
第11回	実習施設(幼児)クリスマスコンサート計画・準備	事前 クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。 事後 演奏者は練習。司会者は準備。	130分 140分
第12回	高齢者施設での実習準備・歌唱練習・ピアノ伴奏・リーダー役練習	事前 自分で決めた曲のピアノ練習。 事後 各自、ピアノ練習、歌唱練習。	130分 140分
第13回	高齢者施設での実習準備・前回と役割を替えて行なう	事前 ピアノ練習、歌唱練習。 事後 ピアノ練習、歌唱練習。	130分 140分
第14回	高齢者施設での実習準備・ピアノ伴奏を中心に。	事前 ピアノ伴奏練習。 事後 ピアノ伴奏練習(移調、伴奏形の工夫)。	130分 140分
第15回	授業まとめ 理解度確認テスト	事前 事前指導授業で学んだことを復習する。 事後 理解度確認テストの振り返り。	130分 140分

フィードバック 日誌等の提出及び実習準備のピアノ等の課題について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50%、授業態度 15%、クラス内での協調性 15%、実習準備の課題遂行 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽療法実習（事後指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE106

専門/学年：全専門/2 年次

形態：実習

単位数：実習・事前指導・事後指導で3 単位

概要 1 年次後半より行なってきた音楽療法実習及び介護実習は、引き続き、事後指導の時間を使って高齢者介護施設を訪問し、8 回に亘り、音楽療法実習を行う。学生によって計画し、実施する実習として重要な実習であることを自覚する。誠心誠意利用者様のためにより良い音楽の時間となるよう努力する。

到達目標 終了している音楽療法実習・介護実習・コンサートを振り返るとともに、継続している実習や今後予定している実習がより学びの多い実習となるよう、音楽療法についての理解を深める。さらに疑問点などについて話し合う。

授業計画 実習に備えて、高齢者の音楽療法セッション技術を高める。また、利用者様との触れ合いを体験する。

第 1 回	第 1 回実習準備	事前 事後	プログラム作成、歌詞カード作成、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏	130 分 140 分
第 2 回	第 1 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌詞カード準備、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 3 回	第 2 回実習準備 前回の実習の反省を踏まえて準備する。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、次回の実習準備	130 分 140 分
第 4 回	第 2 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 5 回	第 3 回実習準備 利用者様の様子を中心に検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の椅子の位置、学生の座る位置について考える。	130 分 140 分
第 6 回	第 3 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 7 回	第 4 回実習準備 リーダーの声、ピアノの音量について検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 リーダーの話しの内容、声の大きさ、ピアノの音量について考える。	130 分 140 分
第 8 回	第 4 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 9 回	第 5 回実習準備 利用者様の対応について検討	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の様子を見て、どのように関わればいいのか考える。	130 分 140 分
第 10 回	第 5 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 11 回	第 6 回実習準備 リーダーの役割、ピアノの役割について考える。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 音楽療法セッションの中でリーダーはどのようなことが必要か、ピアノは何かが必要か考える。	130 分 140 分
第 12 回	第 6 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 13 回	第 7 回実習準備 リーダー・ピアノ以外の学生の役割（利用者様の隣に座り、一緒に歌うだけでいいのか）	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 アシスタントとしての学生の役割について考える。	130 分 140 分
第 14 回	第 7 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱指導、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 15 回	第 8 回実習実施 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入	130 分 140 分

フィードバック 実習実施後の日誌提出について、コメントをつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習での他メンバーとの協調性 40%、歌唱・ピアノ練習への意欲 25%、プログラム計画などの創造性 25%、日誌提出 10%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

音楽科教科教育法

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 学習指導要領における表現と鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。ICT を活用した学習を豊富に行い、ICT を活用した指導技術の獲得を図る。

到達目標 この科目では、授業における実践力を獲得するために表現と鑑賞に関する教材研究の方法、指導案作成の方法、実践的指導方法を習得する。

授業計画

第 1 回	音楽科教育の理念と目的 学習指導要領の変遷と学力観 歌唱教材の指導法	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。	160 分 110 分
第 2 回	中学校共通教材による歌唱指導と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	混声合唱の指導と評価の具体	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 4 回	日本の伝統音楽による歌唱指導方法と評価の具体	事前 「勅進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 5 回	楽器指導方法（リコーダー）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 6 回	楽器指導方法（電子楽器）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 7 回	楽器指導方法（和楽器：箏）と評価の具体	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160 分 110 分
第 8 回	創作学習方法（指導要領ア、イ）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価について自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	鑑賞指導方法（知覚・感受と批評）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における知覚・感受について自己の考えをまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	鑑賞指導方法（生活や社会における意味）と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。	160 分 110 分
第 11 回	教材研究と指導案の作成	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。	160 分 110 分
第 12 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 13 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160 分 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞	事前 鑑賞の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160 分 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。	160 分 110 分

フィードバック リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート評価（60%）、リフレクションペーパーの評価（40%）

テキスト 令和 3 年度版『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

教育原理

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 林直美

科目コード：SCH102

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係を理解する。そして現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。また、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。さらに学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。最後に、学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。授業は映像教材なども適宜取り入れ、学生には現在進行している教育改革や政策課題についてネット・テレビ・新聞などのメディアから常に情報を収集することを心がけてもらい、それを反映させる形ですすめていく。

到達目標 教育の基本的概念は何か、また、教育理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにして捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、これまでの教育の流れをうけて現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。そして学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

回	授業内容	事前	事後	評価
第1回	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	テキストの全体に目を通しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	100分 180分
第2回	教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係ー子供・教員・家庭・学校ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第3回	家族と社会による教育の歴史	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第4回	近代教育制度の成立と展開	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第5回	現代社会における教育課題ー歴史的視点からの考察ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第6回	家庭や子供に関わる教育の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第7回	学校や学習に関わる教育の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第8回	代表的な教育家の思想	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第9回	公教育の原理及び理念	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	公教育制度を構成している教育関係法規	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みや諸問題ー例示と討議ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	開かれた学校づくりが進められてきた経緯ー地域との連携を基としてー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性ー学校管理下で発生する事件、事故及び災害の実情ー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取り組みー	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	140分 140分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修効果をフィードバックする。

成績評価 試験（50%）、提出物の状況（30%）、授業への姿勢（20%）を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2013）一藝社
（テキストの購入については第1回の講義において連絡する）
参考書・参考資料等
井藤元『ワークで学ぶ教育学』（2015）ナカニシヤ出版
田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理』（2016）有斐閣

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・目的意識の発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>						

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目

※実務経験を持つ教員による授業

小、中学校における管理職等の経験を生かして、教育事象を実践的、理論的に読み解く授業を行う。

教授 内田有一

科目コード：SCH104

専門／学年： 全専門 1年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 到達目標の内容について、講義、討論、小論文等を通して知識を得ると共に、深く考え教職という仕事について理解する。

到達目標 現代社会における教職の重要性や我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。また公教育の目的と教職の職業的特徴を理解する。更に教員に求められる役割や資質能力、服務上・身分上の義務、並びに学校が内外の専門家と連携することや、チーム学校として組織的に対応する重要性を理解する。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について 教職の職業的特徴の理解	新聞やネット情報から読みとれる現代の教師像について語ることができるようにする。	現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。	160分 110分
第2回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意義と公教育の目的	教員の存在意義について、自己の経験を求めて自分の考えをまとめる。	教員の使命と役割について、ディスカッションをもとに、公教育の目的について考え、まとめる。	160分 110分
第3回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義	学習指導要領総則を読んでおく。	学習指導要領と学力観の関係について、考察する。	160分 110分
第4回	チーム学校の概念と具体	事前に配付する中教審資料におけるチーム学校に関する箇所を読み、概要を把握する。	チーム学校の具体について講義を通して理解した内容をまとめる。	160分 110分
第5回	いじめ等生徒指導における組織的対応 講義と討論	事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。	討論を通して理解を深めたことを、いじめ防止の視点からまとめる。	160分 110分
第6回	発達障害を有する児童・生徒への組織的対応 講義と討論	事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。	討論を通して理解を深めたことを、インクルーシブ教育の視点からまとめる。	160分 110分
第7回	主体的・対話的・深い学びを具現化するための教師としての資質・能力	中教審の資料から主体的・対話的・深い学びの箇所を読み、概要を把握する。	講義で理解したことを、カリキュラムマネジメントと関連させてまとめる。	160分 110分
第8回	専門家との連携 教師のマネジメント力	事前に配付する資料から、専門家との連携に関して概要を理解する。	講義で理解したことを、チーム学校と関連させてまとめる。	160分 110分
第9回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割	事前に配付する資料から、地域との連携に関して概要を理解する。	講義で理解したことを、コミュニティスクールの視点からまとめる。	160分 110分
第10回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証	前時に配布された、服務事故の事例を読み、どこに問題があるのかを考えてくる。	教員採用試験の過去問題の中から、教員の服務と身分についての問題をマスターする。	160分 110分
第11回	教員の職務の全体像と、教員として必要な基礎的な資質能力の理解	事前に配付する資料から、コンプライアンスに関して概要を理解する。	講義で理解したことを、コンプライアンスの視点からまとめる。	160分 110分
第12回	保健安全教育 ー生活安全・交通安全・災害安全・保健ー	事前に配付された安全教育についての資料を読み、課題問題に取り組む。	安全プログラムに関して、講義で指示された課題に取り組む。	160分 110分
第13回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任	東京都教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。	なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。	160分 110分
第14回	学校事故と安全管理、危機管理 コロナ禍における教育 学修の振り返りと小論文	事前に配付された危機管理の資料を読み、課題問題に取り組む。	学校事故と危機管理についてまとめる	160分 110分
第15回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像。小論文の振り返りとまとめ	自己の小論文を基に口頭発表の準備を行う。	振り返りを通して、教員としての資質向上の見通しをもつ。	160分 110分

フィードバック レポート、リフレクションペーパーを通して学修者にフィードバックする。

成績評価 レポート (60%) リフレクションペーパー (40%)

テキスト 毎回、資料を提示する。必要に応じて電子媒体にて配付する。

オフィスアワー 別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にEメールで相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的責任力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

教育心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：SCH105

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手がかりを提供する。教育に関係する専門的内容の理解をはかると共に、幼児・児童・生徒の発達の様相、および人の生涯発達、生涯学習についても学ぶことで教育者をめざす学生の視野を広げる機会としたい。

到達目標 幼児・児童・生徒の心身発達の代表的な理論、ならびに学習理論を二つの大きな柱とし、他にも学びのスタイルや効果的学習法、学習意欲や人格・個性の発達に関する基礎知識も身につける。

回	内容	事前	事後	点
第1回	オリエンテーション～教育心理学とはなにか～	教科書まえがきを読む	授業ノートを見直しておく	20分 60分
第2回	教育の新しい動向、および発達における素質と環境	教科書第1章の前半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第3回	発達の理論 (1) ピアジェの認知発達モデル	プリント1と教科書第1章後半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第4回	発達の理論 (2) エリクソンの心理社会的発達モデル	教科書第2章の前半P.20までを読む	授業ノートの復習	40分 60分
第5回	人間の発達の概要：乳児期、幼児期	教科書第2章のp.24以降を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第6回	人間の発達の概要：児童期、青年期	教科書第2章の全体を見直す	授業ノートの復習	40分 60分
第7回	人間の発達の概要：成人期(前期・中期・後期)	プリント2前半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第8回	中学生、高校生の心理と指導	プリント2後半を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第9回	学ぶということ (1) 学習の原理・理論	教科書第3章の第1節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第10回	学ぶということ (2) 連合学習理論～条件づけ～	教科書第3章第2節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第11回	学ぶということ (3) 認知的学習理論～知識を学ぶ～	教科書第3章第3節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第12回	学ぶ意欲～動機づけ理論とその教育への応用～	教科書第3章前半を見直す。	授業ノートの復習	40分 60分
第13回	学びのスタイル～学習の個人差～	教科書第3章第4節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第14回	効果的に学ぶために～様々な学習方法～	教科書第3章第5節を読む	授業ノートの復習	40分 60分
第15回	まとめ～授業全体の総括～	教科書第4章前半を読む	試験の振り返りと自分の解答の正否確認	60分 40分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 受講態度と試験の成績を総合しておこなう。定期試験 70%、授業態度 30%。

テキスト 滝沢武久編著『はじめての教育心理学』（八千代出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べて長い。「学ぶために」長い子ども期を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考える機会にしたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

発達心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：SCH106

専門／学年：全専門／1年次

形態：講義	単位数：2単位
概要	発達とは、固体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するのかを指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自ら人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握する。

到達目標	1) 幼児児童、及び生徒の心身の発達の過程、およびその特徴を理解する。 2) 乳幼児から青年期の各時期における身体・運動機能の発達、言語発達、認知（思考）の発達、感情の発達、社会性の発達について、具体的な内容を理解する。
------	---

回	内容	事前	事後	時間
第1回	オリエンテーション：発達とはなにか	教科書はじめにを読む	授業ノートを見直しておく	20分 60分
第2回	発達の定義と原理	プリント1を読んで復習	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第3回	発達心理学の歴史と先駆者たち	教科書第1部「発達の基礎理論」24～33ページまでを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第4回	生涯発達の概要：乳児期・幼児期	教科書第1部「生涯発達」34～35ページまでを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第5回	生涯発達の概要：児童期・青年期	プリント2を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第6回	遺伝と環境	教科書36～41ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第7回	感覚・知覚の発達	教科書第2部60～69ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第8回	認知・記憶の発達	プリント3を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第9回	言語の発達（1）言語獲得の前提	教科書114～115ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 140分
第10回	言語の発達（2）言語獲得のプロセス	プリント4を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第11回	思考の発達（1）：ピアジェ理論	プリント5を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第12回	思考の発達（2）：その他の理論	教科書106～107ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第13回	感情の発達（1）感情の知覚と理解	教科書74～84ページを読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第14回	感情の発達（2）感情の表出	プリント6を読む	授業ノートを見直しておく	40分 60分
第15回	社会性の発達およびまとめ	授業ノートを見直しておく	試験の解答を自分で確認・振り返る	80分 20分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績70%、受講態度30%。

テキスト 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版）

オフィスアワー 授業後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の発達に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していきたい学生さんの参加を歓迎します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関する科目

大学准教授 田中里佳

科目コード：SCH108

専門/学年：全専門/1年次

形態：講義 単位数：2単位

概要 教育課程とは何か、その役割とは何か、どのように編成するのか、これら教育課程に関わる基礎的理論とその実際についてを本授業では学ぶ。教育課程の変遷や意義への理解を通じて、学校教育はどうあるべきかを考えていく。

到達目標

- ①教育課程に関する基礎理論と基本構造について理解し、自分の言葉で説明できるようになること。
- ②初等中等教育学校の教育課程の変遷をふまえて、教育課程編成を展望できるようになること。
- ③カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教育課程に関する課題について自覚できるようになること。

授業計画 「教育課程とは何か」「現在の教育課程はどのようにしてできてきたのか」「これからの教育課程はどうあるべきか」という3つのトピックについて、複数時間を当てて深めていく。

第1回	オリエンテーション 教育課程とはなにか?	事前 シラバスから本授業の目標・内容を把握し、自分なりの目標を設定する 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第2回	教育課程の概念と編成原理	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第3回	学校における教育課程編成と法律	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第4回	学習指導要領の変遷 (1) 戦後新教育	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第5回	学習指導要領の変遷 (2) 「現代化」と教育	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第6回	学習指導要領の変遷 (3) 「人間化」と教育	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行う	100分 180分
第7回	学習指導要領の変遷 (4) 「脱・ゆとり」と教育	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめ 事後 授業内容をまとめ、課題を行	100分 180分
第8回	学習指導要領の変遷 (5) 「新しい能力」の育成と教育	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめ 事後 4回目からの学習指導要領の変遷を整理し、課題を行う	100分 180分
第9回	現行学習指導要領の内容とその特徴	事前 資料を読み、資料からわかったことを学習指導要領にて確かめる 事後 授業内容をまとめ、課題を行	100分 180分
第10回	教育評価と指導要録	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめ 事後 授業内容をまとめ、課題を行	100分 180分
第11回	教育課程の課題 (1) カリキュラム・マネジメント	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめ 事後 授業内容をまとめ、課題を行	100分 180分
第12回	教育課程の課題 (2) 教科横断的な視点	事前 資料を読み、質問したいことや深めたいことをまとめ 事後 次週、発表できるように、課題を完成させる	100分 180分
第13回	教育課程の課題 (3) 社会との接続	事前 完成させた課題を発表できるように準備する 事後 自己評価に基づいて発表したものを検討し、改善する	100分 180分
第14回	教育課程の課題 (4) 進化していく教育課程	事前 課題を選択し、自分で調べる 事後 授業内容をもとにして、調べたことをさらに深める	100分 180分
第15回	授業全体のふり返りとまとめ (最終試験実施)	事前 全授業をふり返って要点をまとめ、理解を深める 事後 本授業目標の達成について自己評価し、不十分な点があれば復習する	180分 100分

フィードバック 毎時間リフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組み（積極的な発言やリフレクション・カードへの記入内容、課題への取り組み）15%、中間レポート40%、最終試験45%

テキスト テキスト：中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）
参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
その他、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー 授業後、教室（オンライン授業の場合は zoom）にて随時質問、相談に応じる。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。
sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 1回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方、提出課題について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自律的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 東風安生

科目コード：SCH109

専門/学年：全専門/1年次

形態：演習 単位数：2単位

概要 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び、その要となる道徳科における教育内容や指導方法を学ぶ。科目のねらいは、道徳科を指導する教師として、学校の年間指導計画に基づいて道徳科授業の学習指導案を作成し、道徳科授業を実践できる指導力を養成することである。講義は、グループワークを多用して、チーム学校の一員として協働して道徳教育について検討する時間を大切にしていく。

到達目標 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
 1) 道徳の本質や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解し、実践的な指導についての認識を深める。
 2) 子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解のため、学習指導要領に示された目標及び内容を理解する。

授業計画		事前	事後	単位数
第1回	オリエンテーション 現代社会における道徳教育の求められる課題	小・中学校時代に自分が受けてきた道徳の授業をふりかえりワークシートに記述する	現代社会において道徳が必要な場面はどこか、または自分は学んできた道徳を活かしたかをワークシートに記述する。	90分 180分
第2回	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	大学生として、年下の若者の倫理的課題をふりかえりワークシートに記述する。	教職課程を履修し教師を目指す者として、道徳教育によって彼らの課題をどう解決するかをワークシートに記述する。	90分 180分
第3回	道徳教育の理念と課題：道徳教育の歴史的経緯を基に求められる理念	昭和33年の特設道徳に関する歴史的事項についてネットで事前に調べておく。	「特別の教科 道徳」に至るまでの60年間の道徳の歴史について、ワークシートを用いてまとめる。	90分 180分
第4回	道徳性の形成要因と発達段階における課題と教育的目標	アヴェロンの子生児についてネット等を利用してどのような事件なのか調べておく。	道徳性とは何かを、具体的に22項目の道徳教育の内容項目と関連付けてワークシートにまとめる。	90分 180分
第5回	学校における道徳教育の目標とその内容：道徳性の育成に向けた課題	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳教育の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳教育の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90分 180分
第6回	「特別の教科 道徳」の指導とその内容・教材の分析とその活用：葛藤教材	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳科の目標を探して予習しておく。	『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳科の目標を家族や友達に説明できるように練習する。	90分 180分
第7回	「特別の教科 道徳」の教材の分析とその活用：知見教材	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いて何を教えるか考える。	道徳科の読み物教材と、国語科の教科書の教材の違いについて自分の言葉で家族や友達に説明できるように練習する。	60分 210分
第8回	感動教材の分析に基づく指導案の構成とねらい（教材：パスと赤ちゃん）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材を用いた道徳の授業において、なぜ学習指導案が必要なのか、どんな項目を記述するか家族や友達に説明できるように練習する。	60分 210分
第9回	葛藤教材（起承転結）の構成と分析（教材：足袋の季節）	事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30分 240分
第10回	葛藤教材の分析に基づく指導案の作成（教材：卒業文集最後の二行）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60分 210分
第11回	葛藤教材の分析（話し合い）に基づく指導案の作成（教材：二通の手紙）	完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	60分 210分
第12回	葛藤教材の分析に基づく模擬授業の実践（教材：一冊のノート）	完成させた道徳科学習指導案に基づいて、模擬授業ができるよう前回の授業でグループ分けをした仲間、で模擬授業の練習をしておく。	模擬授業をふりかえり、自分たちのグループや仲間のグループの評価を行う。	240分 30分
第13回	「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・提出（教材：美しい母の顔）	事前に配布した教材について目をとっておくこと。	教材分析をして学んだことを用いて、途中で仕上げた自分の学習指導案を完成させる。	30分 240分
第14回	学校における道徳教育の全体計画と年間指導計画 評価の内容	ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間発表できるようにしておく。	自分自身が学校の校長と想定して、どのような全体計画を作成するか、途中で仕上げたものを完成させる。	60分 210分
第15回	学校・家庭・地域社会の役割と連携：道徳授業地区公開講座の役割	道徳授業公開講座をネット上から調べて、どのような授業中に仲間説明できるようにしておく。	道徳地区公開講座のチラシを作成するとして場合、どのようなレイアウトや内容にするか検討し、作成途中のものについて完成させる。できあがったものはプリントアウトして提出する。	60分 210分

フィードバック 毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4点、「A」3点、「B」2点、「C」1点として成績評価に加える。

成績評価 筆記試験（期末）40% 学習指導案の提出 20% 模擬授業の実践 10%
 ミニットペーパー30%（ミニットペーパーをフィードバックした評価について15回の中でよい成績のものを10回分加点する）
テキスト 伊藤良高『改訂版道徳教育のフロンティア』（見洋書房）2019年4月
 （3階の売店にて販売いたします。履修する学生は全員が購入し、必ず授業では持参してください）

参考文献 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成30年7月 文部科学省ホームページから閲覧可能
オフィスアワー 質問等がある場合は、授業の終了後に対応する。

アクティブ・ラーニング オンラインによる授業において、Zoomのブレイクアウトルームという手法でグループごとに分かれて画面上で議論したり、教材を共有してプレゼン資料を作成する。

備考 PCを使用する。Google classroomに登録して、ネット上で提出物や教材の共有を行うので、Googleのアカウントを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／大学教授 山内雅子

科目コード：SCH207

対象コース／専門／学年：全コース／全専門／2 年次生

形態：講義 課題解決的な授業展開で講義・演習・討論

単位数：2 単位

概要 到達目標の内容について、様々な中学校の実践事例を検討しながら、講義と討論を通して考察する。

到達目標 特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する生徒指導の要である。特別活動の見方・考えを働かせた実践的な指導方法の習得を目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った授業計画の構想を練り上げることができるようになる。

授業計画 毎時間の課題に対して、講義と討論を中心に進める。

第 1 回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 2 回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 3 回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 4 回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。 事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 6 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 7 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集団宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。 事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	160 分 110 分
第 8 回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。 事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	160 分 110 分
第 9 回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 1-17 を読んでくる。 事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp. 103-119 を読んでくる。 事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしてくる。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	SDG s 関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 SDG s 関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。 事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	160 分 110 分
第 14 回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画をグループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめてくる。 事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画をまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。 事後 発表と討議を通して学び考えたことを、最終レポートにまとめる。	160 分 110 分

フィードバック 討論、模擬授業への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 特別活動：レポート 60% リフレクションペーパー40%
総合的な学習の時間：授業での発言、討論への姿勢（30%） 指導計画作成の取り組みと発表（40%） 最終レポート（30%）

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 別紙にて周知のオフィスアワーで対応する。事前にメールで相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>										

教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 林直美

科目コード：SCH111

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、教育の目的に適した指導技術を実践しながら理解し身につける。そして、情報通信技術の活用の意義と理論や、効果的に活用した学習指導や校務の在り方について理解し、生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための指導法を学ぶ。

到達目標 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。さらに情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方、並びに生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業計画 前半では教育方法に関する理論、後半では情報通信技術の活用を中心に説明し、授業を行う際に必要となる技術や方法についての実践も含めて体得していく。

第 1 回	教育方法の基礎的理論と実践	事前	これまでの学校生活において「良い授業」だと感じたものを思い出しておく。	100 分
		事後	授業で配布された資料を読んでおく。	180 分
第 2 回	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方 ー主体的・対話的で深い学びの実現についてー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	授業を構成する基礎的な要件とはー学級・生徒・教員・教室・教材についてのグループ討論ー	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	学習評価の基礎的な考え方ー学力と教育評価ー	事前	授業で指示された課題に取り組む。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	授業を行う上での基礎的な技術ー話法・板書に関するワークショップー	事前	各自望ましい話し方と板書について考え、必要に応じて調べておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成ー目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価基準等の観点からー	事前	前回の授業をふまえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（1）社会的背景や急速な技術発展を踏まえた授業改善 （個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学びの実現）	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（2）特別の支援を必要とする生徒に対する留意点	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	情報通信技術の活用の意義と在り方（3）ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方や学校における ICT 環境の整備の在り方	事前	学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（ワークショップ）ー育成を目指す資質・能力や学習場面に応じたデジタル教材の作成・利用を含む指導事例ー	事前	情報機器の操作方法を調べ、教材作成のための資料を各自で収集しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（グループディスカッション）ー学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した指導や学習評価、教育情報セキュリティの重要性ー	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（模擬授業）ー遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用方法ー	事前	これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	情報通信技術を効果的に活用した校務の推進の在り方ー統合型校務支援システムとはー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（1）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における横断的な情報活用能力の育成	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	生徒の情報モラルを含む情報活用能力育成のための基礎的な指導法（2）各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の特性に応じた指導の事例研究	事前	授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	200 分
		事後	教育実習や学校体験活動などですぐに使えるように、まとめておく。	80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（50%）、授業への参画姿勢（50%）グループディスカッション、ワークショップ、模擬授業、学習指導案、提出物の状況、およびレポートにより総合的に評価する。

テキスト 中学校学習指導要領（平成 29 年告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示 文部科学省）
参考書・参考資料等
佐藤学『教育の方法』（2010）左右社
田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』（2019）有斐閣
田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育方法論』（2014）一藝社

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

アクティブ・ラーニング 学生主体で対話的で深い学びになるような模擬授業を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	

生徒・進路指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／講師 林直美

科目コード：SCH112

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義

単位数 2 単位

概要 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。

到達目標 学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画 前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。

第1回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能 (担当:内田)	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の3機能について自己の考えをまとめる。	100分 180分
第2回	集団指導・個別指導の方法原理 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140分 140分
第3回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方 (担当:内田)	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140分 140分
第4回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み (担当:内田)	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140分 140分
第5回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 (担当:内田)	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140分 140分
第6回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容 (担当:内田)	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140分 140分
第7回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業 (担当:内田)	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140分 140分
第8回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方 (担当:内田)	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140分 140分
第9回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第10回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 (担当:林)	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出ししておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第11回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第12回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第13回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第14回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用(在り方) (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140分 140分
第15回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 (担当:林)	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180分 100分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー (40%)、レポート (60%) から総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』(2010) 教育図書 ※現在、『生徒指導提要』が改訂作業にあるため、出版された場合は、新版を購入する。

参考書・参考資料等
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』(2011) 教育出版

オフィスアワー 別途示されている担当教員オフィスアワーにて対応する。事前に E メールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☑	☑	☑	☐	☑	☑	☐	☐	☐

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学教授 石橋明佳

科目コード：SCH113

専門/学年：全専門/1 年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。

到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や不適応行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。
------	--

回	内容	事前	事後	単位数
第 1 回	ガイダンス：授業の方法や進め方、受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史的変遷、学校における教育相談の特質）	テキストの関連ページを読む。	授業ノート・スライドを見直し、教育相談の意義をまとめる。	70 分 200 分
第 2 回	学校における不適応行動の理解と対応① 反社会的行動（非行、暴力行為、いじめ等）の特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読み、実際のケースをメディアで調べる。 事後 授業ノート・スライドを見直し、反社会的行動の心理的背景と解決支援についてまとめる。	事前 テキストの関連ページを読み、実際のケースをメディアで調べる。 事後 授業ノート・スライドを見直し、反社会的行動の心理的背景と解決支援についてまとめる。	70 分 200 分
第 3 回	学校における不適応行動の理解と対応② 非社会的行動（不登校、ひきこもり、自傷行為等）の特徴と問題解決方法の事例学習	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題①（いじめのケーススタディ）に取り組む。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題①（いじめのケーススタディ）に取り組む。	60 分 210 分
第 4 回	思春期の成長と発達課題：悩みの特徴、反抗期の捉え方、取得が望まれるライフスキル、リフレミングを使った対応	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 悩みの促進要因についてまとめる。自分自身の短所をリフレミングする。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 悩みの促進要因についてまとめる。自分自身の短所をリフレミングする。	70 分 200 分
第 5 回	思春期のストレス：ストレスのメカニズム、ストレスに関係する脳内ホルモン、ストレスをためやすい子供の特徴	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 自分自身のストレスと対処行動の課題を考え、まとめる。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 自分自身のストレスと対処行動の課題を考え、まとめる。	70 分 200 分
第 6 回	学校における不適応症状の理解と対応：精神障害とは何か、思春期にストレスがきっかけで発症しやすい疾患	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②（摂食症のケーススタディ）に取り組む。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②（摂食症のケーススタディ）に取り組む。	60 分 210 分
第 7 回	神経発達症（発達障害）の理解と対応：神経発達症の特徴と修学困難性の理解	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②に継続して取り組む。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題②に継続して取り組む。	60 分 210 分
第 8 回	第 1 回～7 回のまとめ、宿題②について	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する。 事後 理解不足だった部分の復習をする。宿題②に継続して取り組む。	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する。 事後 理解不足だった部分の復習をする。宿題②に継続して取り組む。	130 分 140 分
第 9 回	教育相談の場面①：生徒理解のためのカウンセリングマインド、ラポールの構築、ホジティブ・アプローチ	事前 テキストの関連ページを読み、日常における生徒との関わりを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、生徒との良好な関係の構築方法についてまとめる。	事前 テキストの関連ページを読み、日常における生徒との関わりを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、生徒との良好な関係の構築方法についてまとめる。	70 分 200 分
第 10 回	教育相談の場面②：ストレス・サインへの対応、校内や他機関、保護者との連携	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、個別の相談等の対応についてまとめる。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、個別の相談等の対応についてまとめる。	70 分 200 分
第 11 回	教員が応用できるカウンセリング・テクニック①：基本姿勢、展開方法、チェックポイント	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーの態度を理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を複数回実施する。	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーの態度を理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を複数回実施する。	50 分 220 分
第 12 回	教員が応用できるカウンセリング・テクニック②：聴き取り、伝え返し、生徒の自主性・自己肯定感の向上	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーのスキルを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題③（リフレクションの実践）に取り組む。	事前 テキストの関連ページを読み、カウンセラーのスキルを理解する。 事後 授業ノート・スライドを見直す。宿題③（リフレクションの実践）に取り組む。	60 分 210 分
第 13 回	インクルーシブ教育に応用できるカウンセリング・テクニック①：バリアフリーなコミュニケーション法と個別のバリアへの対応	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を実施する。	事前 テキストの関連ページを読み、疑問点を明らかにする。 事後 授業ノート・スライドを見直し、演習課題を実施する。	70 分 200 分
第 14 回	インクルーシブ教育に応用できるカウンセリング・テクニック②：支援方法の事例学習（「音楽」指導例を含む）	事前 テキストの関連ページを読む、疑問点を明らかにする。 事後 復習後、宿題④（自閉スペクトラム症のある生徒への支援）に取り組む。	事前 テキストの関連ページを読む、疑問点を明らかにする。 事後 復習後、宿題④（自閉スペクトラム症のある生徒への支援）に取り組む。	60 分 210 分
第 15 回	教員のメンタルヘルスとソーシャル・スキル、試験について	事前 テキストの関連ページを読み、教育現場の問題についてメディアで調べる。 事後 自分自身の自己成長課題は何か、どのように克服したいかを考えまとめる。	事前 テキストの関連ページを読み、教育現場の問題についてメディアで調べる。 事後 自分自身の自己成長課題は何か、どのように克服したいかを考えまとめる。	70 分 200 分

フィードバック	課題・宿題・ミニレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
成績評価	試験（レポート）40%、課題・宿題・ミニレポート 60%の評価配分を基準とし、授業参画度（課題の実践程度・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト	プリント教材『教育相談』（約 700 円）
------	-----------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@mail.uenogakuen.ac.jp
---------	--

備考	課題には個人で取り組む作業と小人数でのグループ・ワークがあり、授業外で実施を求める場合もあります。リモート授業への切り替えがあった場合や授業の進捗状況等により、シラバスが若干変更する場合があります。その際は直近の授業で案内します。
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

教職実践演習（中）

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／講師 林直美

科目コード：SCH204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義

単位数：2 単位

概要 2 年間の教職の学びの集大成として、全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとするために、これまで受講した主に教職に関する科目の学修内容と教育実習・介護実習を関連させ、実践的指導能力の育成を図る。

到達目標 全ての教職・教科に関する科目の内容を有機的につなげ、教職に就く者としての意識や知識や技能を確かなものとし、教育的愛情をもって生徒に接し、学修内容を生きた力として発揮できるようにすることを目標とする。

授業計画 オムニバス形式で行う

第 1 回	教職の意義及び専門職としての資質・能力（内田）	事前 教育実習を通して感じた教師という仕事について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 2 回	教員の職務と学校現場における課題解決（いじめ、SNS、不登校等への対応）（内田）	事前 教育実習で感じた学校現場における課題について、箇条書きにしておく。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 3 回	チーム学校及びコミュニティスクールの実践（内田）	事前 教育実習で感じた「チーム学校」または「チームでの取り組み」について、箇条書きにまとめる。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 4 回	教師としての人権意識及び発達障害を有する生徒への対応（内田）	事前 事前に配布された人権についての資料を読む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 5 回	生活指導と道徳の指導（内田）	事前 事前に配布された生徒指導、道徳についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 6 回	安全教育（含むアレルギー対応）及び学校の危機管理（内田）	事前 事前に配布された安全教育についての資料を読む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 7 回	GIGA スクール構想における個別最適化学習と協働的学習の一体化（内田）	事前 GIGA スクール構想に関する資料を読む。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 8 回	教育原理・知識と実践のつながりについてのグループ討論（林）	事前 教育原理の講義で使用したテキスト・資料・ノートを用意し、読み直す。 事後 討論した内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 9 回	教育課程の意義及び編成の方法についての事例研究（林）	事前 教育課程総論の学びを振り返る。 事後 取り上げた事例の内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 10 回	教育に関する社会的・制度的課題についての事例研究（林）	事前 教育に関する社会的・制度的課題について関心がある事例や報道をまとめておく。 事後 取り上げた事例の内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 11 回	ICT を活用した教育の方法及び技術に関する実技指導（林）	事前 教育方法論の講義で使用した資料・ノートを用意し、読み直す。 事後 実技内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 12 回	ICT を活用した教科及び総合的な学習の時間の指導実践（模擬授業）（林）	事前 教科や総合的な学習の時間の講義・教育実習を振り返り、模擬授業の準備をする。 事後 模擬授業を行った内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 13 回	学級経営（学級づくり）案の作成・グループ討論（林）	事前 教育実習等で使用した資料を用意し、学級経営案作成の準備をしておく。 事後 学級経営案の手直しを行い、完成させる。	160 分 110 分
第 14 回	進路選択に資する各種の機会の提供についてのロールプレイング（林）	事前 進路指導論の講義で使用した資料・ノートを用意し、読み直す。 事後 役割演技を行った内容で重要と思うことをノートにまとめる。	160 分 110 分
第 15 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師の在り方について討論を行い、レポートを作成する（内田、林）	事前 事前に配布された教師像についての資料を読み、課題問題に取り組む。 事後 討論後の自己の課題を把握する。	160 分 110 分

フィードバック 毎回の課題に対して、講義の内容を振り返ると共に、それぞれが教育実習等の経験を踏まえて、自分の考えを述べ、交流する学修が中心となる。リフレクションペーパーを通してフィードバックを行う。

成績評価 リフレクションペーパー（50%）。最終レポート課題（50%）

テキスト ・ 毎回、授業用資料を提示する。

オフィスアワー 別途示されている担当教員のオフィスアワーにて対応。事前に E メールにて相談のこと。

アクティブ・ラーニング 学校危機管理、安全管理に関する具体例の検討を通じた実務的能力の獲得
ICT を活用した授業を通じた ICT スキルの向上

備考 教職の総まとめの授業となるため、教職担当教員で担当する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

教育史

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 林直美

科目コード：SCH103

専門/学年：全専門/2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。そして教育に関する様々な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。さらに社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。その歴史をうけて現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、教育に関する制度的・形成的事項や、学校と地域との連携及び学校安全への対応については教育原理で学ぶ。
授業計画	前半では教育の変遷について学び、後半はその歴史を受けて現代の学校教育の成り立ちについて考察する。

第 1 回	オリエンテーション—教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標—	事前 テキスト『教育の理念・歴史』の全体に目を通しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	100 分 180 分
第 2 回	家族と社会による教育の歴史	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 3 回	家庭や子供に関わる教育の思想と学校や教員の成り立ちとの相互関係	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 4 回	西洋における近代教育制度の成立と課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 5 回	西洋における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 6 回	代表的な教育家の思想 (1) ルソー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 7 回	代表的な教育家の思想 (2) ベスタロッチ、フレーベル	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 8 回	日本における近代教育制度の成立と展開	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 9 回	日本における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	代表的な教育家の思想—明治・大正期	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	近年の教育政策の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	現代社会における教育課題を歴史的視点から捉える	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	諸外国の教育事情や教育改革の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントを押さえる。	140 分 100 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 (50%)、提出物の状況 (30%)、授業への姿勢 (20%) を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『新・教職課程シリーズ 教育の理念・歴史』(2013) 一藝社
(テキストの購入については、第 1 回の講義において説明する)
参考書・参考文献等
本田和子『子ども 100 年のエボック』(2000) フレーベル社
森川輝紀・小玉重夫『教育史入門』(2012) 放送大学教育振興会

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

音楽科授業演習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一

科目コード：SCH206

専門/学年： 全専門/2年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 音楽科教育法で習得した教材研究と教育方法を活用し、表現と鑑賞の模擬授業を通して授業力を身に付ける。

到達目標 この科目では、授業における実践的指導能力を獲得するために表現と鑑賞に関する指導案を作成し、授業実践ができることをねらいとする。

授業計画

回数	授業内容	事前	事後	160分	110分
第1回	歌唱教材の模擬授業（変声期を踏まえた指導方法）	新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。	新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。	160分	110分
第2回	中学校歌唱共通教材の模擬授業（坂道の歌、赤とんぼ、夏の思い出）	教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。	講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。	160分	110分
第3回	混声合唱の模擬授業	混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。	混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160分	110分
第4回	日本伝統的な歌唱の模擬授業	「勅進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。	伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160分	110分
第5回	リコーダーを用いた器楽学習の模擬授業	事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。	リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。	160分	110分
第6回	電子楽器を用いた器楽学習の模擬授業 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。	電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160分	110分
第7回	箏を用いた器楽学習の模擬授業	事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。	和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。	160分	110分
第8回	リズム、旋律づくりの模擬授業	教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」にある創作教材について理解しておく。	講義で配付した資料を基に創作指導と評価について自己の考えをまとめる。	160分	110分
第9回	構成を生かした創作学習の模擬授業	教科書「中学校の音楽1」「中学校の音楽2・3上、下」にある創作教材について理解しておく。	講義で配付した資料を基に創作指導と評価について自己の考えをまとめる。	160分	110分
第10回	生活や社会における意味を考える創作学習の模擬授業	自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。	自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。	160分	110分
第11回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞①	学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。	講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。	160分	110分
第12回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞②	指導案を構想しておく	講義内容を踏まえて指導案の展開を練り上げる。	160分	110分
第13回	指導案の検討及び履れた授業の条件	指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。	講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。	160分	110分
第14回	表現の模擬授業と批評	表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。	授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。	160分	110分
第15回	振り返りとまとめ	優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。	指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。	160分	110分

フィードバック 小レポート、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 指導案評価（70%）、模擬授業の評価（30%）、授業への取組

テキスト 『平成29年告示中学校学習指導要領解説音楽編』 令和3年度版『中学生の音楽1』『中学生の音楽2・3上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的意欲	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>											

科目名 哲学と倫理

非常勤講師 東風安生

科目コード：HUM301

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 哲学とは、世界や人間についての知恵、原理を探究する学問のことである。特に哲学の領域の一部である人と人との関わりに生まれる思いやりなどの道徳や善悪の判断といった倫理について深く学ぶ。古代ギリシア時代のギリシア哲学を始めに、西洋哲学・中国の儒教の考え方、民主主義を確立した近代西洋哲学、そして現代社会における倫理思想や道徳心についても広く学んでいく。

到達目標 ウイズコロナの時代に、将来の日本社会や文化を築いていく若者として、悩んで考え続けることの大切さや、批判的に考える視点を、身に付けることができるようになる。また、ダイバシティの時代に多面的に捉え、多角的な視点から考えることのできる民主的な態度を内面に培うようになる。

授業計画

第1回	「哲学とは何か」哲学者自身が哲学をどのように定義しているかを見ていく。また哲学と倫理のちがいを明確にして、ウィズコロナ時代に必要な学びであることを理解する。	事前 高等学校の「現代社会」をふりかえり哲学とはどんな学問であるか考えておくこと。90分 事後 哲学と倫理のちがいについて、身近な他者に質問をして自身で解説を加えること。180分
第2回	「哲学の起源：タレスの思想」なぜ古代ギリシアでは神学から哲学へと学問が変化したかを学ぶことで、哲学の起源を知る。その際に古代哲学者タレスの思想などを理解する。	事前 ギリシア哲学が生まれる前のギリシア神話を1つ例にとって読んでみること。90分 事後 なぜタレスはギリシアの神学に疑問をもったのか自分の言葉で説明してみること。180分
第3回	「人間の探求：ソクラテスの思想」人間としての徳は、よりよく生きることだと言ったソクラテスの考え方を、「無知の知」「助産術」などのキーワードを用いて理解する。	事前 ケセノフォン『ソクラテスの思い出』プラトン『ソクラテスの弁明』に触れる。90分 事後 ソクラテスの考え方が現代社会の生き方にも生かされている点を探してみること。180分
第4回	「イデア論：プラトンの思想」人間の欲望と意志と理性という「普遍的な三角形」を代表とするイデア論と正しい国家の在り方を理解するための四元徳について理解する。	事前 プラトンの『国家』から第七巻より「洞窟の比喩」を読んでおくこと。90分 事後 新聞記事で政治面・社会面などからプラトンの思想に関連している点を探すこと。180分
第5回	「幸福と中庸：アリストテレスの思想」人間は魂の活動をして自分の能力を発揮することで幸福になるや、生活における中庸さを大切にしたい生き方の意味について理解する。	事前 アリストテレスの『ニコマコス倫理学』とはどういう書物かを調べておくこと。90分 事後 これまでの学びを生かした演習問題を解いてみる。哲学での学びを活用すること。180分
第6回	「近代科学の誕生と経験論・合理論」「知識は力なり」と呼ばれた自然を支配する知識の源泉を経験に求める経験論と物心二元論と方法的懐疑の合理論について理解する。	事前 帰納法と演繹法のちがいを調べて、身近な例を出して説明できるようにすること。90分 事後 自分自身が論をたてて演習を行う。効果的に帰納法と演繹法を用いて論説すること。180分
第7回	「古代中国の思想と儒教」孔子の論語をもとにして、儒教の考え方を理解する。自分自身の生き方において参考になる論語の言葉を探して、深く理解する。	事前 教科書に示した論語のことばから1〜2つ好きな言葉を選んで意味を調べておくこと。90分 事後 就活におけるエントリーシートに孔子の言葉を引用して書いてみる。180分
第8回	「人間の理性と民主主義：ルソーの思想」市民について深く考え、間接民主主義と社会契約について学び、民主主義の基礎を理解する。	事前 イギリス近代哲学のホブズやジョン・ロックについて、調べておくこと。90分 事後 直近で行われる選挙はどのような選挙でどんな仕組みで実施されるか調べる。180分
第9回	「社会契約と直接民主主義：ルソーの思想」自由で平等な民主主義社会とフランス革命について学び、間接民主主義と直接民主主義のちがいを民主主義における多数決の課題を理解する。	事前 ルソーの書いた『エミール』の序について事前に精読しておくこと。90分 事後 ルソーは『エミール』でエミール少年をどのような人物にしたかったか考えること。180分
第10回	「人間の理性と批判哲学：カントの思想」真理を探究する理論理性と善悪を判断して善い行為を行う実践理性について学ぶ。内なる声に耳を傾ける自律についても体験を基に考える。	事前 小学校の道徳科授業についての動画を視聴し、学校現場での徳の指導を理解すること。90分 事後 カントの道徳と政治の一致によると永遠平和が訪れるという論理を論説すること。180分
第11回	「弁証法の論理：ヘーゲルの思想」カントの哲学から発展して、歴史を動かす絶対精神と真理の生成の論理であるところの弁証法について学んでいく。	事前 NHK 高校講座「ロンのちから」20編から3〜4本を視聴しておくこと。90分 事後 人間のよりよい生き方について弁証法を使い説明できるように演習問題をすること。180分
第12回	「科学技術の発達と生命：クローン技術」近代科学の発展に伴い、人間の生命についてそまて科学的な操作が可能かについて、実際に米国で問題となっている話題の動画を見て考える。	事前 指定したNHKスペシャルの番組を事前に視聴しておくこと。90分 事後 自分が生きていく上で参考にしていきたい生命倫理の書籍や論文を探すこと。180分
第13回	「科学技術の発達と生命：脳死判定」脳死の場合にどのような状態で死を迎えたかと判断するか、受け止める側の問題や尊厳死や安楽死の問題にも関連させて理解する。	事前 指定したNHKスペシャルの番組を事前に視聴しておくこと。90分 事後 自分が生きていく上で参考にしていきたい脳死・安楽死・尊厳死の書物を探すこと。180分
第14回	「科学技術の発達と自然：環境保全か経済発展か」持続可能な社会に向けて経済と自然環境の保護をどうしたら共存する形にできるか、多面的な視点から理解する。	事前 身近な環境において自然とコンクリートの建物の状態をGoogleマップで調査する。90分 事後 SDG'sに掲げられた17の中から努力するベスト3を選び実践計画を立てること。180分
第15回	「科学技術の発達とAI社会」AIに代われない人間の価値とは何かについて考え、Society5.0の社会に生きていく日本人に求められる価値観やウィズコロナ社会での活用を理解する。	事前 アカデミー賞作品スタンリーキューブリック『2001年宇宙の旅』の可能な限り視聴。150分 事後 AIを活用していく社会における道徳的価値観について家族で意見交換をすること。120分

フィードバック ①指導者が Google フォームを用いて簡単な3択問題を作成して、学生は自分自身で回答し、誤った理解の部分は復習を行う。
②ミニット paper にて課題を出した場合は、次週までに指導者の感想と意見、評価を加えて返却する。
成績評価 民主的な態度が育ったかについて批判的に考える視点や多面的に捉え、多角的な視点から考えることのできるようになったかを、話し合いへの積極的な参加やミニット paper での多角的な意見、Google フォームでの理解確認などで総合的に評価する。【発表 50%, ミニット paper25%,Google フォーム 25%】
テキスト ・【教科書】東風安生『哲学の時間/「考える力」が必ず身につく/15講義』(22世紀アート) ¥800(電子書籍)
・NHK 高校講座は、NHK ホームページサイトから無償で閲覧できます。NHK スペシャルの番組については、教育目的の使用のため著作権問題には抵触しません。そのため番組を大学講義の教材として使用する目的で撮影したものを GoogleDrive にアップロードして、受講生は閲覧できるようにします。
・岩波文庫で紹介した本はできる限り、本を手にとって文字を追って読んでください。
ルソー著 今野一雄訳『エミール(上)』¥1,200 アリストテレス著 高田三郎訳『ニコマコス倫理学(上)』¥570
ケセノフォン著 佐々木理訳『ソクラテスの思い出』¥800 カント著 篠田英雄訳『純粋理性批判(上)』¥1,100

オフィスアワー 質問や意見を交換したい場合には、授業終了後に教室で資料等の片付けをするのでその際に対応する。

備考 PCを使用する。GoogleClassroomに本科目のクラスを設定する。ここで、ネット上で提出物や教材(映像教材も含む)の共有を行うので、Googleのアカウントを用意すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

美術史基礎

非常勤講師 吉澤早苗

科目コード：HUM302

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数 2単位
概要	西洋美術を中心に、絵画をはじめとする造形表現の基本的な見方を学ぶ。多くの文化施設が集まる上野に位置した本学園の立地条件を生かし、教室で講義を受けるばかりでなく、美術館・博物館での実作品の鑑賞も行いながら、視覚芸術に対する感性を養い、これをよりよく理解するための基礎的知識を身につける。

到達目標	西洋美術を中心に、さまざまなジャンルの作品についてそのかたちの見方、作品のかたちが表わす意味の読み方、さらには作品と作品をめぐる人々や社会との関係を学ぶ。また、さまざまな時代、地域の作品を鑑賞する中で、古代から現代にいたる西洋美術のおおまかな流れも理解する。
------	---

回	内容	事前	事後	単位数
第1回	オリエンテーション（授業概要、成績評価に関する説明ほか） 上野の美術館・博物館について（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第2回	美術作品を見る（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 鑑賞レポートの作成	150分	
第3回	美術作品について語る：鑑賞体験を言葉にする（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第4回	人物像：西洋美術における理想的人物像（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第5回	人物像：肖像画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第6回	人物像（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 鑑賞レポートの作成	150分	
第7回	キリスト教絵画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第8回	物語画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第9回	キリスト教絵画・物語画（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 鑑賞レポートの作成	150分	
第10回	風景画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第11回	静物画（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第12回	風景画・静物画（美術館での作品鑑賞）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 鑑賞レポートの作成	150分	
第13回	20世紀美術の革新（講義）	事前 西洋美術史の背景となる西洋史について、高校レベルの世界史を復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第14回	西洋美術と日本美術（講義）	事前 高校レベルの日本史（文化史）の復習	事後 120分	150分
		事後 配付資料による講義内容の復習	150分	
第15回	西洋美術と日本美術（美術館での作品鑑賞）	事前 高校レベルの日本史（文化史）の復習	事後 120分	150分
		事後 鑑賞レポートの作成	150分	

フィードバック 美術館での作品鑑賞時に提出するレポート（鑑賞レポート）については、提出後、講評を行う。

成績評価 主に鑑賞レポートと期末レポートにより、美術作品を見る力、および鑑賞体験について適切に記述する能力をはかる。

【評価配分（目安）：鑑賞レポート 40%、期末レポート 50%、授業への積極的な取り組み 10%】

テキスト 教科書は使わない。随時、講義内容に関する資料を配布。

参照資料：高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（増補新装）（美術出版社）

オフィスアワー 毎回、授業の最後に質問等の受付時間をとる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーション1-1

准教授 佐野直哉

科目コード: ENG301

専門/学年: 全専門/専攻科1年次

形態: 講義

単位数: 2単位

概要 読んで話す」「聞いて話す」を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。「読む」「聞く」+「話す」を中心に4技能に対応したオールイングリッシュの構成。英語でのディスカッションやプレゼンテーションへと繋がる基礎的なコミュニケーション能力を養成する。意見をシェアする表現活動も豊富に取り入れる。適宜、英語で講義をおこなう。

到達目標 「異文化とファッション」「フェイクニュースとの付き合い方」など会話が盛り上がるトピックを用いて、初級レベルでも無理なく中身のある会話ができるように導く。発音クリニックも行い、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる

授業計画

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	Chapter 1: Campus Life Reading/How busy are you?	事前 Check the textbook and look it through	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第2回	Chapter 1: Campus Life Opinion/Meetings in the morning or in the evening	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第3回	Chapter 2: Weekends Reading/Who has the most days off?	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第4回	Chapter 2: Weekends Opinion/Stay home or go out	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第5回	Chapter 3: Japanese Culture Reading/Japanese words in English	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第6回	Chapter 3: Japanese Culture Opinion/Animal cafes or maid cafes	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第7回	Chapter 4: Healthy Living Reading/Living a long and healthy life	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第8回	Chapter 4: Healthy Living Opinion/Make your lunch or buy it	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第9回	Chapter 5: Fashion Reading/A controversial fashion ad	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第10回	Chapter 5: Fashion Opinion/For or against unisex school uniforms	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第11回	Chapter 6: Life Style Reading/Living with less: Minimalism	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第12回	Chapter 6: Life Style Opinion/Pros and cons of being a minimalist	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第13回	Chapter 7: Celebrations Reading/The highest earning song	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第14回	Chapter 7: Celebrations Opinion/For or against giri choco	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第15回	Review Chapters 1-7	事前 Go through the units 1-7 and identify where you need more support.	事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40分 50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう! トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

英語コミュニケーション I-2

准教授 佐野直哉

科目コード: ENG302

専門/学年: 全専門/専攻科1年次

形態: 講義

単位数: 2単位

概要 前期に引き続き「読んで話す」「聞いて話す」を通して発信のためのコミュニケーションスキルを磨く。英語でのディスカッションやプレゼンテーションへと繋がる基礎的なコミュニケーション能力を養成する。英語で講義を進めるため、積極的に英語を理解し、話す態度を求める。

到達目標 学習者ひとりひとりが立場の異なる役割を担って、面と向かって相手に情報を的確に伝え、また説得することをゴールとする。自らの意見を書いたり、プレゼンテーションする活動で循環的にインプットとアウトプットを行い、スピーキング力へ応用することを目指す。発音クリニックも行い、自分の意見を平易に「通じる」英語で表現するとともに、相手の意見にも的確に英語で応じることができる。

回	Chapter	Reading/Opinion	事前	事後	分
第1回	Chapter 8: Travel	Reading/Alternative places to stay	事前 Check the textbook and look it through	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第2回	Chapter 8: Travel	Opinion/Stay at an Airbnb or not	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第3回	Chapter 9: Food	Reading/Japanese food in the world	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第4回	Chapter 9: Food	Opinion/The best Japanese food	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第5回	Chapter 10: The Environment	Reading/Earth Day	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第6回	Chapter 10: The Environment	Opinion/How to reduce air pollution	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第7回	Chapter 11: Business	Reading/SMS and email	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第8回	Chapter 11: Business	Opinion/A busy workplace or a quiet one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第9回	Chapter 12: The Internet and Social Media	Reading/Fake news	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第10回	Chapter 12: The Internet and Social Media	Opinion/The internet or TV	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第11回	Chapter 13: Sports	Reading/First woman to run in the Boston Marathon	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第12回	Chapter 13: Sports	Opinion/Belong to many clubs or just one	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第13回	Chapter 14: A Barrier-free Society	Reading/No limitations!	事前 Prepare your own ideas based on the topic	事後 Work Speaking Up A-② and memorize it.	40分 50分
第14回	Chapter 14: A Barrier-free Society	Opinion/Hiring people with disabilities	事前 Work Speaking Up B-② and memorize it.	事後 Complete a writing task and submit.	40分 50分
第15回	Review Chapters 8-14		事前 Go through the units 8-14 and identify where you need more support.	事後 Revise what you learned in the class and make sure of the knowledge.	40分 50分

フィードバック 授業での課題に対して添削やコメントを通じて学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 70% Writing 課題 20%、授業態度 10%

テキスト Chat and Share! Topic Starters for Today's Students 話してみよう! トピックベースの英会話

Diane H. Nagatomo, 金星堂

オフィスアワー 月曜V駒 研究室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技研究 I-1 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND301

専門/学年: ピアノ専門/専攻科1年次

形態: 実技

単位数 2単位

概要 技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標 それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。

授業計画 前期 15回、各人 60分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回	内容	事前	事後	評価
第1回	ガイダンス 1年間の学習計画を立てる	レパートリーに加えたい作品を選ぶ	前期の目標を設定し、勉強方針を立てる	420分
第2回	前期試験曲 作品の概要、時代背景	読譜をはじめ	作曲家について調べる	420分
第3回	前期試験曲 読譜の確認	作品の様式を意識しながら、読譜を進める	正しい読譜ができているか確認をする	420分
第4回	前期試験曲 楽譜の読み込み	作曲家の時代背景を考える	記譜の細部まで意識して、作曲家の意図を考えながら練習をする	420分
第5回	前期試験曲 アーティキュレーションと奏法	表現方法を考えて、練習をする	様式に即した奏法を確認して、練習をする	420分
第6回	前期試験曲 フレーズ感と脱力	アーティキュレーション、スラーの確認をして、練習をする	フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習をする	420分
第7回	前期試験曲 和声感	和声機能の確認をして、練習をする	和声の響きを意識して、練習をする	420分
第8回	前期試験曲 形式・様式	作曲家の要求している音色を探り、練習をする	曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420分
第9回	前期試験曲 強弱とコントラスト	強弱の確認をして、練習をする	コントラストの付け方の研究をして、練習をする	420分
第10回	前期試験曲 細かいニュアンス	タッチの確認をして、練習をする	色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420分
第11回	前期試験曲 テンポ感	最終的なテンポを設定する	テンポの不自然なふらつきがないか確認をして、練習をする	420分
第12回	前期試験曲 響きを聴く	和声の響きを聴いているか確認をして、練習をする	声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして、練習をする	420分
第13回	前期試験曲 仕上げ 1	表現を掘り下げて、練習をする	独自の表現ができているか確認をして、練習をする	420分
第14回	前期試験曲 仕上げ 2	曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	細部の確認をする	420分
第15回	前期試験曲 仕上げ 3	問題点の最終確認と反復練習	全体の流れを確認する	420分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
適宜授業内に指示する。

テキスト

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。(教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技研究 1-2 (ピアノ)

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード: IND302

専門/学年: ピアノ専門/専攻科1年次

形態: 実技

単位数 2単位

概要 技術と感性を磨き、知識に裏付けられた表現を学ぶ。

到達目標 それぞれの作品に即した様式、音色、タッチを自ら探求し、より深い表現力を習得する。

授業計画 後期 15回、各人 60分の個人指導
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

回数	内容	事前	事後	時間
第1回	オーディションの曲 読譜の確認	楽語を調べ、意識して読譜をする	正しい読譜ができているか確認をする	420分
第2回	オーディションの曲 様式・形式	作曲時の時代背景を調べる	形式を考えて練習をする	420分
第3回	オーディションの曲 表現	表現方法を考えて練習をする	表現する上で最適なテンポを探り、練習をする	420分
第4回	オーディションの曲 仕上げ	作曲家の要求している音色を探り、練習をする	曲のキャラクターを考えて練習をする	420分
第5回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む1	技術面・表現面での自分の弱点や課題点を把握し、新たに取り組みたい曲を選ぶ	読譜と弾き込み	420分
第6回	自由曲 後期試験に向けて、技術面・表現面の向上のための課題に取り組む2	課題克服のための練習の仕方を考え、工夫する	自由曲の仕上げ	420分
第7回	後期試験曲 読譜の確認	後期試験曲の楽語を調べ、読譜をする	正しい読譜ができているか確認をする	420分
第8回	後期試験曲 形式・様式	曲の大きな流れや様式に合った表現を考え、練習をする	作曲家の時代背景を調べる	420分
第9回	後期試験曲 表現	アーティキュレーション、スラーなどの細部も確認して、練習をする	表現する上で最適なテンポを探す	420分
第10回	後期試験曲 和声感	和声機能の確認をして練習をする	和音の響きを意識して練習をする	420分
第11回	後期試験曲 強弱	強弱の確認をして練習をする	コントラストの付け方の研究をして練習をする	420分
第12回	後期試験曲 音色	作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	曲のキャラクターを考えて練習をする	420分
第13回	後期試験曲 細部の表現	音色・コントラストを考えて、練習をする	フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして練習をする	420分
第14回	後期試験曲 細部の音色	タッチの確認をして練習をする	色彩感のある音を出しているか確認をして、練習をする	420分
第15回	後期試験曲 仕上げ	和音の響きを聴いているか確認をして練習をする	声部それぞれが生きて立体的な演奏になっているか確認をして練習をする	420分

フィードバック オーディション・後期演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50点以上であること。定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
適宜授業内に指示する。

テキスト

オフィスアワー 教員のレッスン室で対応する。(教員レッスン日)

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技研究 I-1 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード: IND301

専門/学年: 器楽専門/専攻科1年次

形態: 実技

単位数 2単位

概要 この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標 専攻科1年前期の課題はバロック。演奏するパートのみを学ぶのではなく、バロック音楽の特徴でもある対位法と通奏低音も学ぶ。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。(この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある)

授業計画		以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。	
		・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。	
第1回	前期の学修計画を立てる	事前 短大時代の学修を確認し学修計画案を立てる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第4回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(装飾法を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(テクニクを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード バロック時代の楽曲を数曲学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420分 420分
第9回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(装飾法を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第13回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 前期試験曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する。	420分 420分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験60% 課題20% 授業態度20%

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技研究 I-2 (器楽)

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード: IND302

専門/学年: 器楽専門/専攻科1年次

形態: 実技

単位数 2単位

概要 この授業は学修の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。短大で学んだ基礎を元に、より高度な技術、表現方法を体得する。

到達目標 専攻科1年次後期の課題は古典時代。演奏するパートのみを学修するのではなく、多くの音楽的所産を生み出した古典派音楽の特徴を学ぶこと。試験前は数曲学修し、その中から一曲を選択し試験に臨むこと。(この内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある)

授業計画		以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の進度により適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな楽曲、また、より高度な楽曲に挑戦し、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。	
第1回	後期の学修計画を立てる	事前 前期の学修を確認し、後期の学修計画案を立てる 事後 学修計画を確認し、楽譜等今後必要な楽譜等準備をする	420分 420分
第2回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派時代の楽曲を数曲学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第3回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(音楽表現の方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第4回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第5回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第6回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第7回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第8回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 古典派音楽の楽曲を数曲学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。試験曲を決める	420分 420分
第9回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(時代背景を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第10回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第11回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第12回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(音楽表現を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第13回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(ピアノとの音程合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第14回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(ピアノとの表現合わせを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する。	420分 420分
第15回	音の研究、高度な音階練習、高度なエチュード 後期試験曲を学ぶ(仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、レッスン曲の読譜音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する。	420分 420分

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験評価が50点以上であること。定期試験60% 課題20% 授業態度20%

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室およびレッスン室(各実技担当教員レッスン日)

備考 1回あたりの時間数(事前・事後)は各実技担当教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門実技研究 I-1 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IND301

専門/学年: 声楽専門/専攻科1年次

形態: 実技

単位数 2単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 より高度な声楽的発声を習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。
個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。

授業計画 15回、週60分の個人指導。
実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンをする。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。

第1回	ガイダンス 各自の学習計画を立てる	事前 事後	これまでの学修を確認し学習計画を練る 学習計画を確認し、楽譜などの準備をする	90分 210分
第2回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習① 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	発声練習を重ね、次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の譜読みをする レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第3回	エチュード・歌曲 発声の基礎練習② 母音の純化、子音の明確化を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第4回	エチュード・歌曲 基礎的問題点の解決	事前 事後	次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第5回	歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる(歌詞の意味を調べる) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第6回	歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 事後	次回のレッスン予定の歌曲の練習を重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第7回	声域・カテゴリーの確立 オペラ・アリアやオラトリオ・ミサ曲等の宗教作品を中心に学習	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(言語のディクショに留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第8回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、前期試験の演奏曲目を選択する	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(言語のディクショに留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第9回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第10回	上記に基づき演奏の深化をはかる	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第11回	問題点の認識と解決をはかる	事前 事後	次回のレッスン予定の楽曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第12回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第13回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第14回	ピアノ伴奏とともに演奏の質を高める	事前 事後	伴奏合わせを重ねる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第15回	前期試験の予行演習をする	事前 事後	伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分

フィードバック 前期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次への課題を話し合う。

成績評価 前期演奏試験による成績 75%、授業への積極的な取組み 25%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

専門実技研究 I-2 (声楽)

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード: IND302

専門/学年: 声楽専門/専攻科1年次

形態: 実技 単位数 2 単位

概要 個人レッスンの形態で声楽の技術、音楽を学ぶ。
課題に対しての事前、事後の各自の学習が重要となる。

到達目標 より高度な声楽の発声習得する。演奏技術、表現力の向上を目指す。
個々の声のカテゴリーに合ったレパートリーの拡大をはかる。

授業計画		15回、週60分の個人指導。 実技演習においては、個々の学生の声の特性を見極め、それぞれの特性に即した題材を注意深く選択しレッスンを。また、上記を題材としての確な読譜力、解釈力、和声感、様式感を身につけさせる。	
第1回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期の学修を確認し学習計画を練る 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第2回	エチュード・歌曲 問題点の認識と解決	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第3回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究① 日本歌曲含む	事前 次回のレッスン予定のエチュード、歌曲の練習を重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第4回	異なる時代、異なる言語による作品の比較研究② オペラにおける声のカテゴリー確認	事前 自分の声に合うオペラのレパートリーを考える 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第5回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む① 言語、和声感、様式感を中心に	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第6回	アリア、あるいは歌曲 楽譜を読み込む② 表現の発展	事前 次回のレッスン予定のアリア、あるいは歌曲の練習を重ねる(言葉の意味を調べる) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第7回	各々の声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題楽曲を選択する 日本歌曲を含む	事前 課題曲の練習を重ねる(言葉のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第8回	選択した楽曲につき正確な読譜と詩の解釈を進める 日本歌曲を含む	事前 課題曲の練習を重ねる(言葉のディクッションに留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第9回	上記に基づき演奏の深化をはかる 日本歌曲を含む	事前 課題曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第10回	問題点の認識と解決をはかる 日本歌曲を含む	事前 課題曲の練習を重ねる(音楽的な表現に留意する) 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第11回	ピアノ伴奏を伴い楽曲の研究を深める 日本歌曲を含む	事前 事前にピアニストと伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第12回	ピアノ伴奏を伴い暗譜を確かなものとする 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第13回	暗譜の上、楽曲の演奏内容を深める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ねる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第14回	暗譜の上、演奏の完成度を高める 日本歌曲を含む	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分
第15回	後期試験の予行演習をする	事前 伴奏合わせを重ね、暗譜の確認、表現の確立をはかる 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善	210分 210分

フィードバック 後期試験後に個人面談の形で振り返り、成果や次へ課題を話し合う。

成績評価 学年末演奏試験による成績 75%、授業への積極的な取り組み 25%

テキスト 曲目は個々の状況に合わせて、適宜選択する。

オフィスアワー 授業後、各教員のレッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

合唱と指導 I-1

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：VEN301

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法を学ぶ。演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標	ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現法を学ぶことを目標とする。基本的な歌唱法を習得しながら合唱することの喜びを体感していく。
------	--

授業計画		
第1回	ガイダンス「声種分け」	事前 自分の声がどのパートが相応しいかを検討する 事後 選曲の意図を探る 40分
第2回	合唱の基礎トレーニング1「姿勢」「ストレッチ」を中心に	事前 合唱曲の譜読みをする 事後 授業内で指摘された部分を復唱する 50分
第3回	合唱の基礎トレーニング2「呼吸法」を中心に	事前 合唱曲の譜読みをする 事後 授業内で指摘された部分を復唱する 50分
第4回	合唱の基礎トレーニング3「合唱としての声づくり」	事前 発声練習、譜読みをする 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第5回	合唱の基礎トレーニング4「一声（ユニゾン）が基本（基礎）」	事前 音律の基本を知っておく 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第6回	合唱の基礎トレーニング5「一声（ユニゾン）が基本（応用）」	事前 声を揃えるとはどういう状態かをイメージする 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第7回	合唱の基礎トレーニング6「mハミングとnハミング」	事前 ハミングの仕組みを研究する 事後 口からの呼吸と鼻からの呼吸についておさらいする 50分
第8回	定期演奏会リハーサル「パートリーダーの重要性」	事前 パートリーダーの役割について考える 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第9回	定期演奏会リハーサル「ハンドサイン」	事前 ハンドサインとは何かを調べる 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第10回	定期演奏会リハーサル「音楽のイントネーション（基礎）」	事前 イントネーションのない状態をイメージする 事後 和音、指揮、リズム、それぞれのイントネーションを知る 50分
第11回	定期演奏会リハーサル「音楽のイントネーション（応用）」	事前 楽譜全体を見返す 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第12回	定期演奏会リハーサル「合唱指導のテクニック（基礎）」	事前 合唱指導とはどういうことかを考える 事後 選曲の意図を探る 50分
第13回	定期演奏会リハーサル「合唱指導のテクニック（応用）」	事前 合唱指導とはどういうことかを考える 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第14回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（基礎）」	事前 指揮者の重要性を考える 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分
第15回	定期演奏会リハーサル「合唱を指揮する（応用）」	事前 実際に指揮を試してみる 事後 授業内で指摘を受けた点の改善 50分

フィードバック リハーサル及び演奏会後コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価 60% 授業への積極的な取り組み 40%

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

合唱と指導 I-2

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：IND302

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：実技 単位数 1単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢、ストレッチ、呼吸法、発声法を学ぶ。演奏会に向けて実践練習を重ねる実習形式の講義である。

到達目標 ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し、様々な合唱様式や表現法を学ぶことを目標とする。基本的な歌唱法を習得しながら合唱することの喜びを体感していく。定期演奏会に向け様々な合唱様式や表現方法を学び、和声感、調声感を高めていく。

授業計画		事前	事後	40分
第1回	合唱曲を暗譜する	楽譜を見直す	音程、リズムに留意して暗譜をする	50分
第2回	曲を仕上げていく1 強弱、テンポの変化、休符の扱い	楽譜を確認しながら暗譜する	強弱、テンポの変化等に留意して暗譜する	50分
第3回	曲を仕上げていく2 ハーモニーを意識する	楽譜全体の確認	他声部を意識しながら暗譜練習を繰り返す	50分
第4回	曲を仕上げていく3 表現力を身につけ、音楽性を高めていく	楽譜全体の把握	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第5回	総合練習 隊列配置の基礎	ホールで演奏することをイメージする	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第6回	総合練習 隊列配置の重要性	ホールで演奏することをイメージする、暗譜をする	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第7回	ホールリハーサル1 総合練習	本番を想定する、暗譜の確認	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第8回	ホールリハーサル2 総合練習、隊列（移動）の確認	本番を想定する、暗譜の確認	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第9回	定期演奏会のリハーサル及び本番	楽譜を丁寧に再度確認をする	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第10回	定期演奏会の反省	演奏会を振り返る	選曲を考える	50分
第11回	選曲の重要性	演奏者視点の選曲の長所と短所を考える	聴き手視点の選曲の長所と短所を考える	50分
第12回	アンサンブル感覚を養う1	課題曲（アカペラ曲）の譜読み	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第13回	アンサンブル感覚を養う2	課題曲（アカペラ曲）の譜読み	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第14回	アンサンブル感覚を養う3	課題曲（アカペラ曲）の譜読み	授業で指摘を受けた点を改善していく	50分
第15回	合唱指導テクニック・指導者の重要性	指導者が重要である理由を考える	全体のバランスを見る	50分

フィードバック 実習形式のため、演奏前（後）教員の指導にて常に学修成果をフィードバックする機会を設ける。

成績評価 リハーサル及び演奏会の評価 60%、授業への積極的な取り組み 40%

テキスト 講義内に指示する。

オフィスアワー 講義の前後、または休憩時間に講義室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

日本音楽史概説-1

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LED301

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義 単位数 2単位

概要 日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史のなかに位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。明治初期から遡り、近世の多種多様な音楽文化がいかに現代の音楽文化を内包していたかを考察する。

到達目標 日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の進め方、評価の仕方、講義の目的の解説）。日本音楽史の特徴、時代区分の概説。参考文献紹介ほか。	事前 事後	シラバスを通覧し、疑問点を把握する。 図書館に行き、利用方法や紹介された参考文献の所在を一通り確認する。	30分 240分
第2回	ジャポニスム1：双方向の影響。「日本的なもの」の輸出。「輸出用文化」と現代の日本像。	事前 事後	提示された参考文献に目を通し質問の準備をする。 万博、美術、音楽それぞれの要点を掴み、講義で提示された音楽を鑑賞・分析する。	100分 170分
第3回	ジャポニスム2：日本文化の逆輸入。宮城道雄の創作。	事前 事後	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 講義の要点を踏まえ、自分なりに逆輸入された音楽文化を探す。	100分 170分
第4回	江戸文化と上野、浅草。悪所、娯楽、宗教の三角関係。	事前 事後	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 上野・浅草界隈の江戸文化を探し、実地調査を行う（グループワーク）。	100分 170分
第5回	江戸東京博物館見学調査。「音の史料を探す」。	事前 事後	「音の史料」の多様性について事前調査をし、種類をリストアップする。 調査結果をまとめ、レポートを作成する。	100分 170分
第6回	歌舞伎の歴史：舞台編。図書館にて博物館見学の補足調査（グループワーク）。	事前 事後	歌舞伎とはなにか、事典項目を通読しておく。 歌舞伎流行の時代背景を復習し、舞台、演出の工夫について調査する。	100分 170分
第7回	三味線伝来と歌舞伎音楽の歴史1：出囃子。博物館見学のグループ発表1。	事前 事後	歌舞伎音楽各種について試聴しておく。 多彩な舞台音楽のジャンルや役割について、視聴を通して理解を深める。	100分 170分
第8回	歌舞伎音楽の歴史2：下座（黒御簾）音楽。博物館見学のグループ発表2。	事前 事後	現代のさまざまな「効果音」について調べておく。 実地調査。宮本卯之助商店太鼓館で下座音楽の道具を調べる。	100分 170分
第9回	上演史と歌舞伎鑑賞（DVD）：舞踊と演劇。上演演目の地方差、文楽との関係、上演制度の変遷など。	事前 事後	歌舞伎研究の様々な視点を調べておく。 歌舞伎について学んだことを文章でまとめる。	100分 170分
第10回	寺子屋教育と能の小謡。庶民教育における音楽教育の重要性。	事前 事後	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。 江戸の音楽教育についての理解を踏まえ、現代の音楽科について考察する。	100分 170分
第11回	レポート執筆の仕方。なぜレポートを書くのか、何をどう書けばよいのか。	事前 事後	配布された資料を通読し、質問の準備をする。 学んだ調査法を駆使し、レポートのテーマを決め、執筆を進める。	100分 170分
第12回	文楽（人形浄瑠璃）の歴史：江戸の上方文化。近松門左衛門と竹本義太夫。	事前 事後	文楽とはなにか、事典項目を通読しておく。 文楽流行の時代背景を復習し、近松の代表的演目について調査する。	100分 170分
第13回	浄瑠璃の音楽と文楽鑑賞（DVD）	事前 事後	浄瑠璃各種を試聴しておく。 鑑賞した音楽を分析し、結果をまとめておく。	100分 170分
第14回	音楽芸能文化の場としての浅草寺界隈、吉原、寛永寺など。田村八太夫、楽器製作、寄席芸能、お座敷音楽、声明など。	事前 事後	配布された資料を通読し、掲載された資料について調べておく。 江戸の音楽文化の全体像を文章でまとめる。	100分 170分
第15回	まとめ。江戸の音楽文化の総括。商業文化のなかの音楽。町人の教養文化向上と音楽	事前 事後	レポート作成。 レポート指導を踏まえ、補筆修正する。	100分 170分

フィードバック 提出物の添削や質問への回答を通してフィードバックを行う。

成績評価 授業へ参加態度および課題への取り組み（毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の望ましいコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど）50%、期末レポート50%

テキスト 講義時に次回のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:50-14:20

備考 博物館見学および歌舞伎または文楽の鑑賞（歌舞伎座または国立劇場）をかならず行うため、公開・公演の事前確認を各自こまめに行うこと。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

日本音楽史概説-2

非常勤講師 櫻井利佳

科目コード：LEC302

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：講義 単位数 2単位

概要 日本に現存する様々な史料の検討を通じて日本音楽の歴史を文化史的ななか位置づけ、日本音楽史の文化的・音楽的特徴を理解する。西洋との共通性や差異を考え、双方を相対化しながら、日本の音の文化的嗜好性、音楽家の社会的立場、芸能の場と音づくりとの相関などの具体相を明らかにする。中世、古代、先史の音楽文化を知り、日本がいかにも音楽を重視する文化であったかを考察する。

到達目標 日本における音楽の場の豊かな歴史を十分に理解し、学習後の演奏・創作・鑑賞などの音楽生活に生かすことができる。各自が日本文化の担い手の一人としての自覚を持ち、将来の日本文化の在り方について考えを深める。講義を通じて調査力や言語による表現力を強化し、社会人としての活躍に際しての基礎力を自覚的に高める。

回	内容	事前	事後	時間
第1回	ガイダンス (授業の進め方、評価の仕方、講義の目的の解説)。日本音楽史の特徴、時代区分の概説。参考文献紹介ほか。	シラバスを通覧し、疑問点を把握する。	図書館に行き、紹介された参考文献の所在を一通り確認する。	30分 240分
第2回	中世 能楽1：能楽の変遷。	提示された参考文献に目を通し質問の準備をする。	能楽史の要点を掴み、講義で提示された音楽作品を鑑賞・分析する。	100分 170分
第3回	中世 能楽2：世阿弥の革新と能楽論。	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	世阿弥の著作を読み、自分なりに文化史的意義を考察する。	100分 170分
第4回	中世 能楽3：能の音楽、狂言。鑑賞 (DVD)	配布されたテキストを通覧し、掲載された資料について調べておく。	能・狂言と現代の芸能との関係話し合う (グループワーク)。	100分 170分
第5回	東京国立博物館見学調査 (総合文化展、東洋館、法隆寺館)。「音の史料を探す」。	「音の史料」の多様性について事前調査をし、種類をリストアップする。	調査結果をまとめ、レポートを作成する。	100分 170分
第6回	宗教音楽。声明。図書館にて博物館見学の補足調査 (グループワーク)。	宗教音楽と寺、神社について事典を利用し、基本的事項を理解しておく。	時代背景や芸能における寺社の役割を復習し、さまざまな中世芸能について調査する。	100分 170分
第7回	中世 講式と琵琶法師。博物館見学のグループ発表1。	声明・講式、琵琶法師について事前調査しておく。	声明から派生した語り物芸能について、視聴を通して理解を深める。	100分 170分
第8回	中世 平家物語1：博物館見学のグループ発表2。	『平家物語』について事典項目を読み、基本的事項を理解しておく。	さまざまな琵琶曲について視聴する。	100分 170分
第9回	中世 平家物語2：楽譜と伝承。鑑賞 (DVD)。	「宇治川」を読み、語彙を調べておく。	平家語りの特徴を文章でまとめる。	100分 170分
第10回	中古 宮廷の音楽1：舞楽、『源氏物語』を通して知る。	配布されたテキストを通覧し、平安時代の文化について理解しておく。	舞楽の基礎についての講義を踏まえ、多様な演目について調査する。	100分 170分
第11回	レポート執筆の仕方。レポートの基本ルールの徹底。引用と参考文献。索引、剽窃について。	配布された資料を通読し、質問の準備をする。	学んだ調査法を駆使し、レポートのテーマを決め、執筆を進める。	100分 170分
第12回	中古 宮廷の音楽2：御遊。『うつほ物語』を通して知る。	配布された資料を通読し、質問の準備をする。	御遊の意義と時代背景を復習し、楽器編成について調査する。	100分 170分
第13回	先史・上代の音楽：記紀神話、記紀歌謡と考古学。	配布された資料を通読し、語彙を調べておく。	講義で扱った考古学史料に基づき、先史日本の音楽の在りようを文章でまとめる。	100分 170分
第14回	上代の音楽：奈良時代の音楽輸入。遣唐使と正倉院。	配布された資料を通読し、掲載された資料について調べておく。	唐の楽を将来した意義、国際化社会と音楽との関係について文章でまとめる。	100分 170分
第15回	まとめ。日本の音楽文化の総括。	レポート作成。	レポート指導を踏まえ、補筆修正する。	100分 170分

フィードバック 提出物の添削や質問への回答を通してフィードバックを行う。

成績評価 授業へ参加態度および課題への取り組み (毎時の復習クイズ、講義内の質疑応答、講義内の口頭発表、受講生同士の適切なコミュニケーション、小レポートや調査への取り組みなど) 50%、期末レポート 50%

テキスト 講義時に次回のプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:50-14:20

備考 博物館見学および鑑賞をかならず行うため、公開・公演情報をこまめに確認すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	プレゼンテーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

音楽教育方法論-1

教授 内田有一／講師 林直美

科目コード：LEC303

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義（アウトリーチを含む）

単位数 2単位

概要	オルフ、ダルクローズ、コダーイ、コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップ、鈴木メソッドなど、世界の音楽教育メソッドを比較し、それぞれの原理を理解する。学生自身が関心のある分野（ピアノ、合唱、吹奏楽等）の教育方法（メソッド）に関する情報を収集し、批判的な検討を通して実践に活用できることを目指すアクティブラーニングを展開する。
到達目標	完成された教育方法は存在しないことを理解し、様々な音楽教育の方法における原理を活用して、社会において音楽教育に関わる際、学習者に合わせて教育方法を創出していく能力を獲得する。

授業計画

第1回	イントロダクションー世界の特色ある音楽教育ー（林）	事前 事後	これまでの学修から世界の特色ある音楽教育法について調べておく。 興味・関心を持った音楽教育法について資料を集める。	60分 100分
第2回	オルフシステムの音楽教育（林）	事前 事後	オルフシステムの資料を読む。 オルフの音楽的発達の原因についてまとめる。	100分 100分
第3回	ダルクローズのリトミック（林）	事前 事後	リトミックの資料を読む。 身体と内的聴覚についてまとめる。	100分 100分
第4回	コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップ（林）	事前 事後	コンプリヘンシヴ・ミュージシャンシップの資料を読む。 現代化をキーワードに考えをまとめる。	100分 100分
第5回	鈴木メソッド（林）	事前 事後	鈴木メソッドの資料を読む。 聴覚的把握の原理についてまとめる。	100分 100分
第6回	コダーイ・メソッド（林）	事前 事後	コダーイ・メソッドの資料を読む。 ソルフェージュ教育の充実に必要なことについてまとめる。	100分 100分
第7回	コンセプチュアル・ラーニング（概念学習）の定義と背景（林）	事前 事後	コンセプチュアル・ラーニングの資料を読む。 実際の授業との関連について考察する。	100分 100分
第8回	サウンド・エデュケーションの特徴と意義（林）	事前 事後	サウンド・エデュケーションの資料を読む。 それぞれの教育方法に関する疑問点や問題点に着目して、これまでの学習を総括する。	120分 150分
第9回	大村典子のピアノ教育を検討する(内田)	事前 事後	大村典子に関する資料を読む。 生きがいのためのピアノ教育方法について考察する。	110分 160分
第10回	学生の発表に基づく対話型の学習～ピアノ教育方法について バイエル、ハノン(内田)	事前 事後	発表の準備をする。 技術に関する自己の考えについてまとめる。	110分 160分
第11回	学生の発表に基づく対話型の学習～ピアノ教育方法について ブルグミュラー、チェルニー(内田)	事前 事後	発表の準備をする。 エチュードの目的を考察する。	110分 160分
第12回	学生の発表に基づく対話型の学習～声楽の教育方法について コンコーネ（内田）	事前 事後	発表の準備をする。 エチュードの目的を考察する。	110分 160分
第13回	学生の発表に基づく対話型の学習～合唱の教育方法について（内田）	事前 事後	発表の準備をする。 個が生きる教育方法について考察する。	110分 160分
第14回	学生の発表に基づく対話型の学習～器楽の教育方法について(内田)	事前 事後	発表の準備をする。 技術と音楽表現の関わりについて考察する。	110分 160分
第15回	学生の発表に基づく対話型の学習～アンサンブルの教育方法について(内田)	事前 事後	発表の準備をする。 自己有用感を獲得するアンサンブルの指導法についてまとめる。	110分 160分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 別途示されている時間帯に行うが、学生の希望により時間帯調整が可能である。その際は事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経歴・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

音楽教育方法論-2

教授 内田有一／講師 林直美

科目コード：LEC304

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義（アウトリーチを含む）

単位数 2単位

概要 教育方法は教育の歴史の中でどのような意味をもって生成されたか考察する。原理を理解する。社会教育における音楽指導者としてのキャリア形成に向けて、模擬指導によるピアレビューを通して実践的指導能力の獲得を目指す。

到達目標 音楽教育方法論-1の発展として、実践的指導能力の獲得と、その理論的な理解ができる。

授業計画

第1回	音楽教育における評価①自己調整学習の視点から（内田）	事前 自己調整に関する資料を読む。 事後 メタ認知についてまとめる。	110分 160分
第2回	音楽教育における評価②アート思考の視点から（内田）	事前 アート思考に関する資料を読む。 事後 表現の意図を創出する教育方法について考察する。	110分 160分
第3回	音楽教育の方法と実践化の課題（内田）	事前 振り返りをもとに発表内容を考える。 事後 実践化の課題をレポートにまとめる。	110分 160分
第4回	模擬指導と分析①AL 個人指導における演奏技術と表現の指導方法(内田)	事前 「認知とパフォーマンス」(波多野直夫) から表現の構想についての部分を読む。 事後 演奏技術と表現に関して考察する。	110分 160分
第5回	模擬指導と分析②AL 個人指導における演奏解釈の指導方法(内田)	事前 「齋藤秀雄の講義録」から演奏解釈の部分を読む。 事後 学習者が主体的に解釈することについてまとめる。	110分 160分
第6回	模擬指導と分析③AL 教育的タクトの視点から教育技術に関する検討（内田）	事前 教育的タクトに関する資料を読む。 事後 教育的タクトの概念と具体を考察する	110分 160分
第7回	模擬指導と分析④AL アンサンブルにおける合わせる技術の指導(内田)	事前 合わせる技術について、自己の経験から問題点を考える。 事後 主体的に合わせる技術について考察する。	110分 160分
第8回	模擬指導と分析⑤AL アンサンブルにおける演奏解釈の指導(内田)	事前 選択した楽曲の分析をする。 事後 主体的な演奏解釈について考察する。	110分 160分
第9回	指導方法と歴史について(林)	事前 これまで学んだ音楽史と教育学の資料を用意しておく。 事後 興味・関心を持った時代や事項ならびに人物について調べる。	60分 100分
第10回	リベラル・アーツの広まり—数学教育としての音楽(林)	事前 音楽史の資料などを使用して古代の音楽について学んだことを整理する。 事後 現代の音楽教育との関連について考察する。	100分 100分
第11回	中世大学での音楽教育—自由七科に着目して(林)	事前 音楽史の資料などを使用して中世の音楽について学んだことを整理する。 事後 現代の音楽教育との関連について考察する。	100分 100分
第12回	近代教育学と音楽(林)	事前 教育学の資料などを使用してルソーとフレールについて学んだことを整理する。 事後 現代の音楽教育との関連について考察する。	100分 100分
第13回	日本における西洋音楽の導入—伊澤修二・メーソン・瓜生繁(林)	事前 これまで学んだ教育学の資料を使用して明治期に関するところを読み直しておく。 事後 それぞれの人物から学んだことをまとめる。	100分 100分
第14回	新教育と音楽(林)	事前 これまで学んだ教育学の資料を使用して新教育に関するところを読み直しておく。 事後 現代の音楽教育との相違点について考察する。	100分 100分
第15回	音楽教育によって身につくスキル(林)	事前 音楽を学ぶことによって身につく力（スキル）について意見をまとめておく。 事後 これまで学んだことを活用して授業内で提示された最終課題に取り組む。	100分 150分

フィードバック レフレクションペーパーにてフィードバックを継続的に行う。

成績評価 リフレクションペーパー40%、レポート60%

テキスト 授業の際に資料を配布する。

オフィスアワー 別途示されている時間帯に行うが、学生の希望により時間帯調整が可能である。その際は事前にメールにて相談のこと。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									

ピアノアンサンブル研究 I-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN301

専門/学年： ピアノ専門/専攻科1年次

形態：実技

単位数 1単位

概要 モーツァルト・シューベルトの連弾曲のテンポ感、ニュアンス、表現について学ぶ。

到達目標 連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。

授業計画

前期 15 回、各人 30 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。

回数	内容	事前	事後	140分
第1回	ガイダンス 1年間の学習計画を立てる	これまでに勉強したアンサンブルの曲を書き出す	1年間の目標を設定し勉強方針を立てる	140分
第2回	モーツァルトの連弾曲 テンポ感	KV381 ソナタ ニ長調の読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140分
第3回	モーツァルトの連弾曲 様式	KV358 ソナタ 変ロ長調の読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140分
第4回	モーツァルトの連弾曲 表現	KV401 フーガ ト短調の読譜をする	表現方法を考えて練習をする	140分
第5回	モーツァルトの連弾曲 ニュアンス	KV497 ソナタ ヘ長調の読譜をする	モーツァルトの要求しているニュアンスを調べて練習する	140分
第6回	モーツァルトの連弾曲 響き	KV357 アレグロ ト長調の読譜をする	響きを感じとる練習をする	140分
第7回	モーツァルトの連弾曲 バランス	KV501 アンダンテと変奏曲 ト長調の読譜をする	全体のバランスを調べて練習をする	140分
第8回	モーツァルトの連弾曲 まとめ	KV521 ソナタ ハ長調の読譜をする	作品のイメージを感じとる練習をする	140分
第9回	シューベルトの連弾曲 テンポ感	シューベルトの連弾曲ボロネーズより1曲を選び読譜をする	ボロネーズのリズムを感じとる練習をする	140分
第10回	シューベルトの連弾曲 様式	シューベルトの連弾曲ソナタより1曲を選び読譜をする	作曲時の時代背景を調べる	140分
第11回	シューベルトの連弾曲 表現	幻想曲 ヘ長調 Op.103 の読譜をする	表現方法を調べて練習をする	140分
第12回	シューベルトの連弾曲 ニュアンス	変奏曲より1曲を選び読譜をする	作曲家の要求しているニュアンスを調べて練習をする	140分
第13回	シューベルトの連弾曲 響き	行進曲より1曲を選び読譜をする	音の響き、和声感を感じとる練習をする	140分
第14回	シューベルトの連弾曲 バランス	アレグロ イ短調 Op.144 の読譜をする	バランスを調べ、聴きとり、すぐ反応できる練習をする	140分
第15回	シューベルトの連弾曲 まとめ	ロンド イ長調 Op.107 の読譜をする	作品のイメージを感じとる練習をする	140分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ピアノアンサンブル研究 I-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PEN302

専門/学年： ピアノ専門/専攻科 1年次

形態：実技	単位数 1単位
概要	フランス作品に取り組み、パートナーとの呼吸、音色、フレーズ感の合わせ方を更に学ぶ。連弾曲のレパートリーを研究し、様々な様式の連弾曲に取り組む。

到達目標	連弾曲を様々な角度から掘り下げ、内容の濃い演奏を目指す。
------	------------------------------

授業計画 後期 15 回、各人 30 分の個人指導。
実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。レパートリーは、必要に応じて変更することがある。

回数	内容	事前	事後	時間
第 1 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 テンポ感	ドビュッシー『小組曲』またはフォーレ『ドリー』から 1 曲選び、読譜する	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 2 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 音色	タッチと音色について、自分のイメージを明確にする	パートナーと合わせをし、タッチや音色について、確認する	140 分
第 3 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 フレーズ感	取り組む作曲家の他の楽器編成の作品（オーケストラや弦楽・器楽作品）を聴く	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 4 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 ニュアンス、ペダルの使い方	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 5 回	ドビュッシー、フォーレの連弾曲 バランス	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分
第 6 回	連弾 自由曲① テンポ感	連弾曲のレパートリーを調べ、勉強する曲を選ぶ	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 7 回	連弾 自由曲① 様式・形式	形式を考えて、練習をする	パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分
第 8 回	連弾 自由曲① 表現	表現方法を考えて練習をする	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 9 回	連弾 自由曲① ニュアンス	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 10 回	連弾 自由曲① バランス	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分
第 11 回	連弾 自由曲② テンポ感	勉強する曲を選び、読譜を進める	曲の時代背景と作曲家について調べる	140 分
第 12 回	連弾 自由曲② 様式・形式	形式を考えて、練習をする	パートナーと合わせをし、曲の構成と様式について話し合う	140 分
第 13 回	連弾 自由曲② 表現	表現方法を考えて練習をする	パートナーと合わせをし、呼吸やフレーズ感を合わせる練習をする	140 分
第 14 回	連弾 自由曲② ニュアンス	強弱や細かいニュアンスに気を付けて、練習をする	パートナーと合わせをし、強弱やニュアンスを生かすペダリングを練習する	140 分
第 15 回	連弾 自由曲② バランス	全体の流れとバランスを意識して、練習をする	パートナーと合わせをし、お互いの響きを聴きながら 2 人で 1 つの音楽を作る	140 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価をする。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

応用ピアノ伴奏法演習-1

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PLE301

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：演習

単位数 1単位

概要 声楽曲と器楽曲の楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。呼吸法、フレージング、音色、ペダルの使用法についても研究する。

到達目標 ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画

第1回	伴奏とは 1年間の学習計画を立てる	事前 事後	これまでの伴奏の経験を振り返り、伴奏の役割について考える バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第1楽章のソリストと伴奏の関係を考える	140分 140分
第2回	器楽曲の伴奏 様式	事前 事後	バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第1、2楽章を読譜する 第2楽章の様式を確認する	140分 140分
第3回	器楽曲の伴奏 ポリフォニー	事前 事後	バッハのヴァイオリンソナタ ロ短調 第3楽章を読譜する ポリフォニーをよく聴き、練習をする	140分 140分
第4回	山田耕作の作品『かやの木山の』 伴奏の役割について考える	事前 事後	歌詞を読み、読譜する 実際にソリストのパートを歌い、伴奏の必要性を考える	140分 140分
第5回	木下牧子の作品『竹とんぼに』 アンサンブルを考える	事前 事後	歌詞を読み、読譜する 伴奏の音色について考える	140分 140分
第6回	スカルラッチェの歌曲の伴奏『陽はすでにガンジス川から』 イタリア語のリズムを感じる	事前 事後	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する イタリア語のリズム、ブレスの合わせ方について考える	140分 140分
第7回	シューベルトの歌曲『音楽を寄せて』 伴奏の低音部との二重唱	事前 事後	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する ペダルの使い方を考える	140分 140分
第8回	シューベルトの歌曲『菩提樹』 情景の細かい表現について	事前 事後	歌曲「冬の旅」について調べ、読譜する 歌詞と音楽の関係について考える	140分 140分
第9回	モーツァルト（フィガロの結婚）より『恋とはどんなものかしら』 オーケストラの音を表現する	事前 事後	フィガロの結婚について調べ、読譜する ピッツィカートとレガートを同時に表現する	140分 140分
第10回	トステイの歌曲の伴奏『理想の人』 和声感	事前 事後	歌詞を読んで内容を理解し、読譜する 和声を感じ、曲の流れの作り方を意識する	140分 140分
第11回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前 事後	読譜をする ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	140分 140分
第12回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前 事後	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする ソロの音楽表現に合わせてられる様に練習をする	140分 140分
第13回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前 事後	ソロの音色を感じとれる様に練習をする ソロの音色に合わせてられる様に練習をする	140分 140分
第14回	学内演奏会の曲の伴奏 ブレスについて	事前 事後	自分で実際に歌い、歌詞のリズムとブレスを確認する 流れを失わずに自然なブレスの間に取れるように練習をする	140分 140分
第15回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前 事後	ソロの人と曲の内容を確認する ピアノのふたの開閉状態を考える	140分 140分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

応用ピアノ伴奏法演習-2

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：PLE302

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：演習

単位数 1単位

概要 声楽曲と器楽曲の様々な楽曲を幅広く扱い、伴奏の様々な役割について見ていく。読譜、初見、奏法についても、さらなる向上を図る。

到達目標 ピアノの可能性を最大限に生かし、高度なアンサンブル能力を身につけることを目標とする。

授業計画

第1回	オーディションの器楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前 伴奏部の読譜の確認をする 事後 ソロ楽器の特性を考える	140分 140分
第2回	オーディションの器楽曲の伴奏 仕上げ	事前 音量やペダリングにも気を配り、アンサンブルを考える 事後 ピアノのふたの開閉状態を考える	140分 140分
第3回	オーディションの声楽曲の伴奏 バランス、表現、音色について	事前 伴奏部の読譜の確認をする 事後 歌詞の内容の確認をする	140分 140分
第4回	オーディションの声楽曲の伴奏 仕上げ	事前 ソロの人と曲の内容を確認する 事後 広い空間での演奏を想定し、ソロの人との音のバランスをイメージする	140分 140分
第5回	自由曲①	事前 声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する 事後 ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える	140分 140分
第6回	自由曲②	事前 声楽曲、器楽曲、合唱曲の中から勉強したい曲を選び、読譜する 事後 ソロパートと伴奏との関わりと役割について考える	140分 140分
第7回	合唱曲の伴奏（三善晃の作品） 合唱曲でのピアノの役割を考える	事前 作曲家の時代背景を調べる 事後 ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える	140分 140分
第8回	合唱曲の伴奏（新実徳英の作品） 伴奏の響きを聴く	事前 法人作曲家の合唱曲の流れを調べる 事後 三善晃の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる	140分 140分
第9回	合唱曲の伴奏 まとめ	事前 木下牧子の作品について調べる 事後 混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える	140分 140分
第10回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 バランスについて	事前 楽語を含め、読譜の確認をする 事後 作曲家の時代背景を調べる	140分 140分
第11回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 表現について	事前 ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする 事後 ソロと表現方法が同じであるか確認をする	140分 140分
第12回	演奏試験曲の伴奏 器楽曲 音色について	事前 ソロの音色を感じとれる様に練習をする 事後 ソロの音色に合わせられる様に練習をする	140分 140分
第13回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 バランスについて	事前 楽語を含め、読譜の確認をする 事後 ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える	140分 140分
第14回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 表現について	事前 歌詞の内容を調べる 事後 ピアノが表現する情景や情感を考える	140分 140分
第15回	演奏試験曲の伴奏 声楽曲 音色について	事前 作曲家が要求している音色を考える 事後 情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする	140分 140分

フィードバック 授業内での課題の演奏、および演奏試験での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業への取り組み方、および授業態度による。課題 50%、授業態度 50%

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィスアワー 各自で、上記の楽譜を用意する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

器楽アンサンブル研究 I-1

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN301

専門/学年： 器楽専門/専攻科1 年次

形態：実技

単位数 2 単位

概要 短期大学の器楽合奏で習得した合奏能力を生かして可能な限り多くのジャンルとレパートリーに取り組み、実践的なテクニックを身に
着け、高度な演奏技術、綿密なアンサンブルを目指す。

到達目標 バロックから現代音楽までのアンサンブルを学ぶ。
授業終了後、発表会を実施しステージマナーなども学ぶことを目標とする。

授業計画 履修学生は授業内容に沿った個人練習と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽づくりや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。

第1回	学習計画を立てる	事前 短大2年間の器楽合奏の学習を確認し学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105分 105分
第2回	バロック時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第3回	バロック時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第4回	バロック時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第5回	バロック時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、発表に向けて練習する	105分 105分
第6回	バロック時代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第7回	古典時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第8回	古典時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第9回	古典時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第10回	古典時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、発表に向けて練習する	105分 105分
第11回	古典時代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105分 105分
第12回	ロマン派時代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第13回	ロマン派時代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第14回	ロマン派時代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第15回	ロマン派時代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、発表会に向けて練習する	105分 105分

フィードバック 発表会後に教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表会 40% 課題 40% 授業態度 20%

テキスト 各教員から指示がある。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働性	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

器楽アンサンブル研究 I-2

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN302

専門/学年： 器楽専門/専攻科1年次

形態：実技

単位数 2単位

概要 短期大学の器楽合奏で習得した合奏能力を生かして可能な限り多くのジャンルとレパートリーに取り組み、実践的なテクニックを身に着け、高度な演奏技術、綿密なアンサンブルを目指す。

到達目標 バロックから現代音楽までのアンサンブルを学ぶ。
授業終了後、発表会を実施しステージマナーなども学ぶことを目標とする。

授業計画 履修学生は授業内容に沿った個人練習と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽づくりや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組むこと。

第1回	学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105分 105分
第2回	近代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第3回	近代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第4回	近代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第5回	近代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第6回	近代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105分 105分
第7回	現代のアンサンブル (楽譜の読み取り方を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第8回	現代のアンサンブル (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第9回	現代のアンサンブル (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第10回	現代のアンサンブル (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第11回	現代のアンサンブル (発表)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	105分 105分
第12回	修了コンサートに向けて (テクニックを中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第13回	修了コンサートに向けて (スタイルの研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第14回	修了コンサートに向けて (表現の研究を中心に)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第15回	修了コンサートに向けて (仕上げ)	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、修了コンサートに向けて練習する	105分 105分

フィードバック 発表会後に教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表会 40% 課題 40% 授業態度 20%

テキスト 授業内で指示がある。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働性	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

器楽特殊研究

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： ILE301

専門／学年： 器楽専門／専攻科 1 年次

形態： 演習

単位数 1 単位

概要 短期大学部 2 年間ではバロック、古典、ロマン、近代を中心に学んだが、専攻科では特に現代曲について追求する。「現代音楽」は現代のすべての音楽ではなく、ある特定の音楽のことを示す。現代音楽の奏法、演奏法を習得する。

到達目標 現代音楽を演奏するためには特殊な技術を習得する必要がある。この器楽特殊研究では特殊技術を習得し作品を研究することを目標とする。

授業計画 専門により内容・進度が異なる場合もある。

第 1 回	オリエンテーション 現代音楽についての概要	事前	現代音楽とは何か調べる	140 分
		事後	いつの時代から現代音楽なのか歴史を調べる	140 分
第 2 回	ハーモニクス① 演奏方法を学ぶ	事前	ハーモニクスとは何かを調べる	140 分
		事後	ハーモニクスの練習をする	140 分
第 3 回	ハーモニクス② 楽曲で演奏してみる	事前	ハーモニクスの楽曲を仕上げる	140 分
		事後	ハーモニクスをまとめる	140 分
第 4 回	フラッター奏法① 演奏方法を学ぶ	事前	フラッター奏法とは何かを調べる	140 分
		事後	フラッター奏法の練習をする	140 分
第 5 回	フラッター奏法② 楽曲で演奏してみる	事前	フラッター奏法の楽曲を仕上げる	140 分
		事後	フラッター奏法をまとめる	140 分
第 6 回	ヴォイス① 演奏方法を学ぶ	事前	ヴォイスとは何かを調べる	140 分
		事後	ヴォイスの練習をする	140 分
第 7 回	ヴォイス② 楽曲で演奏してみる	事前	ヴォイスの楽曲を仕上げる	140 分
		事後	ヴォイスをまとめる	140 分
第 8 回	重音① 演奏方法を学ぶ	事前	重音とは何かを調べる	140 分
		事後	重音の練習をする	140 分
第 9 回	重音② 楽曲で演奏してみる	事前	重音の楽曲を仕上げる	140 分
		事後	重音をまとめる	140 分
第 10 回	ホイッスルトーン① 演奏方法を学ぶ	事前	ホイッスルトーンとは何かを調べる	140 分
		事後	ホイッスルトーンの練習をする	140 分
第 11 回	ホイッスルトーン② 楽曲で演奏してみる	事前	ホイッスルトーンの楽曲を仕上げる	140 分
		事後	ホイッスルトーンをまとめる	140 分
第 12 回	キークラップ① 演奏方法を学ぶ	事前	キークラップとは何かを調べる	140 分
		事後	キークラップの練習をする	140 分
第 13 回	キークラップ② 楽曲で演奏してみる	事前	キークラップの楽曲を仕上げる	140 分
		事後	キークラップをまとめる	140 分
第 14 回	その他の現代奏法 演奏方法を学ぶ、楽曲で演奏してみる	事前	他の現代奏法を探す	140 分
		事後	他の現代奏法をまとめる	140 分
第 15 回	まとめ 現代奏法が必要な理由	事前	今まで学んだ全ての現代奏法を復習する	140 分
		事後	今後、現代奏法を使用する場面を考える	140 分

フィードバック 各現代奏法の楽曲演奏について常にフィードバックされる。

成績評価 楽曲演奏 25%、取り組み 50%、レッスン態度 25%

テキスト 教員の指示による。

オフィスアワー 授業前後、教員のレッスン室で実施
メールで予約も可能

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

副科実技（ピアノ）

ピアノ主任 講師 倉地恵子

科目コード：IND303

専門／学年： 器楽・声楽専門／専攻科1年次

形態：実技

単位数 2単位

概要 ピアノ演奏に必要な技術を高め、曲の様式に合った音色と表現を追求する。

到達目標 音楽への理解をより深めて、各自の専門領域で生かすことを目標とする。

授業計画 隔週 20分のグループ指導

第1回	1年間の学習計画を立てる	事前	これまで学んできたレパートリーをまとめ、今後取り組みたい曲を選ぶ	105分
		事後	1年間の目標を設定し、そのための課題と勉強方針を明確にする	105分
第2回	基礎テクニックの確認 脱力、アーティキュレーションを中心に	事前	レガート、スタッカート奏法、脱力について考え、ハノンの練習をする	105分
		事後	手首の力の抜き方を確認し、スケールとアルペジオの練習をする	105分
第3回	バロック・古典の曲に取り組む 読譜の確認	事前	作品を決め読譜をし、楽語を調べる	105分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105分
第4回	バロック・古典の曲に取り組む 形式・様式	事前	曲が作曲された時代、作曲家について調べる	105分
		事後	曲の構成を分析する	105分
第5回	バロック・古典の曲に取り組む 和声感	事前	和声機能を確認して、練習する	105分
		事後	曲に合ったテンポを探求し、仕上げる	105分
第6回	自由曲 読譜の確認	事前	読譜をし、楽語を調べる	105分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105分
第7回	自由曲 アーティキュレーション、音色	事前	楽譜から作曲家の意図を読取り、アーティキュレーションなどの細部を見る	105分
		事後	フレーズ感をもって演奏しているか確認をして、練習する	105分
第8回	自由曲 強弱	事前	強弱の確認をして、練習をする	105分
		事後	コントラストの付け方を考える	105分
第9回	ペダリングの確認 踏みタイミングと、効果的な使い方について	事前	打鍵とペダルの関係について、確認する	105分
		事後	音をよく聴き、ペダルを踏みかえる練習をする	105分
第10回	演奏試験曲 読譜の確認	事前	読譜をし、楽語を調べる	105分
		事後	正しい読譜ができているか確認をする	105分
第11回	演奏試験曲 形式・様式	事前	曲が作曲された背景を調べる	105分
		事後	曲の構成を分析する	105分
第12回	演奏試験曲 表現	事前	表現方法を考えて、練習をする	105分
		事後	表現する上で最適なテンポを探す	105分
第13回	演奏試験曲 和声感	事前	和声機能の確認をして、練習をする	105分
		事後	暗譜しながら、曲の内容を意識する	105分
第14回	演奏試験曲 テンポ感	事前	最終的なテンポを設定する	105分
		事後	暗譜を確実にし、弾き込む	105分
第15回	演奏試験曲 仕上げ	事前	曲のイメージを明確に持ち、弾き込む	105分
		事後	曲の完成度を高める	105分

フィードバック 実技演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする

成績評価 実技演奏試験による。定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）が行う。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

声楽アンサンブル研究 I

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN303

専門/学年： 声楽専門/専攻科1年次

形態：実技

単位数 1単位

概要 オペラの重唱曲を取り上げ、オペラを歌うのに必要な演技を学び、演技付きのオペラ重唱曲を実践する。

到達目標 オペラの重唱曲を通じ、オペラに必要な歌唱法、又舞台での自然な動きを身につける。

授業計画

第1回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の二重唱のパート決めと音楽稽古①	事前 モーツァルトのオペラ 事後 課題の二重唱を復習し、原語の意味を調べる	130分 140分
第2回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の二重唱の音楽稽古②	事前 課題の二重唱の音楽練習とオペラの文献を調べ理解を深める 事後 課題のオペラの作品を鑑賞する。又、重唱曲の復習	130分 140分
第3回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の音楽稽古③	事前 課題の二重唱の音楽練習 事後 課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、演技の違いや歌い方など研究する	130分 140分
第4回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の音楽稽古④	事前 課題の二重唱の音楽練習 事後 課題のオペラの別の演出の作品を鑑賞し、より深く歌唱法、演技を研究する。	130分 140分
第5回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の荒立ち①	事前 課題の二重唱の音楽練習 事後 課題のオペラの演技の復習し、動き方を研究する	130分 140分
第6回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の荒立ち②	事前 課題の二重唱の音楽練習と演技練習 事後 授業の復習と演技付き歌唱練習を練習する	130分 140分
第7回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱稽古①	事前 演技付き歌唱練習 事後 演技付き歌唱の復習	130分 140分
第8回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱稽古②	事前 演技付き歌唱練習 事後 演技付き歌唱の復習	130分 140分
第9回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱稽古③	事前 演技付き歌唱練習 事後 他者とお互いに協力しながら演技練習をする	130分 140分
第10回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱稽古④	事前 演技付き歌唱練習 事後 他者とお互いに協力しながら演技練習をする	130分 140分
第11回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱稽古⑤	事前 演技付き歌唱練習 事後 他者とお互いに協力しながらより深く演技を研究する	130分 140分
第12回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の演技付き歌唱仕上げ	事前 演技付き歌唱練習 事後 他者とお互いに協力しながら自然に演技が出来る様、繰り返し練習する	130分 140分
第13回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の総まとめ①	事前 演技付き歌唱練習 事後 試演会に向けて演技付き重唱曲の復習	130分 140分
第14回	オペラ『ロジ ファン トウッテ』、『ヘンゼルとグレーテル』の総まとめ②	事前 試演会に向けて演技付き重唱曲の練習 事後 試演会に向けて演技付き重唱曲の復習	130分 140分
第15回	試演会	事前 試演会に向けて重唱曲の練習 事後 総まとめ	130分 140分

フィードバック 試演会后、お互いの演奏にディスカッションする。

成績評価 試演会の演奏 70%、授業の態度 30%
総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>								

重唱 I

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：VEN304

専門/学年： 声楽専門/専攻科1年次

形態：実技

単位数 1単位

概要 W.A.モーツァルト及び周辺の作曲家のオペラ重唱曲を題材とし、アンサンブル能力の向上を目指す。

到達目標 それぞれの作品の特徴に触れ、様式、音楽的構造、詩の内容も踏まえ、演奏技術を高め豊かな表現力を養うことを目標とする。

授業計画

第1回	ガイダンス 学習計画を立てる	事前 楽譜を準備する 事後 履修計画を確認し、読譜を進める	140分 140分
第2回	W.A.モーツァルトのオペラ作品より 重唱曲①、② 読譜、発音を中心に	事前 モーツァルトの作品について調べる 事後 重唱曲①及び②音程、音階、リズム等に気を付けて読譜練習する	140分 140分
第3回	重唱曲①、② 読譜 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲①及び②詩の内容を調べる 事後 重唱曲①及び②詩の内容を考えながら練習する	140分 140分
第4回	重唱曲①、② 表現の発展	事前 重唱曲①及び②テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲①及び②歌唱法、表現法の研究	140分 140分
第5回	重唱曲③、④ 読譜、発音を中心に	事前 重唱曲③、④の単語の意味、詩の内容を調べる 事後 重唱曲③、④詩の内容を考えながら練習する	140分 140分
第6回	重唱曲③、④ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲③、④テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える 事後 重唱曲③、④歌唱法、表現法の研究	140分 140分
第7回	重唱曲③、④ 表現の発展	事前 重唱曲③、④の楽譜の意味、発声、発音への配慮 事後 授業内での問題を確認し、解決する	140分 140分
第8回	重唱曲⑤、⑥ 読譜、発音を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥音程、音階、リズム等に気を付けて読譜練習する 事後 重唱曲⑤、⑥詩の内容を調べる	140分 140分
第9回	重唱曲⑤、⑥ 和声感、様式感を中心に	事前 重唱曲⑤、⑥詩の内容を考えながら練習する 事後 重唱曲⑤、⑥テンポ、強弱、アーティキュレーション等考える	140分 140分
第10回	重唱曲⑤、⑥ 表現の発展	事前 重唱曲⑤、⑥歌唱法、表現法の研究 事後 授業内での問題を確認し、解決する	140分 140分
第11回	重唱曲①～⑥からアンサンブルを組む	事前 重唱曲それぞれの背景、人間関係等を調べる 事後 重唱曲それぞれの背景、人間関係等を意識して練習する	140分 140分
第12回	発表作品を決め準備を進める1 表現を深める	事前 重唱曲それぞれの役柄の感情表現の変化を意識する 事後 重唱曲それぞれの役柄の感情表現の変化を確認し、練習する	140分 140分
第13回	発表作品を決め準備を進める2 伴奏を伴い暗譜する	事前 重唱曲それぞれのテンポ、強弱、アーティキュレーションを意識する 事後 重唱曲それぞれのテンポ、強弱、アーティキュレーションを確認し、練習する	140分 140分
第14回	発表作品を決め準備を進める3 演奏の質の向上を図る	事前 重唱曲それぞれの伴奏合わせをする 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善、暗譜をする	140分 140分
第15回	発表と合評 まとめ	事前 重唱曲それぞれの暗譜の確認と表現法の研究 事後 レッスンで指摘を受けた点の改善、演奏の質を高める	140分 140分

フィードバック 試演会を実施した後、成果と課題を話し合う。

成績評価 試演会 70% 授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

歌曲研究 I

声楽主任 教授 細谷美直

科目コード：VLE301

専門/学年： 声楽専門/専攻科1年次

形態：演習

単位数 1単位

概要 課題曲に加え、各々が選んだ日本歌曲をグループレッスンの形態で演習する。

- 到達目標
- ① 日本語唱法の特徴を知り、自然な歌唱を習得する。特に詩と音楽との関係に着目しながら日本歌曲の歌唱法を考え修得する。
 - ② 歌曲の黎明期から時代を追って様々な作曲家の作品を取り上げ、その解釈と演奏法を知る。

授業計画 以下の作曲家の作品の中から、各受講生の声、キャラクターにあったものを選択し、自然で美しい日本語歌唱に留意しながら、個々の演奏レパートリーとなるよう掘り下げていく
課題曲以外で各々が選んだ日本歌曲を演習する

第1回	ガイダンス、試聴会並びに曲目を決める	事前 楽譜を準備し、履修計画をたてる 事後 履修する計画を確認し、準備する	140分 130分
第2回	日本歌曲黎明期の作品 日本語歌唱の基礎を学ぶ	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第3回	山田耕筰の作品① 特にその多様な表現記号に着目し演奏法を学ぶ	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第4回	山田耕筰の作品② 全週の学習を踏まえ、さらに表現を深める	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第5回	信時潔、橋本国彦、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第6回	平井康三郎、清水修、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第7回	高田三郎、大中恩、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第8回	團伊玖磨、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第9回	中田喜直① 多くの作品群から選択して研究する	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第10回	中田喜直② 前週の作品の表現をさらに掘り下げる	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第11回	三善晃、林光、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第12回	木下敬子、なかにしあかね、他の作品	事前 読譜し練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第13回	既習曲から選曲し発表の準備をする	事前 既習曲を確認し、練習する 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第14回	選択した楽曲を仕上げ	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分
第15回	選択した楽曲を発表し、合評する	事前 ピアニストと合わせを重ねる 事後 授業内での問題点を確認し、解決を図る	140分 130分

フィードバック 試演後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。

成績評価 試演会 70% 授業への積極的な取り組み 30%

テキスト 授業内で紹介、指示する。

オフィスアワー 授業終了後、担当教員レッスン室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

民族音楽学特殊講義

非常勤講師 丸山洋司

科目コード：LEC305

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：講義

単位数 2単位

概要 本授業では、世界の様々な地域で伝統的に使われてきた楽器をとりあげ、素材や構造、起源や伝播の歴史などについて考察する。可能な限り、実演を交えた解説、楽器に触れて音を鳴らす時間を取り入れることによって、それぞれの楽器の魅力を身体で感じ取ることができるような授業を目指す。

到達目標 楽器の構造の多様性や、素材とその楽器が生まれた地域の風土との関連性、楽器の伝播の経路について考察することができるようになる。楽器に関する先行研究について辞典やデータベース検索、ウェブサイトなどで調べ、文献表を作成し、新しい研究の可能性を模索することができるようになる。

授業計画

第1回	オリエンテーション：本講義でとりあげる楽器および文献表作成手順についての説明	事前 シラバスを読んで、授業の概要と目標を理解する。 事後 本授業で取り上げる楽器について、文献およびウェブサイトを確認する。	120分 160分
第2回	アフリカの楽器（1）ラメラフォン	事前 アフリカの楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第3回	アフリカの楽器（2）アサラト	事前 アフリカの楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第4回	インドの楽器（1）北インド古典音楽の楽器	事前 北インド古典音楽に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第5回	インドの楽器（2）ラジャースターン地方の楽器	事前 ラジャースターン地方の楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第6回	ヨーロッパの古楽器（1）タンゲンテンフリューゲルとマンドーラ	事前 タンゲンテンフリューゲルとマンドーラに関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第7回	ヨーロッパの古楽器（2）ハーディガーディとギタローネ	事前 ハーディガーディとギタローネに関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第8回	ミャンマーの楽器（1）パツラーとスィーワー	事前 ミャンマーの楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第9回	ミャンマーの楽器（2）サインワイン	事前 ミャンマーの楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第10回	タイの楽器	事前 タイの楽器に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第11回	中国の京劇で使用される楽器	事前 京劇に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第12回	モンゴルの楽器	事前 モンゴルの音楽に関する文献表を作成する。 事後 授業時に得た情報をもとに、文献表の改訂版を作成する。	120分 160分
第13回	学生による楽器に関するプレゼンテーション&ディスカッション（1）	事前 各自またはグループごとにプレゼンテーションの準備。 事後 授業でのディスカッションを踏まえ、レポートを作成。	120分 160分
第14回	学生による楽器に関するプレゼンテーション&ディスカッション（2）	事前 各自またはグループごとにプレゼンテーションの準備。 事後 授業でのディスカッションを踏まえ、レポートを作成。	120分 160分
第15回	学生による楽器に関するプレゼンテーション&ディスカッション（3）	事前 各自またはグループごとにプレゼンテーションの準備。 事後 授業でのディスカッションを踏まえ、レポートを作成。	120分 160分

フィードバック ・各学生が作成した文献表について、授業時にチェックした上で、補足が必要な場合は適宜アドバイスする。
・授業でのグループ発表あるいは個人発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末レポート 50% プレゼンテーション 40% 授業への参加姿勢 10%

テキスト ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999年）
・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー ・授業終了後教室にて、もしくはEメールにて相談の上、対応する。 hiromaru886@hotmail.com または ball.60000622@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 ・可能であれば、適宜、授業時間内に上野学園大学の楽器展示室や東京藝術大学の小泉文夫資料室で楽器を閲覧する時間を設ける。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

音楽心理学特殊講義

非常勤講師 星野悦子

科目コード：LEC306

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：講義	単位数 2 単位
概要	音楽心理学とは、音楽的行動（聴取、演奏など）とそれに随伴する精神活動についてのメカニズムの科学的な理解・説明を目指す心理学である。本講義では、現代の広範な音楽心理学を深く理解するため、関連諸領域の影響を含めた音楽心理学の源流、および多彩な変遷と展開について、新たな研究トピックスを交えつつ講じていく。主要テーマは、音楽の認知および感情の基礎的・応用的研究である。
到達目標	演奏、音楽教育、音楽療法など、音楽的行動・活動に携わる学習者に必要な音楽心理学の基礎知識を身に付けるとともに、その研究方法を学び、最前線の研究動向を知る中から、現在の音楽心理学の特徴および音楽教育、音楽療法との関係性などを俯瞰し、現場でも役に立つ力を養う。
授業計画	テキストとプリントを用いながら、以下の内容でスライド授業を行なう。

第1回	音楽心理学の源流（1）：音楽心理学の定義、歴史と変遷	事前 テキスト第1章1～3節を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第2回	音楽心理学の源流（2）：研究方法、主要なテーマの紹介	事前 テキスト第1章の第5節を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第3回	音楽心理学の源流（3）：音響学と聴覚心理学からの影響	事前 テキスト第2章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第4回	現在の音楽心理学（1）：その特徴～広範化・学際化・国際化	事前 テキスト第1章後半を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第5回	現在の音楽心理学（2）：音楽の知覚と認知	事前 テキスト第3章と4章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第6回	現在の音楽心理学（3）：音楽と感情・情動	事前 テキスト第7章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第7回	現在の音楽心理学（4）：悲しい音楽をなぜ聴くのか？	事前 プリントを読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第8回	現在の音楽心理学（5）：音楽と愉悦の関係	事前 プリントを読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第9回	音楽の進化心理学～音楽の起源と進化	事前 プリントを読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第10回	演奏の心理学～演奏を生み出す心と体	事前 テキスト第10章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第11回	音楽心理学と音楽療法の関係～目的・役割・領域など	事前 テキスト第12章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第12回	音楽的発達（1）：乳児期・幼児期の音楽行動の発達	事前 テキスト第8章1～3節を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第13回	音楽的発達（2）：児童期・青年期・成人期の音楽行動の発達	事前 テキスト第8章4～6節を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第14回	音楽の社会心理学～性格・ジェンダー・音楽の好みなど	事前 テキスト第11章を読んでおく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、質問またはコメントを提出する。	110分 160分
第15回	全体の総括	事前 講義全体を振り返り、質問を準備しておく。 事後 ノートの整理と振り返りを行ない、全体を通しての質問またはコメントを提出する。	110分 160分

フィードバック 授業後に、質問とコメントの提出を求める。次の授業で回答および補足説明を行なう。随時、ミニレポート課題を出す。

成績評価 受講態度、ならびにミニレポート課題の提出状況にて判断する（30%）。授業内での期末試験（あるいは本レポート）を実施するので、その成績で評価する(70%)。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』誠信書房

オフィスアワー 授業後の教室にて対応する。メールでの質問も受け付ける。

備考 授業の進度等によっては内容の順序が前後することもあり得る。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									

室内楽 I-1

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN303

専門／学年： 全専門／専攻科 1 年次

形態：実技

単位数 1 単位

概要 「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。

到達目標 室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。

授業計画 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。
・必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと。

第 1 回	オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前 古典の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する 事後 演奏メンバーで話し合い、合わせの日程を決める	135 分 135 分
第 2 回	バロック音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第 3 回	バロック音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第 4 回	バロック音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135 分 135 分
第 5 回	バロック音楽④ 和声考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第 6 回	バロック音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第 7 回	古典派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第 8 回	古典派音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第 9 回	古典派音楽③ 和声考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第 10 回	古典派音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第 11 回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自時代背景を復習する	135 分 135 分
第 12 回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自表現方法を復習する	135 分 135 分
第 13 回	発表会で演奏する楽曲③ 和声考えた音程のとり方	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135 分 135 分
第 14 回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 各自演奏形式を復習する	135 分 135 分
第 15 回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前 メンバーで合わせ練習を実施 事後 発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135 分 135 分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25% 授業態度 25% 授業の取り組み 50%

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

室内楽 I-2

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN304

専門／学年： 全専門／専攻科1年次

形態：実技

単位数 1単位

概要 「室内楽」では異なる楽器同士の学生と相談の上、室内楽曲を取り上げ授業を進める。その中で各楽器の特性や演奏法の違いを理解し、旋律と副旋律、伴奏の表現の違いを研究する。また時代背景も考慮し、その時代様式に即した表現方法を研究する。

到達目標 室内楽曲の演奏を通して異なる楽器同士のアンサンブルを、音色、音程、アタック、ニュアンス、和声を考慮し、アンサンブルの中で自分の役割を理解して演奏できるようになることを目標とする。

授業計画 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で、自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

第1回	後期オリエンテーション 取り上げる楽曲の選定	事前 事後	ロマン派、近代音楽の弦楽四重奏を数曲聴いてから授業に参加する 演奏メンバーで話し合い合わせの予定を決める	135分 135分
第2回	ロマン派音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 事後	必ずメンバーで合わせ練習をしてから授業に臨むこと 各自時代背景を復習する	135分 135分
第3回	ロマン派音楽② 各楽器の音色の違いによる表現方法について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自表現方法を復習する	135分 135分
第4回	ロマン派音楽③ 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自発音やニュアンスの表現法について復習する	135分 135分
第5回	ロマン派音楽④ 和声考えた音程のとり方	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分 135分
第6回	ロマン派音楽⑤ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自演奏形式を復習する	135分 135分
第7回	近代音楽① 作品の時代背景や様式について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自時代背景を復習する	135分 135分
第8回	近代音楽② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自表現方法を復習する	135分 135分
第9回	近代音楽③ 和声考えた音程のとり方	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分 135分
第10回	近代音楽④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自演奏形式を復習する	135分 135分
第11回	発表会で演奏する楽曲① 作品の時代背景や様式について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自時代背景を復習する	135分 135分
第12回	発表会で演奏する楽曲② 楽器の違いによる発音やニュアンスの表現法について	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自表現方法を復習する	135分 135分
第13回	発表会で演奏する楽曲③ 和声考えた音程のとり方	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自和声考えた音程のとり方を復習する	135分 135分
第14回	発表会で演奏する楽曲④ 形式を考慮した楽曲の完成	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 各自演奏形式を復習する	135分 135分
第15回	リハーサル 発表会に向けて仕上げる	事前 事後	メンバーで合わせ練習を実施 発表会に向けて個人練習、合わせ練習をする。	135分 135分

フィードバック 発表会后教員からコメントを受けることでフィードバックとする。

成績評価 発表会の演奏 25% 授業態度 25% 授業の取り組み 50%

テキスト 教員からの指示あり

オフィスアワー 授業前後、メールでも予約を受け付ける。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発働能力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					

ウィンドアンサンブル研究 I-1

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN305

専門/学年： 全専門/専攻科1年次

形態：実技 単位数 1単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
また専攻科では楽曲の時代背景を調べ、より多くの情報を得てから授業に臨むこと。

到達目標 年2回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
また専攻科では演奏会のパンフレット、演奏会当日のプログラム作成等運営にも関わる。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習(予習、復習)の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第1回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアーレ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第2回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第3回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート1」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第4回	F.v.スッペ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第5回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第6回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135分 135分
第7回	V.ウィリアムズ 「トッカータ・マルツィアーレ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第8回	J.バーンズ 「詩的間奏曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第9回	A.リード 「アルメニアン・アンダンス パート1」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第10回	F.v.スッペ 「軽騎兵序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第11回	R.ワーグナー 「葬送行進曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第12回	C.オルフ 「カルミナ・ブラーナ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135分 135分
第13回	全曲① テクニックを中心に	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135分 135分
第14回	全曲② 音楽表現を中心に	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135分 135分
第15回	全曲③ まとめ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135分 135分

フィードバック 演奏会終了後、複数のウィンドアンサンブル教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 授業への積極的な取り組み 60% 演奏会 40%

テキスト 授業内にて指示をする。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。メールにて予約も可能。

備考 授業、本番では上記の曲を目標にしているが、曲目を変更する場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

ウィンドアンサンブル研究 I-2

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN306

専門/学年： 全専門/専攻科 1 年次

形態：実技 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
また専攻科では楽曲の時代背景を調べ、より多くの情報を得てから授業に臨むこと。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
また専攻科では演奏会のパンフレット、演奏会当日のプログラム作成等運営にも関わることが望ましい。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	A.コーブランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 2 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコーラル」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 3 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 4 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 5 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 6 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	135 分 135 分
第 7 回	A.コーブランド 「戸外のための序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 8 回	J.V.ロースト 「カンタベリーコーラル」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 9 回	P.スパーク 「宇宙の音楽」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 10 回	J.ブラームス 「大学祝典序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 11 回	協奏曲(学生による)	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 12 回	C.ドビュッシー 「海」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	135 分 135 分
第 13 回	全曲① テクニックを中心に	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135 分 135 分
第 14 回	全曲② 音楽表現を中心に	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135 分 135 分
第 15 回	全曲③ まとめ	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	135 分 135 分

フィードバック 演奏会終了後、複数のウィンドアンサンブル教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 授業への積極的な取り組み 60% 演奏会 40%

テキスト 授業内にて指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。メールにて予約も可能。

備考 授業、本番では上記の曲を目標にしているが、曲目を変更する場合もある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

フルートオーケストラ研究 I-1

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN307

専門/学年： 器楽専門/専攻科1年次

形態：実技 単位数 1単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を2種類は演奏できるようにする。

授業計画

- ・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。
- ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

第1回	特殊楽器を紹介・試奏 (ソプラノフルート・アルトフルート) (短大時に吹かなかった楽器を試奏)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105分 105分
第2回	特殊楽器を紹介・試奏 (バスフルート・コントラバスフルート) (短大時に吹かなかった楽器を試奏)	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105分 105分
第3回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (フルートの弱点を知る)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第4回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音合わせの仕方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第5回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第6回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (ユニゾンの音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第7回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (平均律、純正律を学ぶ)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第8回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (2声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第9回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ (4声の音程の合わせ方)	事前 テキストの予習 (コンサートフルートで確認をする) 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第10回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第11回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (時代背景、演奏法を学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第12回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (テクニックを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第13回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (バランスを中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第14回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 (表現を中心に学ぶ)	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分 105分
第15回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105分 105分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 教員からの指示あり。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働能力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

フルートオーケストラ研究 I-2

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード： IEN308

専門/学年： 器楽専門/専攻科1年次

形態：実技

単位数 1単位

概要 日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。

到達目標 この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶことを目標とする。専攻科生は短大時に経験していない特殊楽器を2種類は演奏できるようにする。

授業計画		事前		事後		合計
第1回	コンサートに向け楽曲の練習 (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第2回	コンサートに向け楽曲の練習 (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第3回	コンサートに向け楽曲の練習 (和音を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第4回	コンサートに向け楽曲の練習 (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第5回	コンサートに向け楽曲の練習 (音程を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第6回	コンサートに向け楽曲の練習 (音色を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第7回	コンサートに向け楽曲の練習 (バランスを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第8回	コンサートに向け楽曲の練習 (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105分	210分
第9回	コンサートに向け楽曲の練習 (仕上げ練習)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第10回	ゲネプロ (曲順で練習)、櫻樹祭コンサート	櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第11回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (譜読みを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第12回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (時代背景、演奏法を学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第13回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (テクニックを中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第14回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ (表現を中心に学ぶ)	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105分	210分
第15回	ゲネプロ (曲順で練習)、授業後発表会	特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105分	210分
		特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	105分	授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105分	210分

フィードバック 毎回の課題に対し教員からのコメントをフィードバックとする。

成績評価 発表・コンサート 20% 課題 40% 授業態度 40%

テキスト 教員からの指示があり

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的責任力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	